

原子力施設 環境放射線調査報告書

(平成21年度第4四半期報)

青 森 県

ま え が き

青森県は、平成元年４月から原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング計画に基づき、日本原燃株式会社とともに環境放射線等の調査を実施しています。また、平成１５年４月から東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング計画に基づき、東北電力株式会社とともに環境放射線の調査を実施しています。リサイクル燃料備蓄センターについては平成２４年７月操業予定であり、平成２０年４月からリサイクル燃料備蓄センターに係る環境放射線モニタリング計画に基づき、リサイクル燃料貯蔵株式会社とともに環境放射線の事前調査を実施しています。

平成２２年１月から３月までの平成２１年度第４四半期における原子力施設の状況として、原子燃料サイクル施設については平成１８年３月３１日から六ヶ所再処理工場においてアクティブ試験（使用済燃料による総合試験）を実施しています。東通原子力発電所については、平成２１年９月から実施していた第３回定期検査が平成２２年１月７日に終了し、その後は定格電気出力で運転しています。リサイクル燃料備蓄センターについては、平成１９年３月２２日に事業許可申請を国に提出し、安全審査が行われています。

本報告書は、平成２１年度第４四半期について、青森県及び各事業者が実施した原子力施設周辺における空間放射線及び環境試料中の放射能濃度等の調査結果をとりまとめたものです。

平成２２年７月

青 森 県

目 次

〔原子燃料サイクル施設〕

1. 調 査 概 要	3
(1) 実施者	3
(2) 期間	3
(3) 内容	3
(4) 測定方法	3
2. 調 査 結 果	6
(1) 空間放射線	6
(2) 環境試料中の放射能	11
(3) 環境試料中のフッ素	19

資 料

1. 青森県実施分測定結果	23
(1) 空間放射線量率測定結果	24
モニタリングステーションによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果	24
(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果	25
モニタリングポストによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果	26
モニタリングカーによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果	27
(2) 積算線量測定結果 (RPLD)	28
(3) 大気浮遊じん中の全 α 及び全 β 放射能測定結果	29
(4) 大気中の気体状 β 放射能測定結果 (クリプトン - 85 換算)	30
(5) 大気中のヨウ素 - 131 測定結果	31
(6) 環境試料中の放射能測定結果	32
(7) 大気中の水蒸気状トリチウム測定結果	34
(8) 大気中の気体状フッ素測定結果	35
(9) 環境試料中のフッ素測定結果	35
(10) 気象観測結果	36
風速・気温・湿度・降水量・積雪深	36
大気安定度出現頻度表	37
風配図	38
2. 事業者実施分測定結果	39
(1) 空間放射線量率測定結果	40
モニタリングステーションによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果	40
(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果	40
(2) 積算線量測定結果 (RPLD)	41
(3) 大気浮遊じん中の全 α 及び全 β 放射能測定結果	42
(4) 大気中の気体状 β 放射能測定結果 (クリプトン - 85 換算)	43
(5) 大気中のヨウ素 - 131 測定結果	43
(6) 環境試料中の放射能測定結果	44

（ 7 ）大気中の水蒸気状トリチウム測定結果	46
（ 8 ）大気中の気体状フッ素測定結果	46
（ 9 ）環境試料中のフッ素測定結果	46
（10）気象観測結果	47
風速・気温・湿度・降水量・積雪深	47
大気安定度出現頻度表	48
風配図	49
3．原子燃料サイクル施設操業状況（事業者報告）	51
（ 1 ）ウラン濃縮工場の操業状況	52
（ 2 ）低レベル放射性廃棄物埋設センターの操業状況	54
（ 3 ）高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターの操業状況	56
（ 4 ）再処理工場の操業状況	57
参考資料	61
1 モニタリングポスト測定結果	62
（1）再処理事業所モニタリングポスト測定結果	62
（2）濃縮・埋設事業所モニタリングポスト測定結果	64
2 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果	65
3 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果	65
4 気象観測結果	67
4．原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング実施要領	69
5．空間放射線等測定地点図及び環境試料の採取地点図	81
6．原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング結果の評価方法	85
7．六ヶ所再処理工場の操業と線量評価について	93

〔東通原子力発電所〕

1．調 査 概 要	105
（ 1 ）実施者	105
（ 2 ）期間	105
（ 3 ）内容	105
（ 4 ）測定方法	105
2．調査結果	108
（ 1 ）空間放射線	108
（ 2 ）環境試料中の放射能	112

資 料

1．青森県実施分測定結果	119
（ 1 ）空間放射線量率測定結果	121
モニタリングステーション及びモニタリングポストによる 空間放射線量率（NaI）測定結果	121

(参考)モニタリングステーション及びモニタリングポストによる	
空間放射線量率(電離箱)測定結果	122
モニタリングカーによる空間放射線量率(NaI)測定結果	123
(2)積算線量測定結果(RPLD)	124
(3)大気浮遊じん中の全β放射能測定結果	125
(4)大気中のヨウ素-131測定結果	125
(5)環境試料中の放射能測定結果	126
(6)気象観測結果	128
風速・気温・湿度・降水量・積雪深	128
大気安定度出現頻度表	129
風配図	130
2.事業者実施分測定結果	131
(1)空間放射線量率測定結果	132
モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果	132
(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果	132
(2)積算線量測定結果(RPLD)	133
(3)環境試料中の放射能測定結果	134
(4)気象観測結果	136
降水量・積雪深	136
3.東通原子力発電所の運転状況(事業者報告)	137
(1)発電所の運転保守状況	138
(2)放射性物質の放出状況	139
参考資料	140
1 モニタリングポスト測定結果	141
2 排気筒モニタ測定結果	142
3 放水口モニタ測定結果	142
4 気象観測結果	143
4.東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施要領	145
5.空間放射線の測定地点図及び環境試料の採取地点図	155
6.東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング結果の評価方法	161

〔リサイクル燃料備蓄センター〕

1.調査概要	171
(1)実施者	171
(2)期間	171
(3)内容	171
(4)測定方法	171
2.調査結果	173
(1)空間放射線	173
(2)環境試料中の放射能	173

資	料	
1．青森県実施分測定結果		177
(1) 空間放射線量率測定結果		179
モニタリングポストによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果		179
(参考) モニタリングポストによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果		179
(2) 積算線量測定結果 (RPLD)		180
(3) 気象観測結果		180
降水量・積雪深		180
2．事業者実施分測定結果		181
(1) 積算線量測定結果 (RPLD)		183
3．リサイクル燃料備蓄センターに係る環境放射線モニタリング実施要領		185
4．空間放射線の測定地点図及び環境試料の採取地点図		191
〔自然放射線等による線量算出要領〕		195
〔付〕		
1．モニタリングポスト東北町役場局の周辺環境の変化について		207
2．モニタリングポイント出戸における積算線量測定場所の移動について		210
3．モニタリングステーションにおける大気浮遊じん中の全β放射能濃度 測定結果 (平成22年2月第4週) について		213
4．原子燃料サイクル施設に係る牧草 (第3団地) の採取場所の移動について		216
5．比較対照 (青森市) における表土の調査結果について		217
6．モニタリングポイント桜木町 (むつ市) の周辺環境の変化について		221

原子燃料サイクル施設

表中の記号（資料 3 . 原子燃料サイクル施設操業状況を除く）

- : モニタリング対象外を示す。
- : 今四半期の分析対象外を示す。
- ND : 定量下限値未満を示す。分析室等で実施する環境試料中放射性核種の分析測定については、測定条件や精度を一定の水準に保つため、試料・核種毎に定量下限値を定めている。
- * : **検出限界以下**を示す。モニタリングステーションにおいて自動的に採取・測定している大気浮遊じん中の全アルファ及び全ベータ放射能については、測定条件（採取空気量等）が変動するため、計数誤差の3倍を検出限界として設定している。

1 調査概要

(1) 実施者

青森県原子力センター
日本原燃株式会社

(2) 期間

平成 2 2 年 1 月 ~ 3 月 (平成 2 1 年度第 4 四半期)

(3) 内容

調査内容は、表 1 - 1、表 1 - 2 (1) 及び表 1 - 2 (2) に示すとおりである。

(4) 測定方法

『原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング実施要領』による(「資料」参照)。

表 1 - 1 空間放射線

測 定 項 目			測 定 頻 度	地 点 数		
				区 分	青 森 県	事 業 者
空間放射線量率	モニタリングステーション		連 続	施 設 周 辺 地 域	5	3
				比較対照(青森市)	1	-
	モ ニ タ リ ン グ ポ ス ト		連 続	施 設 周 辺 地 域	6	-
	モニタリングカー	定点測定	1 回 / 3 箇月	施 設 周 辺 地 域	23	-
				比較対照(青森市)	1	-
		走行測定	1 回 / 3 箇月	施 設 周 辺 地 域	9ルート	-
R P L D に よ る 積 算 線 量			3 箇 月 算 積	施 設 周 辺 地 域	23	13
				比較対照(青森市)	1	-

表 1 - 2 (1) 環境試料中の放射能及びフッ素 (モニタリングステーション)

試 料 の 種 類			地 点 数							
			青 森 県				事 業 者			
			全 α・全 β放射能	β 放 射 能	ヨ ウ 素 131	フ ッ 素	全 α・全 β放射能	β 放 射 能	ヨ ウ 素 131	フ ッ 素
施設 周辺 地域	大気浮遊じん	1 回 / 週	5	-	-	-	3	-	-	-
	大 気 (気 体 状)	連 続	-	5	-	-	-	3	-	-
			-	-	-	1	-	-	-	3
	大 気	1 回 / 週	-	-	5	-	-	-	3	-
比 (青 較 森 対 市 照)	大気浮遊じん	1 回 / 週	1	-	-	-	-	-	-	-
	大 気 (気 体 状)	連 続	-	1	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	1	-	-	-	-
	大 気	1 回 / 週	-	-	1	-	-	-	-	-

表1 - 2 (2) 環境試料中の放射能及びフッ素 (機器分析等)

試料の種類			青森県										事業者											
			地 点 数	検体数									地 点 数	検体数										
				γ線 放出 核種	トリチウム	炭素 14	ストロンチウム 90	ヨウ素 129	プルトニウム	アメリカシウム 241	キュリウム 244	ウラン素		γ線 放出 核種	トリチウム	炭素 14	ストロンチウム 90	ヨウ素 129	プルトニウム	アメリカシウム 241	キュリウム 244	ウラン素		
陸上試験料	大気浮遊じん		5	5	-	-	5	-	5	-	-	1	-	3	3	-	-	3	-	3	-	-	3	-
	大気（水蒸気状）		2	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-
	大気（粒子状・気体状）		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	雨		1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	降下物		1	3	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	河川					-	-	-	-	-	-	-					-		-		-			
	湖沼					-		-	-	-	-	-					-		-		-			
	水道		1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	4	4	4	-	4	-	4	-	-	-	-
	井戸		1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	2	2	2	-	2	-	-	-	-	-	-
	河底				-	-	-	-	-	-	-	-				-	-		-	-	-			
	湖底				-	-		-								-	-		-					
	表土				-	-							-			-	-							
	牛乳（原乳）		3	3	-	-	3	-	-	-	-	1	1	4	4	-	-	4	-	-	-	-	2	2
	精米				-			-		-	-					-			-		-			
	野菜		ハクサイ、キャベツ			-			-		-	-	-				-			-		-		
			ダイコン			-			-		-	-	-	-			-	-		-		-	-	-
			ナカイモ、ハレショ			-			-		-	-	-	-				-			-		-	-
	牧草				-	-		-		-	-					-	-		-	-	-			
	デントコーン		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			-	-		-	-	-	-	-	-
	淡水産食品		ワカサギ			-	-		-		-	-	-			-	-		-		-	-		
			シジミ			-	-		-		-	-	-	-			-	-		-		-	-	-
	指標生物		松葉			-	-	-	-	-	-		-			-	-	-	-	-	-	-	-	-
海洋試験料	海					-		-		-	-	-	3	3	3	-	3	-	3	-	-	-	-	
	海底				-	-		-				-				-	-				-	-		
	海産食品	ヒラメ、カレイ				-		-		-	-	-				-			-		-	-	-	
		イカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				-	-		-		-	-	-	
		ホタテ、アワビ			-	-		-		-	-	-				-	-		-		-	-	-	
		ヒラツメガニ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				-	-		-		-	-	-	
		ウニ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				-	-		-		-	-	-	
	コンブ			-	-		-		-	-	-	-			-	-		-		-	-	-		
指標生物	チガイソ			-	-		-		-	-	-			-	-	-	-	-	-	-	-			
ムラサキガイ			-	-		-		-	-	-	-			-	-	-	-	-	-	-	-			
比較対照（青森市）	大気浮遊じん		1	1	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大気（水蒸気状）		1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大気（粒子状・気体状）		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	表土				-	-							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	精米			-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
指標生物		松葉			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計			18	14	14		12		7			4	3	21	16	18		16		10			5	4
			54										69											

・ プルトニウムはプルトニウム - (239+240)。
・ ウランはウラン - 234、ウラン - 235及びウラン - 238の合計。

2 調査結果

平成 21 年度第 4 四半期（平成 22 年 1 月～3 月）における空間放射線及び環境試料中の放射能濃度等は、これまでと同じ水準であった。

（１）空間放射線

モニタリングステーション、モニタリングポスト及びモニタリングカーによる空間放射線量率測定並びに R P L D による積算線量測定を実施した。

空間放射線量率（N a I）

（a）モニタリングステーション（図 2 - 1）

各測定局における測定値は、過去の測定値¹と同じ水準であった。

各測定局における今四半期の平均値は 17 ～ 24 nGy/h、最大値は 41 ～ 57 nGy/h、最小値は 12 ～ 20 nGy/h であり、月平均値は 15 ～ 26 nGy/h であった。

平常の変動幅²を上回った測定値は、すべて降雨等³によるものであった。

（b）モニタリングポスト（図 2 - 2）

各測定局における測定値は、過去の測定値と同じ水準であった。

各測定局における今四半期の平均値は 16 ～ 24 nGy/h、最大値は 46 ～ 66 nGy/h、最小値は 11 ～ 18 nGy/h であり、月平均値は 14 ～ 26 nGy/h であった。

平常の変動幅を上回った測定値は、すべて降雨等によるものであった。

（c）モニタリングカー（図 2 - 3）

定点測定における測定値は 11 ～ 18 nGy/h、走行測定における測定値は 9 ～ 21 nGy/h であり、過去の測定値と同じ水準であった。

R P L D による積算線量（図 2 - 4）

測定値は 76 ～ 104 μ Gy/91 日であり、過去の測定値と同じ水準であった。

事業者実施分の 1 地点（新町）で平常の変動幅を下回ったが積雪の影響と考えられる。

1：「過去の測定値」は空間放射線については前年度までの5年間（平成16～20年度）の測定値。

ただし、モニタリングカーの走行測定については平成19～20年度の測定値。

2：「平常の変動幅」は、空間放射線量率（モニタリングステーション、モニタリングポスト）については「過去の測定値」の「平均値 $\pm$ （標準偏差の3倍）」、RPLDによる積算線量については「過去の測定値」の「最小値～最大値」。

3：「降雨等」とは、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などである。空間放射線量率は、降雨雪時に雨や雪に取り込まれて地表面に落下したラドンの壊変生成物の影響により上昇し、積雪により大地からの放射線が遮へいされることにより低下する。また、医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響により測定値が上昇することがある。

図2-1 モニタリングステーションによる空間放射線量率（NaI）測定結果

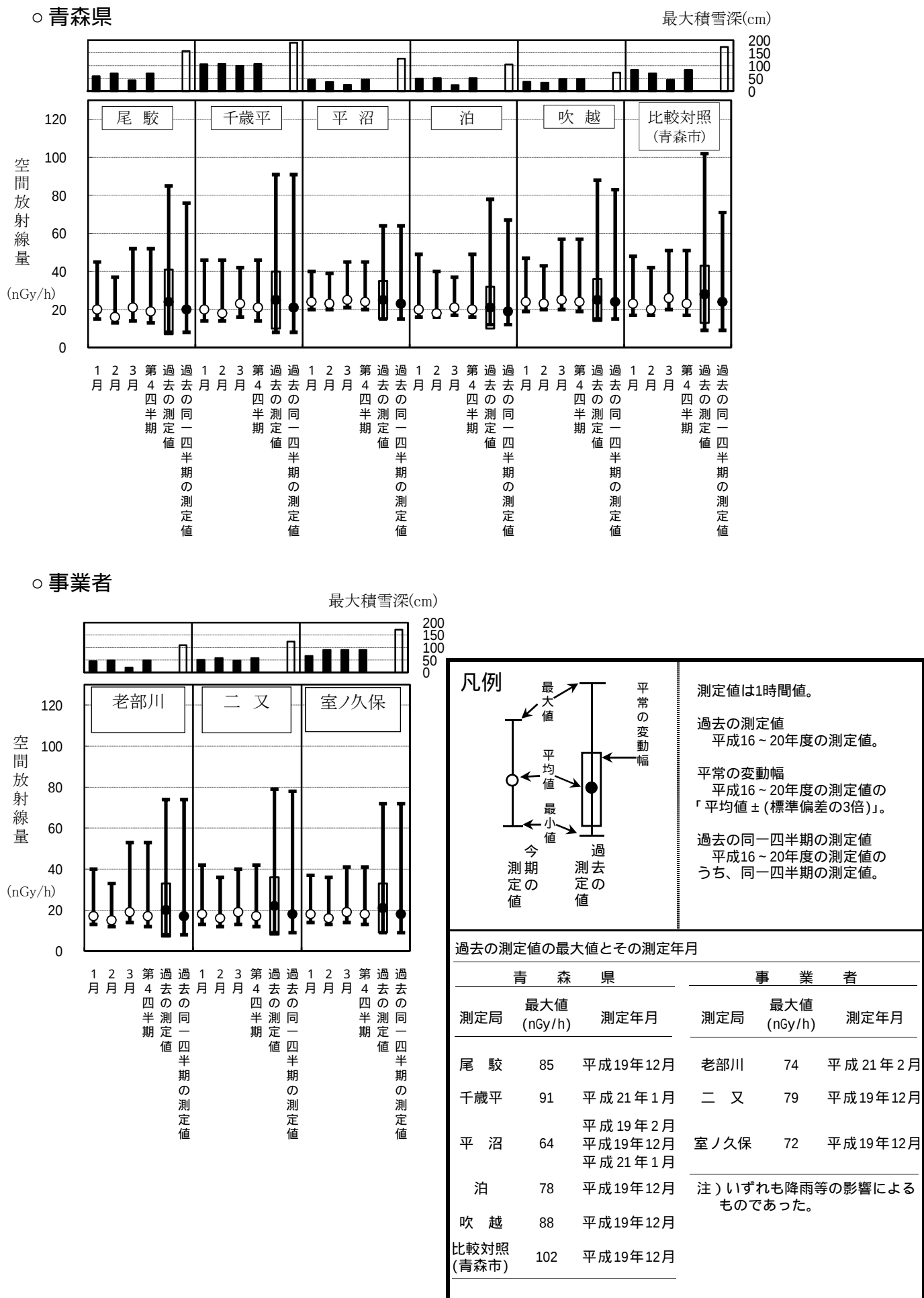
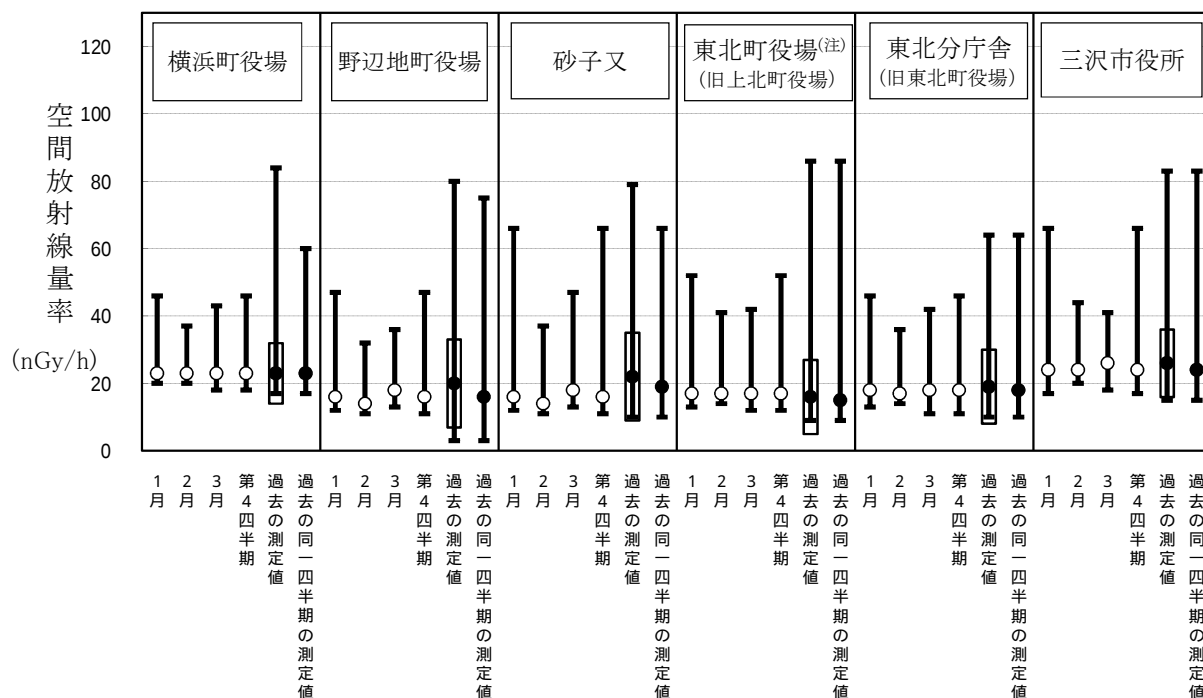


図 2 - 2 モニタリングポストによる空間放射線量率（NaI）測定結果



凡例

最大値

平均値

最小値

平常の変動幅

今期の測定値

過去の測定値

測定値は1時間値。

過去の測定値

平成16～20年度の測定値。

平常の変動幅

平成16～20年度の測定値の
「平均値±（標準偏差の3倍）」。

過去の同一四半期の測定値

平成16～20年度の測定値のうち、同
一四半期の測定値。

過去の測定値の最大値とその測定年月

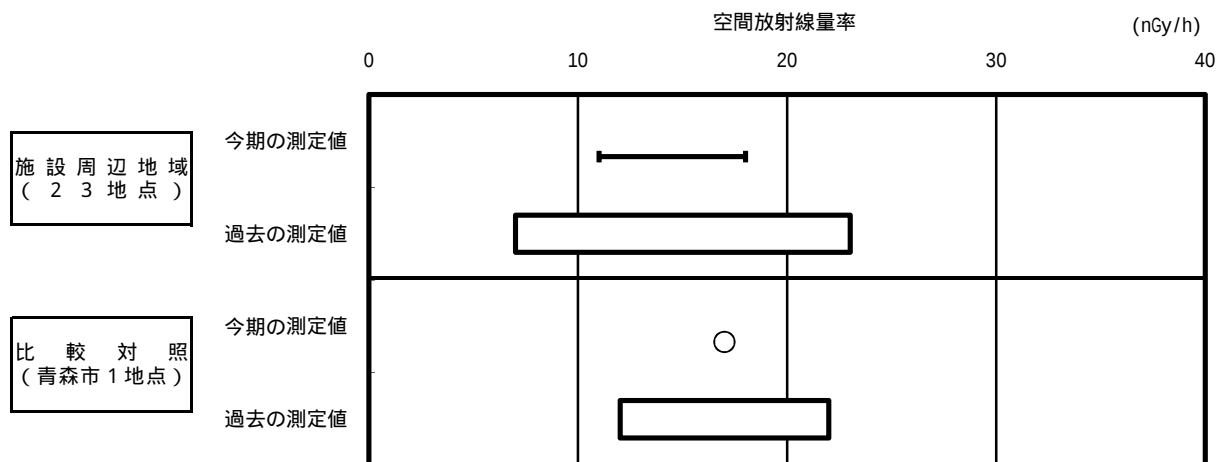
測 定 局	最大値 (nGy/h)	測定年月
横浜町役場	84	平成19年12月
野辺地町役場	80	平成19年12月
東通村役場	79	平成16年12月
東北町役場 (旧上北町役場)	86	平成19年2月
東北分庁舎 (旧東北町役場)	64	平成21年1月
三沢市役所	83	平成19年2月

注) いずれも降雨等の影響によるものであった。

(注)東北町役場については、駐車場拡張工事により周辺環境が変化したことから測定値の取扱いについて検討した。
その結果、バックグラウンドレベルに変化があると考えられたことから、平常の変動幅については平成22年度第1四半期から新たにデータの蓄積を行い、1年間以上のデータが蓄積された時点で暫定的に平常の変動幅として用いる（付1）。

図 2 - 3 モニタリングカーによる空間放射線量率測定結果

○ 定点測定



○ 走行測定

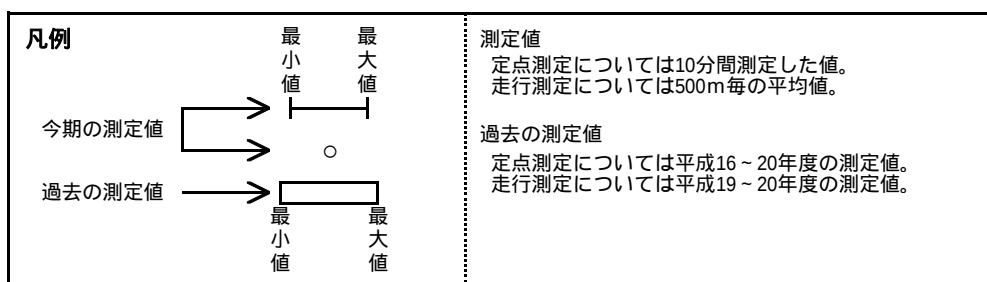
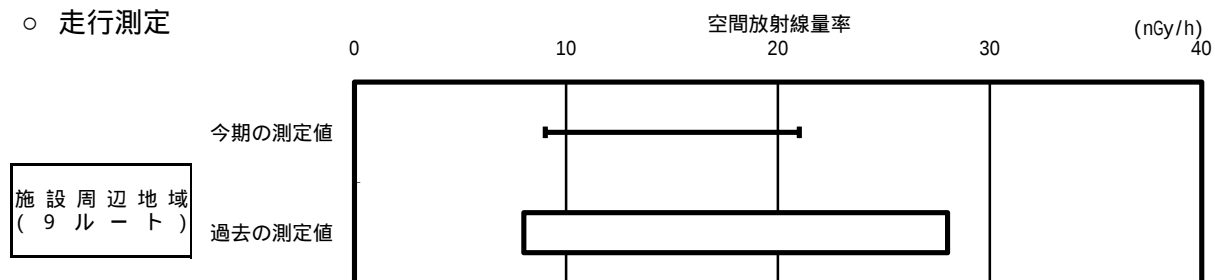
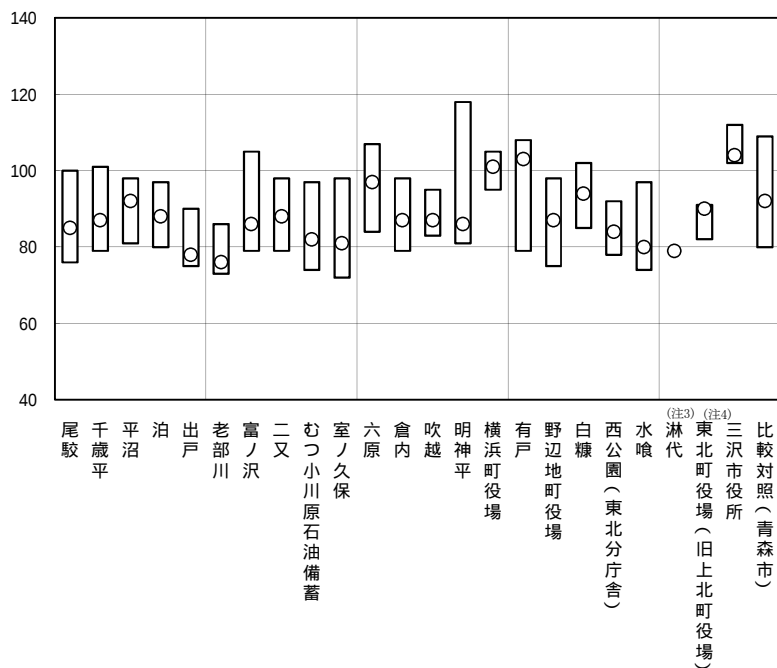


図2 - 4 RPLDによる積算線量測定結果^(注1)

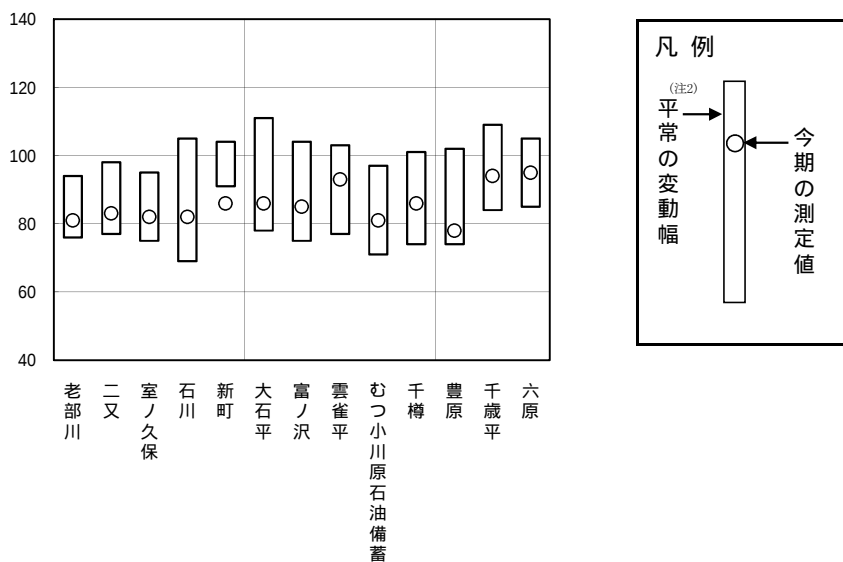
○ 青森県

($\mu\text{Gy}/91\text{日}$)



○ 事業者

($\mu\text{Gy}/91\text{日}$)



(注1) 測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。

(注2) 「平常の変動幅」は平成16年4月～平成21年3月の測定値の「最小値～最大値」。

ただし、新町については平成19年4月～平成21年3月の測定値の「最小値～最大値」。

(注3) 平成21年度第1四半期の測定期間中に測定場所を移動した。平常の変動幅については平成21年度第2四半期から新たにデータの蓄積を行い、1年間以上のデータが蓄積された時点で暫定的に平常の変動幅として用いる。

(注4) 東北町役場については、駐車場拡張工事により周辺環境が変化したことから測定値の取扱いについて検討した。その結果、バックグラウンドレベルに変化があると考えられたことから、平常の変動幅については平成22年度第1四半期から新たにデータの蓄積を行い、1年間以上のデータが蓄積された時点で暫定的に平常の変動幅として用いる(付1)。

(2) 環境試料中の放射能

大気浮遊じん中の全 α （アルファ）及び全 β （ベータ）放射能測定、大気中の気体状 β 放射能測定、大気中のヨウ素 - 131 測定、機器分析及び放射化学分析を実施した。

大気浮遊じん中の全 α 及び全 β 放射能測定⁴（表2 - 1）

測定値は、全 α 放射能が * ~ 0.096 mBq/m³、全 β 放射能が * ~ #1.7⁵mBq/m³であり、いずれも過去の測定値⁶と同じ水準であった。

尾駱局、平沼局で全 β 放射能の測定値が平常の変動幅⁷を上回ったが、環境レベルの変動と考えられる（付3）。

大気中の気体状 β 放射能測定（表2 - 2）

測定値は、すべて ND であり、過去の測定値と同じ水準であった。

大気中のヨウ素 - 131 測定（表2 - 3）

測定値は、これまでと同様にすべて ND であった。

機器分析及び放射化学分析

γ （ガンマ）線放出核種については、ゲルマニウム半導体検出器による機器分析を、トリチウム、ストロンチウム - 90 及びウランについては、放射化学分析を実施した。

なお、炭素 - 14（表2 - 6）、ヨウ素 - 129（表2 - 8）、アメリシウム - 241（表2 - 10）及びキュリウム - 244（表2 - 11）については、今期の分析対象外である。

○ γ 線放出核種分析（表2 - 4）

人工放射性核種であるセシウム - 137の測定値はすべて ND であり、過去の測定値と同じ水準であった。

その他の人工放射性核種については、これまでと同様にすべて ND であった。

○ トリチウム分析（表2 - 5）

測定値は、すべて ND であり、過去の測定値と同じ水準であった。

4：168時間集じん終了後72時間放置、1時間測定。

5：#は、平常の変動幅を外れた測定値。

6：「過去の測定値」は、環境試料中の放射能についてはそれぞれの調査を開始した年度から前年度までの測定値。

7：「平常の変動幅」は、環境試料中の放射能については、調査を開始した年度から前年度までの測定値の「最小値～最大値」。

- ストロンチウム - 90 分析 (表 2 - 7)

降下物が 0.11 Bq/m²、井戸水がND ~11 mBq/l、その他はすべて ND であり、過去の測定値と同じ水準であった。

- プルトニウム分析 (表 2 - 9)

降下物が 0.006 Bq/m²、その他はすべて ND であり、過去の測定値と同じ水準であった。

- ウラン分析 (表 2 - 12)

降下物が 1.0 Bq/m²、その他はすべて ND であり、過去の測定値と同じ水準であった。

表 2 - 1 大気浮遊じん中の全α及び全β放射能測定結果

(単位: mBq/m³)

実施者	測 定 局	測 定 値		平 常 の 変 動 幅	
		全 α	全 β	全 α	全 β
青 森 県	尾 駱	0.015 ~ 0.096	0.30 ~ #1.7	* ~ 0.24	* ~ 1.6
	千 歳 平	* ~ 0.095	0.28 ~ 1.5	* ~ 0.21	* ~ 1.6
	平 沼	0.018 ~ 0.094	0.27 ~ #1.7	* ~ 0.23	* ~ 1.6
	泊	* ~ 0.074	0.20 ~ 1.3	* ~ 0.19	* ~ 1.3
	吹 越	* ~ 0.064	0.25 ~ 1.4	* ~ 0.20	* ~ 1.4
	比較対照(青森市)	0.015 ~ 0.090	0.22 ~ 1.5	* ~ 0.22	* ~ 1.6
事 業 者	老 部 川	* ~ 0.085	0.22 ~ 1.1	* ~ 0.22	* ~ 1.1
	二 又	* ~ 0.086	* ~ 0.90	* ~ 0.37	* ~ 1.3
	室 ノ 久 保	* ~ 0.071	0.33 ~ 1.2	* ~ 0.21	* ~ 1.3

- ・ 168 時間集じん終了後 72 時間放置、1 時間測定。
- ・ 「平常の変動幅」は平成 2 ~ 20 年度の測定値の「最小値 ~ 最大値」。ただし、尾駱局及び二又局については、平成元 ~ 20 年度の測定値の「最小値 ~ 最大値」。
- ・ # は平常の変動幅を外れた測定値。

表 2 - 2 大気中の気体状β放射能測定結果(クリプトン - 85 換算)

(単位: kBq/m³)

実施者	測 定 局	定 量 下限値	測 定 値	平常の変動幅	(参 考)	
					定量下限値以上 となった時間数 (うち、平常の変動 幅を上回った時間数)	アクティブ 試験開始前の 測定値の範囲
青 森 県	尾 駱	2	ND	ND ~ 9	0(0)	ND
	千 歳 平		ND	ND ~ 4	0(0)	ND
	平 沼		ND	ND	0(0)	ND
	泊		ND	ND ~ 2	0(0)	ND
	吹 越		ND	ND ~ 11	0(0)	ND
	比較対照(青森市)		ND	ND	0(0)	ND
事 業 者	老 部 川	2	ND	ND ~ 3	0(0)	ND
	二 又		ND	ND ~ 8	0(0)	ND
	室 ノ 久 保		ND	ND ~ 6	0(0)	ND

- ・ 測定値は 1 時間値。
- ・ 測定時間数は 3 箇月間で約 2,200 時間。
- ・ 「平常の変動幅」は平成 6 ~ 20 年度の測定値の「最小値 ~ 最大値」。
- ・ 「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は平成 6 ~ 17 年度の測定値の「最小値 ~ 最大値」。

表 2 - 3 大気中のヨウ素 - 131 測定結果

(単位: mBq/m³)

実施者	測 定 局	定 量 下限値	測 定 値	平 常 の 変 動 幅
青 森 県	尾 駱	0.2	ND	ND
	千 歳 平		ND	ND
	平 沼		ND	ND
	泊		ND	ND
	吹 越		ND	ND
	比較対照(青森市)		ND	ND
事 業 者	老 部 川	0.2	ND	ND
	二 又		ND	ND
	室 ノ 久 保		ND	ND

- ・ 「平常の変動幅」の期間は、青森県実施分については平成 17 ~ 20 年度の測定値の「最小値 ~ 最大値」。事業者実施分については平成 10 ~ 20 年度の測定値の「最小値 ~ 最大値」。

表2 - 4 γ線放出核種分析結果

試料の種類			単位	定 量 下 限 値	セ シ ウ ム - 137				
					青 森 県		事 業 者		平常の変動幅
					検 体 数	測 定 値	検 体 数	測 定 値	
陸 									

・測定対象核種はマンガン-54、コバルト-60、ルテニウム-106、セシウム-134、セシウム-137、セリウム-144、ベリリウム-7、カリウム-40、ビスマス-214、アクチニウム-228。

・「平常の変動幅」は平成元～20年度の測定値の「最小値～最大値」。

表 2 - 5 トリチウム分析結果

試 料 の 種 類		単 位	定 量 下 限 値	青 森 県		事 業 者		平 常 の 変 動 幅	参 考 アクティブ 試験開始前の 測定値の範囲
				検体数	測定値	検体数	測定値		
陸上試料	大気(水蒸気状)	mBq/m³	40	6	ND	9	ND	ND	ND
	雨 水	Bq/ℓ	2	3	ND	-	-	ND	ND
	河 川 水							ND ~ 2	ND ~ 2
	湖 沼 水							ND ~ 3	ND
	水 道 水			1	ND	4	ND	ND ~ 3	ND ~ 3
	井 戸 水			1	ND	2	ND	ND ~ 3	ND ~ 3
海洋試料	海 水	Bq/ℓ	2			3	ND	ND	ND
	海産食品	ヒラメ (自由水) Bq/kg	2					ND ~ 3	ND
比較対照 (青森市)	大気(水蒸気状)	mBq/m³	40	3	ND	-	-	ND	ND
計		-	-	14	-	18	-	-	

- ・「平常の変動幅」は平成元～20年度の測定値の「最小値～最大値」。ただし、ヒラメ（自由水）については平成10～20年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は平成元～17年度の測定値の「最小値～最大値」。ただし、ヒラメ（自由水）については平成10～17年度の測定値の「最小値～最大値」。

表 2 - 6 炭素 - 14 分析結果

試 料 の 種 類			単 位	定 量 下 限 値	青 森 県		事 業 者		平 常 の 変 動 幅	参 考
					検体数	測定値	検体数	測定値		アクティブ 試験開始前の 測定値の範囲
陸上試料	精 米	Bq/kg	2					87 ~ 110	87 ~ 110	
		Bq/g	0.004							0.23 ~ 0.26
	野 菜	ハクサイ、 キャベツ	Bq/kg	2					3 ~ 7	3 ~ 7
			Bq/g	0.004						
		ダイコン	Bq/kg	2			-	-	4 ~ 5	4
			Bq/g	0.004						
		ナガイモ、 パレイショ	Bq/kg	2					15 ~ 21	16 ~ 18
			Bq/g	0.004						
比較対照 (青森市)	精 米	Bq/kg	2			-	-	88 ~ 97	88 ~ 97	
		Bq/g	0.004							0.24 ~ 0.26
計			-	-		-	-	-		

- ・「平常の変動幅」は精米については平成7～20年度の測定値の「最小値～最大値」。野菜については平成17～20年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は精米については平成7～17年度の測定値の「最小値～最大値」。野菜については平成17年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2 - 7 ストロンチウム - 90分析結果

試料の種類			単位	定量 下限値	青森県 検体数	測定 値	事業者 検体数	測定 値	平常の変動幅	
陸上	大気浮遊じん		mBq/m³	0.004	5	ND	3	ND	ND	
	降下物		Bq/m²	0.08	1	0.11	-	-	0.10 ~ 0.26	
	河川水		mBq/l	0.4	-	-			0.7 ~ 2.5	
	湖沼水						ND ~ 3			
	水道水				1	ND	4	ND	ND ~ 1.5	
	井戸水				1	ND	2	ND , 11	ND ~ 11	
	河底土		Bq/kg乾	0.4	-	-			ND ~ 0.6	
	湖底土								ND ~ 6.2	
	表土								ND ~ 9.1	
	牛乳（原乳）		Bq/l	0.04	3	ND	4	ND	ND ~ 0.08	
試験料	精米		Bq/kg生	0.04					ND	
	野菜	ハクサイ、キャベツ							ND ~ 0.87	
		ダイコン				-	-		0.11 ~ 0.81	
		カサネ、パセリ							ND ~ 0.24	
	牧草									0.06 ~ 2.5
	デントコーン				-	-				0.07 ~ 0.72
	食糧 水産 品産	ワカサギ								ND ~ 0.08
		シジミ				-	-			ND ~ 0.08
海洋	海水		mBq/l	2			3	ND	ND ~ 3	
	海底土		Bq/kg乾	0.4					ND ~ 0.5	
	海産 食品	ヒラメ	Bq/kg生	0.04					ND	
		イカ			-	-			ND	
		ホタテ、アワビ							ND	
		ヒラツメガニ			-	-			ND ~ 0.28	
		ウニ			-	-			ND	
		コンブ							ND ~ 0.14	
	指標 生物	チガイソ			-	-			ND ~ 0.09	
		ムラサキイガイ			-	-			ND	
比較対照 （青森市）	大気浮遊じん		mBq/m³	0.004	1	ND	-	-	ND	
	表土		Bq/kg乾	0.4			-	-	0.4 ~ 2.3	
計			-	-	12	-	16	-	-	

- ・「平常の変動幅」は平成元～20年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・降下物の採取期間は1年間。

表 2 - 8 ヨウ素 - 129 分析結果

試 料 の 種 類		単 位	定 量 下 限 値	青 森 県 検 体 数	測 定 値	事 業 者 検 体 数	測 定 値	平常の変動幅
陸上試料	表 土	Bq/kg乾	5					ND
比較対照 (青森市)	表 土					-	-	ND
計		-	-		-		-	-

- ・「平常の変動幅」は、青森県実施分については平成 14～20 年度の測定値の「最小値～最大値」。事業者実施分については平成 10～20 年度の測定値の「最小値～最大値」。

表 2 - 9 プルトニウム分析結果

試 料 の 種 類		単 位	定 量 下 限 値	青 森 県 検 体 数	測 定 値	事 業 者 検 体 数	測 定 値	平常の変動幅
陸 上 試 料	大気浮遊じん	mBq/m ³	0.0002	5	ND	3	ND	ND
	降 下 物	Bq/m ²	0.004	1	0.006	-	-	ND ~ 0.029
	河 川 水	mBq/l	0.02	-	-			ND
	湖 沼 水			-	-			ND
	水 道 水			-	-	4	ND	ND
	河 底 土	Bq/kg乾	0.04	-	-			ND ~ 0.07
	湖 底 土							0.23 ~ 8.0
	表 土							0.08 ~ 0.79
	精 米	Bq/kg生	0.002					ND
	野 菜							ND
	ハクサイ、キャベツ					-	-	ND
	ダイコン							ND
	サトウ、パセリ							ND
	牧 草					-	-	ND
	食 料							ND
	ワカサギ							ND
	シジミ					-	-	ND
海 洋 試 料	海 水	mBq/l	0.02			3	ND	ND
	海 底 土	Bq/kg乾	0.04					0.11 ~ 0.90
	海 産 物	Bq/kg生	0.002					ND
	ヒラメ			-	-			ND
	イカ							ND ~ 0.022
	ホタテ、アサリ							ND
	ヒラツメガニ			-	-			ND ~ 0.005
	ウニ			-	-			ND ~ 0.007
	コンブ							ND ~ 0.017
	指標生物					-	-	ND ~ 0.005
比較対照 (青森市)	大気浮遊じん	mBq/m ³	0.0002	1	ND	-	-	ND
	表 土	Bq/kg乾	0.04			-	-	ND ~ 0.21
計		-	-	7	-	10	-	-

- ・ プルトニウムはプルトニウム-(239+240)。
- ・ 「平常の変動幅」は平成元～20 年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・ 降下物の採取期間は 1 年間。

表2 - 10 アメリシウム - 241分析結果

試料の種類		単位	定 量 下限値	青 森 県 検体数 測 定 値	事 業 者 検体数 測 定 値	平常の変動幅
陸上試料	湖底土	Bq/kg乾	0.04			0.12 ~ 1.1
	表土					0.05 ~ 0.25
海洋試料	海底土					ND ~ 0.34
比較対照 (青森市)	表土			-	-	0.04 ~ 0.10
計		-	-	-	-	-

・「平常の変動幅」は平成14～20年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2 - 11 キュリウム - 244分析結果

試料の種類		単位	定 量 下限値	青 森 県 検体数 測 定 値	事 業 者 検体数 測 定 値	平常の変動幅
陸上試料	湖底土	Bq/kg乾	0.04			ND
	表土					ND
海洋試料	海底土					ND
比較対照 (青森市)	表土			-	-	ND
計		-	-	-	-	-

・「平常の変動幅」は平成14～20年度の「最小値～最大値」。

表2 - 12 ウラン分析結果

試 料 の 種 類				単位	定 量 下限値	青 森 県 検体数 測 定 値	事 業 者 検体数 測 定 値	平常の変動幅		
陸 上 試 料	大気浮遊じん			mBq/m³	0.0004	1	ND	3	ND	ND ~ 0.0035
	降 下 物			Bq/m²	0.008	1	1.0	-	-	0.63 ~ 3.4
	河 川 水			mBq/ℓ	2	-	-			ND ~ 3
	湖 沼 水					-	-			12 ~ 78
	河 底 土			Bq/kg乾	0.8	-	-			2.7 ~ 27
	湖 底 土									52 ~ 140
	表 土									5.9 ~ 82
	牛乳（原乳）			Bq/ℓ	0.02	1	ND	2	ND	ND
	精 米			Bq/kg乾	0.02					ND
	野 菜	ハクサイ								ND
		ダイコン						-	-	ND
	カブ、パイン		-			-			ND	
	牧 草									ND ~ 0.60
	漁獲品	ワカサギ				-	-			0.03 ~ 0.10
指標生物	松 葉						-	-	0.04 ~ 0.11	
比較対照 （青森市）	大気浮遊じん			mBq/m³	0.0004	1	ND	-	-	ND ~ 0.0013
	表 土			Bq/kg乾	0.8			-	-	17 ~ 38
	指標生物	松 葉		Bq/kg乾	0.02			-	-	0.04 ~ 0.24
計				-	-	4	-	5	-	-

- ・ウランはウラン-234、ウラン-235 及びウラン-238 の合計。
- ・「平常の変動幅」は平成元～20年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・降下物の採取期間は1年間。

(3) 環境試料中のフッ素

モニタリングステーションにおける大気中の気体状フッ素測定及び環境試料中のフッ素測定を実施した。

大気中の気体状フッ素 (表 2 - 1 3)

測定値は、これまでと同様にすべて ND であった。

環境試料中のフッ素 (表 2 - 1 4)

測定値はすべて ND であり、過去の測定値⁸と同じ水準であった。

8 : 「過去の測定値」は、環境試料中のフッ素については、調査を開始した年度から前年度までの測定値。

表 2 - 1 3 大気中の気体状フッ素測定結果（HFモニタによる連続測定）

（単位：ppb）

実 施 者	測 定 局	定 量 下 限 値	測 定 値	平 常 の 変 動 幅
青 森 県	尾 駁	0.04	ND	ND
	比 較 対 照 (青 森 市)		ND	ND
事 業 者	老 部 川		ND	ND
	二 又		ND	ND
	室 ノ 久 保		ND	ND

・「平常の変動幅」は平成2～20年度の測定値の「最小値～最大値」。ただし、尾駁局及び二又局については、平成元～20年度の測定値の「最小値～最大値」。

表 2 - 1 4 環境試料中のフッ素測定結果

試 料 の 種 類		単 位	定 量 下 限 値	青 森 県 検 体 数	測 定 値	事 業 者 検 体 数	測 定 値	平常の変動幅
陸 上 試 料	大 気 (粒 子 状 ・ 気 体 状)	μg/m³	0.03	1	ND	2	ND	ND
	河 川 水	mg/l	0.1					ND
	湖 沼 水							ND ~ 0.9
	河 底 土							33 ~ 150
	湖 底 土	mg/kg	5					10 ~ 200
	表 土			-	-			230 ~ 390
	牛 乳 (原 乳)	mg/l	0.1	1	ND	2	ND	ND ~ 0.1
	精 米							ND ~ 0.6
	野 菜	mg/kg	0.1	-	-			ND ~ 0.4
	ハクサイ			-	-			ND ~ 0.1
	カブ、パセリ			-	-			ND ~ 0.5
	牧 草							ND ~ 0.5
	淡水産食品			-	-			4.7 ~ 30
比較対照 (青 森 市)	大 気 (粒 子 状 ・ 気 体 状)	μg/m³	0.03	1	ND	-	-	ND
計		-	-	3	-	4	-	-

・「平常の変動幅」は平成元～20年度の測定値の「最小値～最大値」。

資

料

核種等の記号及び名称

^3H , H-3	: トリチウム
^7Be , Be-7	: ベリリウム-7
^{14}C , C-14	: 炭素-14
^{40}K , K-40	: カリウム-40
^{51}Cr , Cr-51	: クロム-51
^{54}Mn , Mn-54	: マンガン-54
^{59}Fe , Fe-59	: 鉄-59
^{58}Co , Co-58	: コバルト-58
^{60}Co , Co-60	: コバルト-60
^{65}Zn , Zn-65	: 亜鉛-65
^{85}Kr , Kr-85	: クリプトン-85
^{90}Sr , Sr-90	: ストロニウム-90
^{95}Zr , Zr-95	: ジルコニウム-95
^{95}Nb , Nb-95	: ニオブ-95
^{103}Ru , Ru-103	: ルテニウム-103
^{106}Ru , Ru-106	: ルテニウム-106
^{125}Sb , Sb-125	: アンチモン-125
^{129}I , I-129	: ヨウ素-129
^{131}I , I-131	: ヨウ素-131
^{134}Cs , Cs-134	: セシウム-134
^{137}Cs , Cs-137	: セシウム-137
^{140}Ba , Ba-140	: バリウム-140
^{140}La , La-140	: ランタン-140
^{144}Ce , Ce-144	: セリウム-144
^{154}Eu , Eu-154	: ユロピウム-154
^{214}Bi , Bi-214	: ビスマス-214
^{228}Ac , Ac-228	: アクチニウム-228
U	: ウラン
^{234}U , U-234	: ウラン-234
^{235}U , U-235	: ウラン-235
^{238}U , U-238	: ウラン-238
$^{239+240}\text{Pu}$, Pu-(239+240)	: プルトニウム-(239+240)
^{241}Pu , Pu-241	: プルトニウム-241
^{241}Am , Am-241	: アメリシウム-241
^{244}Cm , Cm-244	: キュリウム-244
Pu(α)	: アルファ線を放出するプルトニウム
Am(α)	: アルファ線を放出するアメリシウム
Cm(α)	: アルファ線を放出するキュリウム
F	: フッ素

1 . 青 森 県 実 施 分 測 定 結 果

(1) 空間放射線量率測定結果

モニタリングステーションによる空間放射線量率 (Na I) 測定結果

(単位 : nGy/h)

測定局	測 定 月	平均	最大	最小	標準 偏差	平常の変 動幅を外 れた時間 数 (単位: 時間)	平常の変動幅を外 れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の 変動幅	過去の 測定値 の範囲	過去の 同一四 半期の 測定値 の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
尾 駁	1 月	20	45	15	5.1	3	0	3	7 ~ 41 (24 ± 17)	8 ~ 85	8 ~ 76 (20)	
	2 月	16	37	13	4.0	0	0	0				
	3 月	21	52	14	4.4	2	0	2				
	第 4 四半期	19	52	13	4.9	5	0	5				
千歳平	1 月	20	46	14	5.1	5	0	5	10 ~ 40 (25 ± 15)	8 ~ 91	8 ~ 91 (21)	
	2 月	18	46	14	3.6	1	0	1				
	3 月	23	42	16	3.5	2	0	2				
	第 4 四半期	21	46	14	4.6	8	0	8				
平 沼	1 月	24	40	20	3.6	24	0	24	15 ~ 35 (25 ± 10)	15 ~ 64	15 ~ 64 (23)	
	2 月	23	39	20	2.3	2	0	2				
	3 月	25	45	21	2.4	7	0	7				
	第 4 四半期	24	45	20	3.0	33	0	33				
泊	1 月	20	49	16	3.9	13	0	13	10 ~ 32 (21 ± 11)	12 ~ 78	12 ~ 67 (19)	
	2 月	18	40	16	2.4	3	0	3				
	3 月	21	37	17	2.7	6	0	6				
	第 4 四半期	20	49	16	3.2	22	0	22				
吹 越	1 月	24	47	19	4.1	24	0	24	14 ~ 36 (25 ± 11)	15 ~ 88	15 ~ 83 (24)	
	2 月	23	43	20	2.9	5	0	5				
	3 月	25	57	20	3.1	13	0	13				
	第 4 四半期	24	57	19	3.5	42	0	42				
比 較 対 照 (青森市)	1 月	23	48	17	5.5	8	0	8	13 ~ 43 (28 ± 15)	9 ~ 102	9 ~ 71 (24)	
	2 月	20	42	17	3.3	0	0	0				
	3 月	26	51	20	4.5	8	0	8				
	第 4 四半期	23	51	17	5.1	16	0	16				

- ・ 測定値は 1 時間値。
- ・ 測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・ 測定値は 3 MeV を超える高エネルギー成分を含まない。
- ・ 「平常の変動幅」は「過去の測定値」の「平均値 ± (標準偏差の3倍)」。
- ・ 「過去の測定値」の範囲は、平成16 ~ 20年度の測定値の「最小値 ~ 最大値」。
- ・ 「過去の同一四半期の測定値」の範囲は「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値 ~ 最大値」。
- また、括弧内の数値は平均値。
- ・ 「施設起因」は、監視対象である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・ 「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・ 「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(参考) モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果 (単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
尾 駁	1月	56	79	50	4.8	
	2月	54	73	48	3.7	
	3月	56	82	49	3.9	
	第4四半期	55	82	48	4.3	
千 歳 平	1月	57	83	51	5.0	
	2月	55	82	52	3.5	
	3月	58	78	52	3.5	
	第4四半期	57	83	51	4.3	
平 沼	1月	57	74	53	3.6	
	2月	56	72	53	2.3	
	3月	57	75	54	2.5	
	第4四半期	57	75	53	3.0	
泊	1月	56	81	51	3.8	
	2月	55	76	52	2.4	
	3月	56	74	53	2.9	
	第4四半期	56	81	51	3.2	
吹 越	1月	56	76	51	3.7	
	2月	55	73	52	2.6	
	3月	56	85	53	3.0	
	第4四半期	56	85	51	3.2	

- ・ 測定値は1時間値。
- ・ 測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

モニタリングポストによる空間放射線量率（NaI）測定結果

（単位：nGy/h）

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位：時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位：時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
横浜町役場	1月	23	46	20	3.1	23	0	23	14～32 (23±9)	17～84	17～60 (23)	
	2月	23	37	20	2.1	5	0	5				
	3月	23	43	18	2.8	20	0	20				
	第4四半期	23	46	18	2.7	48	0	48				
野辺地町役場	1月	16	47	12	5.1	14	0	14	7～33 (20±13)	3～80	3～75 (16)	
	2月	14	32	11	2.8	0	0	0				
	3月	18	36	13	3.4	2	0	2				
	第4四半期	16	47	11	4.2	16	0	16				
砂子又	1月	16	66	12	5.4	7	0	7	9～35 (22±13)	10～79	10～66 (19)	
	2月	14	37	11	3.5	1	0	1				
	3月	18	47	13	4.2	5	0	5				
	第4四半期	16	66	11	4.7	13	0	13				
東北町役場 (旧上北町役場) ()	1月	17	52	13	4.6	28	0	28	5～27 (16±11)	9～86	9～86 (15)	
	2月	17	41	14	2.9	13	0	13				
	3月	17	42	12	3.4	20	0	20				
	第4四半期	17	52	12	3.7	61	0	61				
東北分庁舎 (旧東北町役場)	1月	18	46	13	4.1	17	0	17	8～30 (19±11)	10～64	10～64 (18)	
	2月	17	36	14	2.6	3	0	3				
	3月	18	42	11	3.1	11	0	11				
	第4四半期	18	46	11	3.4	31	0	31				
三沢市役所	1月	24	66	17	5.0	23	0	23	16～36 (26±10)	15～83	15～83 (24)	
	2月	24	44	20	2.6	8	0	8				
	3月	26	41	18	3.0	7	0	7				
	第4四半期	24	66	17	3.8	38	0	38				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値」の範囲は、平成16～20年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値」の範囲は「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値～最大値」。
- また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。
- ・：東北町役場については、駐車場拡張工事により周辺環境が変化したことから測定値の取扱いについて検討した。その結果、バックグラウンドレベルに変化があると考えられたことから、平常の変動幅については平成22年度第1四半期から新たにデータの蓄積を行い、1年間以上のデータが蓄積された時点で暫定的に平常の変動幅として用いる(付1)。

モニタリングカーによる空間放射線量率（NaI）測定結果

ア 定点測定

測定地点		測定年月日	測定値 (nGy/h)	積雪深 (cm)	備考
六ヶ所村	石川	H22.3.15	13	10	
	出戸	H22.3.5	11	14	
	老部川	"	12	5	
	尾駸	H22.3.19	14	13	
	沖付	H22.3.15	11	5	
	新納屋	H22.1.8	11	5	
	新栄	H22.3.15	13	8	
	市柳沼東畔	H22.1.8	15	4	
	八森	H22.3.16	16	0	
	六原	"	14	0	
	笹崎	H22.1.8	18	5	
	千歳平	"	17	4	
	豊原	H22.2.10	11	10	
	千樽	H22.3.15	15	0	
	尾駸沼南畔	"	17	7	
	弥栄平	"	18	13	
	清掃センター	"	16	0	
	富ノ沢	"	14	13	
横浜町	第一明神平	H22.3.19	15	5	
	第二明神平	"	11	12	
	はまなす公園	H22.3.16	12	4	
野辺地町	上目ノ越	H22.3.15	15	7	
	北砂沼	"	12	0	
青森市	比較対照 (青森市)	H22.2.10	17	5	

- ・測定値は、10分間測定した値。
- ・降雨雪のない状況で測定。

イ 走行測定

走行ルート	測定年月日	測定値の範囲 (nGy/h)	備考
ルートA（千歳～平沼）	H22.2.10	11 ～ 17	
ルートB（平沼～石川）	H22.3.15	10 ～ 17	
ルートC（猿子沢～新納屋）	"	11 ～ 21	
ルートD（尾駸～中吹越）	"	9 ～ 20	
ルートE（中吹越～目ノ越）	"	12 ～ 16	
ルートF（目ノ越～室ノ久保）	"	10 ～ 15	
ルートG（二又～上弥栄）	"	11 ～ 16	
ルートH（森の踏切～沖付）	"	10 ～ 19	
ルートI（弥栄平～千歳）	"	9 ～ 17	

- ・測定値は、500m毎の平均値。
- ・降雨雪のない状況で測定。

(2) 積算線量測定結果(R P L D)

測 定 地 点			測 定 期 間 (日数)	3 箇 月 積算線量 (μ Gy/91日)	平常の変動幅 (μ Gy/91日)	備 考
六ヶ所村	尾 駱		H21.12.25 ~ H22.3.25 (90)	85	76 ~ 100	
	千 歳 平		"	87	79 ~ 101	
	平 沼		"	92	81 ~ 98	
	泊		"	88	80 ~ 97	
	出 戸		"	78	75 ~ 90	
	老 部 川		"	76	73 ~ 86	
	富 ノ 沢		"	86	79 ~ 105	
	二 又		"	88	79 ~ 98	
	むつ小川原石油備蓄		"	82	74 ~ 97	
	室 ノ 久 保		"	81	72 ~ 98	
横 浜 町	六 原		"	97	84 ~ 107	
	倉 内		"	87	79 ~ 98	
	吹 越		"	87	83 ~ 95	
野 辺 地 町	明 神 平		"	86	81 ~ 118	
	横 浜 町 役 場		"	101	95 ~ 105	
	有 戸		"	103	79 ~ 108	
東 通 村	野 辺 地 町 役 場		"	87	75 ~ 98	
	白 糠		"	94	85 ~ 102	
東 北 町	西 公 園 (東 北 分 庁 舎)		"	84	78 ~ 92	
	水 喰		"	80	74 ~ 97	
	淋 代		"	79	— 1	
	東 北 町 役 場 (旧 上 北 町 役 場)		"	90	82 ~ 91	2
三 沢 市	三 沢 市 役 所		"	104	102 ~ 112	
青 森 市	比較対照 (青森市)		"	92	80 ~ 109	

- ・ 測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・ 「3箇月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。
- ・ 「平常の変動幅」は平成16年4月～平成21年3月の3箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。
- ・ 1：淋代については、平成21年度第1四半期の測定期間中に測定場所を移動した。平常の変動幅については平成21年度第2四半期から新たにデータの蓄積を行い、1年間以上のデータが蓄積された時点で暫定的に平常の変動幅として用いる。
- ・ 2：東北町役場については、駐車場拡張工事により周辺環境が変化したことから測定値の取扱いについて検討した。その結果、バックグラウンドレベルに変化があると考えられたことから、平常の変動幅については平成22年度第1四半期から新たにデータの蓄積を行い、1年間以上のデータが蓄積された時点で暫定的に平常の変動幅として用いる(付1)。

(3) 大気浮遊じん中の全 α 及び全 β 放射能測定結果(単位 : mBq/m³)

測 定 局	採 取 期 間	検体数	全 α			全 β			備 考
			平均	最大	最小	平均	最大	最小	
尾 駁	H22. 1. 4 ~ H22. 1.31	4	0.043	0.096	0.015	0.63	0.99	0.30	
	H22. 2. 1 ~ H22. 2.28	4	0.061	0.093	0.028	1.1	1.7	0.53	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.28	4	0.051	0.054	0.042	1.0	1.2	0.92	
	第 4 四 半 期	12	0.052	0.096	0.015	0.90	1.7	0.30	
千 歳 平	H22. 1. 4 ~ H22. 1.31	4	< 0.034	0.062	*	0.64	1.0	0.28	
	H22. 2. 1 ~ H22. 2.28	4	0.056	0.095	0.031	1.1	1.5	0.57	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.28	4	0.052	0.061	0.042	1.0	1.1	0.94	
	第 4 四 半 期	12	< 0.047	0.095	*	0.91	1.5	0.28	
平 沼	H22. 1. 4 ~ H22. 1.31	4	0.039	0.059	0.018	0.65	0.99	0.27	
	H22. 2. 1 ~ H22. 2.28	4	0.058	0.094	0.035	1.1	1.7	0.62	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.28	4	0.062	0.069	0.049	1.1	1.2	0.94	
	第 4 四 半 期	12	0.053	0.094	0.018	0.94	1.7	0.27	
泊	H22. 1. 4 ~ H22. 1.31	4	< 0.033	0.056	*	0.51	0.82	0.20	
	H22. 2. 1 ~ H22. 2.28	4	0.053	0.074	0.025	0.90	1.3	0.51	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.28	4	0.040	0.058	0.028	0.85	1.0	0.76	
	第 4 四 半 期	12	< 0.042	0.074	*	0.75	1.3	0.20	
吹 越	H22. 1. 4 ~ H22. 1.31	4	< 0.032	0.055	*	0.60	0.95	0.25	
	H22. 2. 1 ~ H22. 2.28	4	0.043	0.064	0.015	0.96	1.4	0.53	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.28	4	0.052	0.060	0.047	0.93	1.1	0.83	
	第 4 四 半 期	12	< 0.042	0.064	*	0.83	1.4	0.25	
比較対照 (青森市)	H22. 1. 4 ~ H22. 1.31	4	0.042	0.059	0.015	0.60	1.0	0.22	
	H22. 2. 1 ~ H22. 2.28	4	0.061	0.090	0.036	1.0	1.5	0.61	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.28	4	0.051	0.057	0.039	1.0	1.2	0.92	
	第 4 四 半 期	12	0.052	0.090	0.015	0.88	1.5	0.22	

- ・ 168時間集じん終了後72時間放置、1時間測定。
- ・ 平均値の算出においては測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し平均値に「<」を付ける。すべての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「*」と表示する。

(4) 大気中の気体状β放射能測定結果(クリプトン - 85換算)

(単位: kBq/m³)

測定局	測定月	平均	最大	最小	平常の変動幅	(参 考)		備 考
						定量下限値以上 となった時間数 (うち、平常の変動幅 を上回った時間数)	アクティブ 試験開始前 の測定値の 範囲	
尾 駁	1月	ND	ND	ND	ND ~ 9	0 (0)	ND	
	2月	ND	ND	ND		0 (0)		
	3月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第4四半期	ND	ND	ND		0 (0)		
千 歳 平	1月	ND	ND	ND	ND ~ 4	0 (0)	ND	
	2月	ND	ND	ND		0 (0)		
	3月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第4四半期	ND	ND	ND		0 (0)		
平 沼	1月	ND	ND	ND	ND	0 (0)	ND	
	2月	ND	ND	ND		0 (0)		
	3月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第4四半期	ND	ND	ND		0 (0)		
泊	1月	ND	ND	ND	ND ~ 2	0 (0)	ND	
	2月	ND	ND	ND		0 (0)		
	3月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第4四半期	ND	ND	ND		0 (0)		
吹 越	1月	ND	ND	ND	ND ~ 11	0 (0)	ND	
	2月	ND	ND	ND		0 (0)		
	3月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第4四半期	ND	ND	ND		0 (0)		
比較対照 (青森市)	1月	ND	ND	ND	ND	0 (0)	ND	
	2月	ND	ND	ND		0 (0)		
	3月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第4四半期	ND	ND	ND		0 (0)		

- ・ 測定値は1時間値。
- ・ 測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・ 平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。また、すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし、「ND」と表示する。
- ・ 「平常の変動幅」は、平成6～20年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・ 「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は、平成6～17年度の測定値の「最小値～最大値」。

(5) 大気中のヨウ素 - 1 3 1 測定結果

(単位 : mBq/m³)

測 定 局	採 取 期 間	検体数	平 均	最 大	最 小	備 考
尾 駁	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	4	N D	N D	N D	
	H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1	4	N D	N D	N D	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.29	4	N D	N D	N D	
	第 4 四 半 期	12	N D	N D	N D	
千 歳 平	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	4	N D	N D	N D	
	H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1	4	N D	N D	N D	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.29	4	N D	N D	N D	
	第 4 四 半 期	12	N D	N D	N D	
平 沼	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	4	N D	N D	N D	
	H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1	4	N D	N D	N D	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.29	4	N D	N D	N D	
	第 4 四 半 期	12	N D	N D	N D	
泊	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	4	N D	N D	N D	
	H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1	4	N D	N D	N D	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.29	4	N D	N D	N D	
	第 4 四 半 期	12	N D	N D	N D	
吹 越	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	4	N D	N D	N D	
	H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1	4	N D	N D	N D	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.29	4	N D	N D	N D	
	第 4 四 半 期	12	N D	N D	N D	
比較対照 (青森市)	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	4	N D	N D	N D	
	H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1	4	N D	N D	N D	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.29	4	N D	N D	N D	
	第 4 四 半 期	12	N D	N D	N D	

・ 測定値は、試料採取日に補正した値である。

(6) 環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機 器 分 析									
				⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	⁷ Be	⁴⁰ K	²¹⁴ Bi	²²⁸ Ac
大 気 浮 遊 塵	尾 駁	H22. 1. 4～ H22. 3. 28	mBq/m ³	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.7	ND	—	—
	千 歳 平	H22. 1. 4～ H22. 3. 28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.4	ND	—	—
	平 沼	H22. 1. 4～ H22. 3. 28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.6	ND	—	—
	泊	H22. 1. 4～ H22. 3. 28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.6	ND	—	—
	横 浜 町	H22. 1. 4～ H22. 3. 28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.5	ND	—	—
	比較対照 (青森市)	H22. 1. 4～ H22. 3. 28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.2	ND	—	—
雨 水	千 歳 平	H21. 12. 28～ H22. 1. 29	Bq/ℓ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		H22. 1. 29～ H22. 2. 26		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		H22. 2. 26～ H22. 3. 31		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
降 下 物	千 歳 平	H21. 12. 28～ H22. 1. 29	Bq/m ²	ND	ND	ND	ND	ND	ND	350	ND	—	—
		H22. 1. 29～ H22. 2. 26		ND	ND	ND	ND	ND	ND	180	ND	—	—
		H22. 2. 26～ H22. 3. 31		ND	ND	ND	ND	ND	ND	240	ND	—	—
		H21. 3. 31～ H22. 3. 31		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水 道 水	尾 駁	H22. 1. 5	mBq/ℓ トリチウム については Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
井 戸 水	尾 駁	H22. 1. 5		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
牛乳（原乳）	庄 内	H22. 1. 7	Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	52	—	—
	横 浜 町	H22. 1. 7		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	49	—	—
	東 北 町	H22. 1. 7		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	53	—	—

・ Uは、²³⁴U、²³⁵U及び²³⁸Uの合計。

・ γ線スペクトロメトリ、³H及び⁹⁰Srの測定値は、試料採取日に補正した値。

放 射 化 学 分 析								備 考
³ H	¹⁴ C	⁹⁰ Sr	¹²⁹ I	²³⁹⁺²⁴⁰ Pu	²⁴¹ Am	²⁴⁴ Cm	U	
-	-	ND	-	ND	-	-	ND	
-	-	ND	-	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	-	-	ND	
ND	-	-	-	-	-	-	-	
ND	-	-	-	-	-	-	-	
ND	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	0.11	-	0.006	-	-	1.0	採取期間は1年間
ND	-	ND	-	-	-	-	-	
ND	-	ND	-	-	-	-	-	
-	-	ND	-	-	-	-	ND	
-	-	ND	-	-	-	-	-	
-	-	ND	-	-	-	-	-	

(7) 大気中の水蒸気状トリチウム測定結果

測定地点	採取期間	測定値		大気中水分量 (g/m ³)	(参考)アクティブ試験開始前の測定値の範囲		備考
		大気中濃度 (mBq/m ³)	水分中濃度 (Bq/ℓ)		大気中濃度 (mBq/m ³)	水分中濃度 (Bq/ℓ)	
尾 駁	H21.12.28 ~ H22. 1.29	N D	N D	3.3			
	H22. 1.29 ~ H22. 2.26	N D	N D	2.9	N D	N D ~ 2	
	H22. 2.26 ~ H22. 3.31	N D	N D	3.5			
横 浜 町	H21.12.28 ~ H22. 1.29	N D	N D	3.4			
	H22. 1.29 ~ H22. 2.26	N D	N D	3.0	N D	N D	
	H22. 2.26 ~ H22. 3.31	N D	N D	3.6			
比較対照 (青森市)	H21.12.28 ~ H22. 1.29	N D	N D	3.5			
	H22. 1.29 ~ H22. 2.26	N D	N D	3.1	N D	N D ~ 2	
	H22. 2.26 ~ H22. 3.31	N D	N D	3.5			

- ・ 測定値は、試料採取日に補正した値。
- ・ 「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は、尾駁については平成元～17年度の測定値の「最小値～最大値」。
横浜町及び比較対照(青森市)については平成2～17年度の測定値の「最小値～最大値」。

(8) 大気中の気体状フッ素測定結果

(単位 : ppb)

測 定 局	測 定 月	平 均	最 大	最 小	備 考
尾 駁	1 月	N D	N D	N D	
	2 月	N D	N D	N D	
	3 月	N D	N D	N D	
	第 4 四半期	N D	N D	N D	
比較対照 (青森市)	1 月	N D	N D	N D	
	2 月	N D	N D	N D	
	3 月	N D	N D	N D	
	第 4 四半期	N D	N D	N D	

(9) 環境試料中のフッ素測定結果

試 料 名	採取地点	採取年月日	単 位	測 定 値	備 考
大 気	尾 駁	H22. 1. 5 ~ H22. 1.12	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	N D	
	比 較 対 照 (青 森 市)	H22. 1. 5 ~ H22. 1.12		N D	
牛乳 (原乳)	庄 内	H22. 1. 7	mg/ℓ	N D	

・「大気」の測定値は、粒子状フッ素及び気体状フッ素の合計。

(10) 気象観測結果

風速・気温・湿度・降水量・積雪深

測定局	測 定 月	風速(m/sec)		気 温()			湿度(%)		降水量 (mm)	積 雪 深(cm)				
		平 均	最 大	平 均	最 高	最 低	平 均	最 小		平 均	最 大	最 小	過去の値	
													平 均	最 大
尾 駱	1月	4.4	13.5	-0.5	9.0	-9.6	74	36	135.0	30	59	11	42	112
	2月	3.0	10.1	-1.2	14.3	-12.3	70	29	54.0	48	70	28	56	157
	3月	3.9	11.4	1.5	9.0	-5.0	68	26	59.5	13	43	0	33	149
	第4四半期	3.8	13.5	0.0	14.3	-12.3	71	26	248.5	30	70	0	43	157
千 歳 平	1月	3.6	10.0	-1.1	8.2	-6.6	72	34	96.0	60	106	16	56	125
	2月	2.9	9.7	-1.4	15.9	-9.9	66	25	45.0	76	107	30	78	189
	3月	3.6	11.4	1.0	10.1	-5.9	68	27	64.0	45	99	17	47	190
	第4四半期	3.4	11.4	-0.5	15.9	-9.9	69	25	205.0	60	107	16	60	190
平 沼	1月	-	-	-	-	-	-	-	157.0	15	45	1	28	75
	2月	-	-	-	-	-	-	-	37.5	20	36	6	36	106
	3月	-	-	-	-	-	-	-	45.0	2	25	0	18	128
	第4四半期	-	-	-	-	-	-	-	239.5	12	45	0	27	128
泊	1月	-	-	-	-	-	-	-	169.0	24	49	6	27	77
	2月	-	-	-	-	-	-	-	58.5	34	51	19	32	93
	3月	-	-	-	-	-	-	-	93.0	5	24	0	16	105
	第4四半期	-	-	-	-	-	-	-	320.5	21	51	0	25	105
吹 越	1月	-	-	-	-	-	-	-	131.0	12	37	1	18	59
	2月	-	-	-	-	-	-	-	53.5	16	33	2	21	67
	3月	-	-	-	-	-	-	-	80.0	4	48	0	11	73
	第4四半期	-	-	-	-	-	-	-	264.5	11	48	0	17	73
比 較 対 照 (青森市)	1月	-	-	-	-	-	-	-	149.5	46	83	19	45	125
	2月	-	-	-	-	-	-	-	64.5	50	70	32	62	165
	3月	-	-	-	-	-	-	-	94.5	12	44	0	42	173
	第4四半期	-	-	-	-	-	-	-	308.5	36	83	0	50	173

・ 測定値は「地上気象観測指針（平成14年気象庁）」に基づく1時間値。

・ 積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間（平成16～20年度）の同一時期の平均値及び最大値。

大気安定度出現頻度表

単位：時間（括弧内は％）

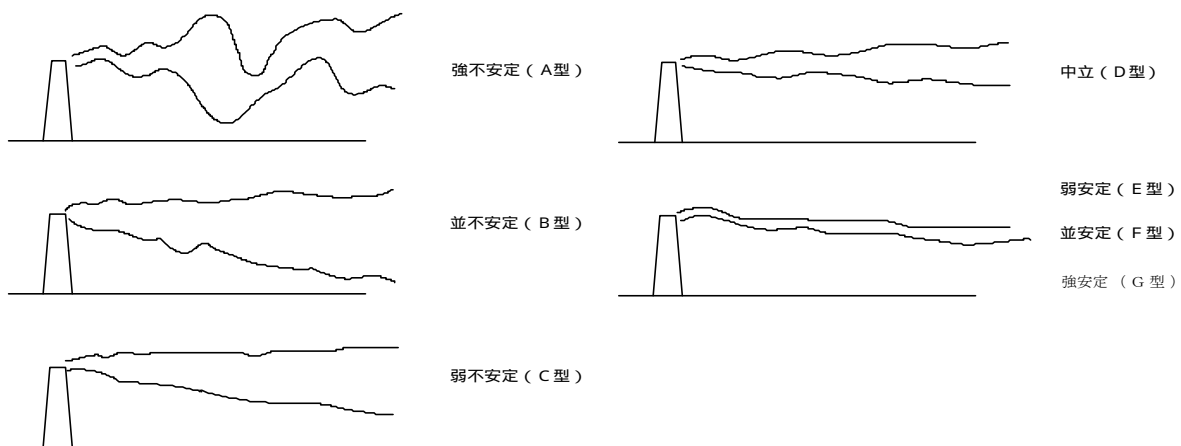
測定局	分類 測定月	A	A - B	B	B - C	C	C - D	D	E	F	G	計	備考
尾 駁	1 月	0 (0.0)	6 (0.8)	13 (1.7)	5 (0.7)	21 (2.8)	10 (1.3)	567 (76.2)	27 (3.6)	16 (2.2)	79 (10.6)	744 (100)	
	2 月	0 (0.0)	13 (1.9)	56 (8.3)	15 (2.2)	25 (3.7)	14 (2.1)	379 (56.5)	30 (4.5)	25 (3.7)	114 (17.0)	671 (100)	
	3 月	0 (0.0)	12 (1.6)	40 (5.4)	16 (2.2)	67 (9.0)	17 (2.3)	457 (61.4)	32 (4.3)	28 (3.8)	75 (10.1)	744 (100)	
	第 4 四半期	0 (0.0)	31 (1.4)	109 (5.0)	36 (1.7)	113 (5.2)	41 (1.9)	1,403 (65.0)	89 (4.1)	69 (3.2)	268 (12.4)	2,159 (100)	
千歳平	1 月	0 (0.0)	6 (0.8)	21 (2.8)	11 (1.5)	32 (4.3)	17 (2.3)	542 (72.9)	34 (4.6)	23 (3.1)	57 (7.7)	743 (100)	
	2 月	2 (0.3)	22 (3.3)	52 (7.7)	27 (4.0)	29 (4.3)	23 (3.4)	362 (53.9)	35 (5.2)	38 (5.7)	81 (12.1)	671 (100)	
	3 月	1 (0.1)	20 (2.9)	40 (5.8)	16 (2.3)	45 (6.5)	23 (3.3)	408 (58.9)	31 (4.5)	39 (5.6)	70 (10.1)	693 (100)	
	第 4 四半期	3 (0.1)	48 (2.3)	113 (5.4)	54 (2.6)	106 (5.0)	63 (3.0)	1,312 (62.3)	100 (4.7)	100 (4.7)	208 (9.9)	2,107 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（平成13年3月 原子力安全委員会）」に基づく1時間値を用いて分類。

大気安定度分類表

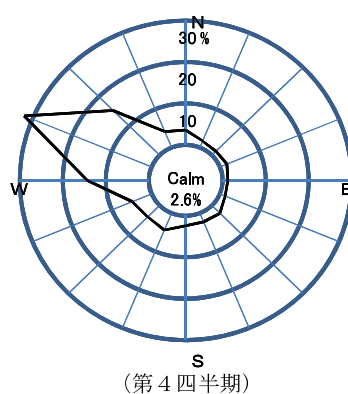
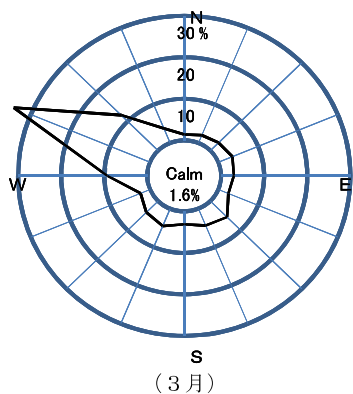
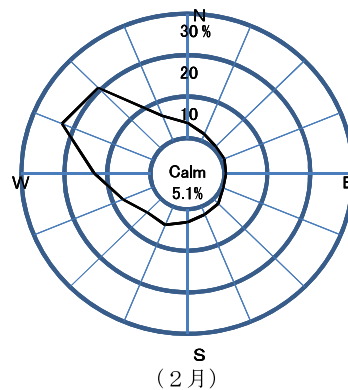
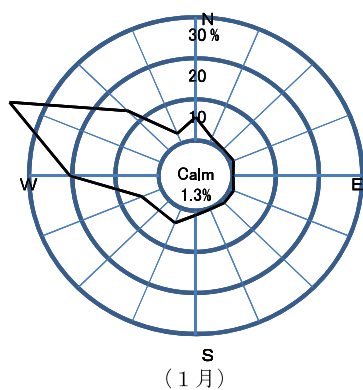
風速(U) m/s	日射量(T) kW/m ²				放射収支量(Q) kW/m ²		
	T 0.60	0.60 > T 0.30	0.30 > T 0.15	0.15 > T	Q -0.020	-0.020 > Q -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 U	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（平成13年 3 月 原子力安全委員会）

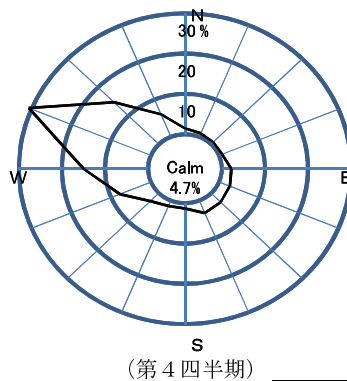
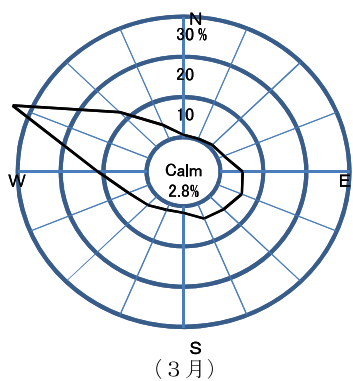
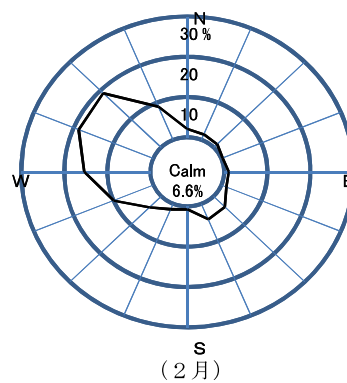
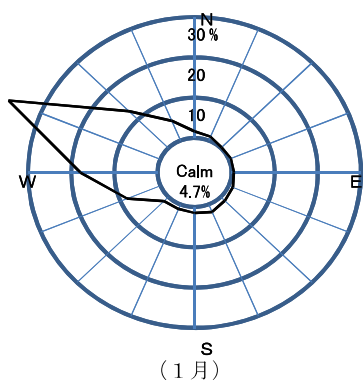


大気安定度と煙の型との模式図

③ 風配図
尾 駁



千歳平



Calm: 風速0.4m/sec以下

2 . 事 業 者 実 施 分 測 定 結 果

(1) 空間放射線量率測定結果

モニタリングステーションによる空間放射線量率 (N a I) 測定結果

(単位 : nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間 (単位 : 時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間 (単位 : 時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
老 部 川	1 月	17	40	13	4.1	4	0	4	7~33 (20±13)	8~74	8~74 (17)	
	2 月	15	33	12	3.1	0	0	0				
	3 月	19	53	14	3.3	7	0	7				
	第 4 四半期	17	53	12	4.0	11	0	11				
二 又	1 月	18	42	13	4.6	7	0	7	8~36 (22±14)	9~79	9~78 (18)	
	2 月	16	36	12	3.5	0	0	0				
	3 月	19	40	13	3.6	2	0	2				
	第 4 四半期	17	42	12	4.2	9	0	9				
室ノ久保	1 月	18	37	14	3.8	6	0	6	9~33 (21±12)	9~72	9~72 (18)	
	2 月	16	36	13	2.9	1	0	1				
	3 月	19	41	14	3.0	3	0	3				
	第 4 四半期	18	41	13	3.4	10	0	10				

- ・測定値は 1 時間値。
- ・測定時間数は 3 箇月間で約 2,200 時間。
- ・測定値は 3 MeV を超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、「過去の測定値」の「平均値 ± (標準偏差の 3 倍) 」。
- ・「過去の測定値」の範囲は、平成 16 ~ 20 年度の測定値の「最小値 ~ 最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値」は、「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値 ~ 最大値」。また括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、
「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設の影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(参考) モニタリングステーションによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果

(単位 : nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
老 部 川	1 月	58	82	52	4.2	
	2 月	55	73	52	3.2	
	3 月	59	87	54	3.4	
	第 4 四半期	57	87	52	4.0	
二 又	1 月	57	79	51	4.7	
	2 月	55	76	51	3.6	
	3 月	58	80	51	3.9	
	第 4 四半期	56	80	51	4.3	
室ノ久保	1 月	58	76	53	3.8	
	2 月	56	78	53	3.0	
	3 月	58	77	53	3.0	
	第 4 四半期	57	78	53	3.5	

- ・測定値は 1 時間値。
- ・測定値は 3 MeV を超える高エネルギー成分を含む。

(2) 積算線量測定結果 (R P L D)

測 定 地 点		測 定 期 間 (日数)	3 箇月積算線量 (μ Gy/91 日)	平 常 の 変 動 幅 (μ Gy/91 日)	備 考
六ヶ所村	老 部 川	H21.12.25 ~ H22. 3.25 (90)	81	76 ~ 94	
	二 又	"	83	77 ~ 98	
	室 ノ 久 保	"	82	75 ~ 95	
	石 川	"	82	69 ~ 105	
	新 町	"	86	91 ~ 104	
	大 石 平	"	86	78 ~ 111	
	富 ノ 沢	"	85	75 ~ 104	
	雲 雀 平	"	93	77 ~ 103	
	むつ小川原石油備蓄	"	81	71 ~ 97	
	千 樽	"	86	74 ~ 101	
	豊 原	"	78	74 ~ 102	
	千 歳 平	"	94	84 ~ 109	
	六 原	"	95	85 ~ 105	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3 箇月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成 1 6 年 4 月 ~ 平成 2 1 年 3 月の 3 箇月積算線量の測定値の「最小値 ~ 最大値」。
ただし、新町については測定開始後の平成 1 9 年 4 月 ~ 平成 2 1 年 3 月の期間の「最小値 ~ 最大値」。

(3) 大気浮遊じん中の全 α 及び全 β 放射能測定結果(単位 : mBq/m^3)

測 定 局	採 取 期 間	検体数	全 α			全 β			備 考
			平 均	最 大	最 小	平 均	最 大	最 小	
老 部 川	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	4	< 0.036	0.070	*	0.40	0.59	0.22	
	H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1	4	< 0.060	0.085	*	0.74	1.1	0.37	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.29	4	0.048	0.050	0.044	0.64	0.72	0.57	
	第 4 四 半 期	12	< 0.048	0.085	*	0.59	1.1	0.22	
二 又	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	4	< 0.038	0.054	*	< 0.36	0.54	*	
	H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1	4	< 0.059	0.086	*	0.55	0.90	0.25	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.29	4	0.060	0.076	0.040	0.59	0.67	0.53	
	第 4 四 半 期	12	< 0.052	0.086	*	< 0.50	0.90	*	
室ノ久保	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	4	< 0.033	0.052	*	0.58	0.87	0.33	
	H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1	4	0.057	0.071	0.030	0.80	1.2	0.46	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.29	4	0.057	0.067	0.051	0.80	0.93	0.69	
	第 4 四 半 期	12	< 0.049	0.071	*	0.73	1.2	0.33	

・ 1 6 8 時間集じん終了後 7 2 時間放置、 1 時間測定。

・ 平均値の算出においては、測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し、平均値に「 < 」を付ける。すべての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「 * 」と表示する。

(4) 大気中の気体状β放射能測定結果(クリプトン - 85換算)

(単位 : kBq/m³)

測 定 局	測 定 月	平 均	最 大	最 小	平 常 の 変 動 幅	(参 考)		備 考
						定量下限値以上 となった時間数 (うち、平常の変動幅 を上回った時間数)	アクティブ 試験開始前 の測定値の 範囲	
老 部 川	1 月	ND	ND	ND	ND ~ 3	0 (0)	ND	
	2 月	ND	ND	ND		0 (0)		
	3 月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第4四半期	ND	ND	ND		0 (0)		
二 又	1 月	ND	ND	ND	ND ~ 8	0 (0)	ND	
	2 月	ND	ND	ND		0 (0)		
	3 月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第4四半期	ND	ND	ND		0 (0)		
室ノ久保	1 月	ND	ND	ND	ND ~ 6	0 (0)	ND	
	2 月	ND	ND	ND		0 (0)		
	3 月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第4四半期	ND	ND	ND		0 (0)		

- ・ 測定値は1時間値。
- ・ 測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・ 平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し平均値に「<」を付ける。また、すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と表示する。
- ・ 「平常の変動幅」は、平成6～20年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・ 「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は、平成6～17年度の測定値の「最小値～最大値」。

(5) 大気中のヨウ素 - 131測定結果

(単位 : mBq/m³)

測定地点	採 取 期 間	検 体 数	平 均	最 大	最 小	備 考
老 部 川	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	4	ND	ND	ND	
	H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1	4	ND	ND	ND	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.29	4	ND	ND	ND	
	第 4 四 半 期	12	ND	ND	ND	
二 又	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	4	ND	ND	ND	
	H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1	4	ND	ND	ND	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.29	4	ND	ND	ND	
	第 4 四 半 期	12	ND	ND	ND	
室ノ久保	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	4	ND	ND	ND	
	H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1	4	ND	ND	ND	
	H22. 3. 1 ~ H22. 3.29	4	ND	ND	ND	
	第 4 四 半 期	12	ND	ND	ND	

- ・ 測定値は試料採取日に補正した値。

(6) 環境試料中の放射能測定結果

試 料 名	採取地点	採取年月日	単 位	機 器 分 析									
				⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	⁷ Be	⁴⁰ K	²¹⁴ Bi	²²⁸ Ac
大気浮遊じん	老 部 川	H22. 1. 4 ~ H22. 3. 29	mBq/m ³	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.4	ND	-	-
	二 又	H22. 1. 4 ~ H22. 3. 29		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.3	ND	-	-
	室ノ久保	H22. 1. 4 ~ H22. 3. 29		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.8	ND	-	-
水 道 水	尾 駱	H22. 1. 7	mBq/ℓ トリチウムについては Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-
	千 歳 平	H22. 1. 7		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-
	平 沼	H22. 1. 13		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-
	二 又	H22. 1. 13		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-
井 戸 水	尾 駱 1	H22. 1. 21		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-
	尾 駱 2	H22. 1. 21		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	190	-	-
牛 乳 (原 乳)	富 ノ 沢	H22. 1. 5	Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	50	-	-
	二 又	H22. 1. 5		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	48	-	-
	豊 原	H22. 1. 5		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	50	-	-
	六 原	H22. 1. 5		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	47	-	-
海 水	放 出 口 近	H22. 1. 19	mBq/ℓ トリチウムについては Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-
	放 出 口 北 5 k m 点	H22. 1. 19		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-
	放 出 口 南 5 k m 点	H22. 1. 19		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-

・ U は、²³⁴U、²³⁵U 及び ²³⁸U の合計。

・ γ 線スペクトロメトリ、³H 及び ⁹⁰Sr の測定値は、試料採取日に補正した値。

放 射 化 学 分 析								備 考
³ H	¹⁴ C	⁹⁰ Sr	¹²⁹ I	²³⁹⁺²⁴⁰ Pu	²⁴¹ Am	²⁴⁴ Cm	U	
-	-	ND	-	ND	-	-	ND	
-	-	ND	-	ND	-	-	ND	
-	-	ND	-	ND	-	-	ND	
ND	-	ND	-	ND	-	-	-	
ND	-	ND	-	ND	-	-	-	
ND	-	ND	-	ND	-	-	-	
ND	-	ND	-	ND	-	-	-	
ND	-	ND	-	-	-	-	-	
ND	-	11	-	-	-	-	-	
-	-	ND	-	-	-	-	ND	
-	-	ND	-	-	-	-	ND	
-	-	ND	-	-	-	-	-	
-	-	ND	-	-	-	-	-	
ND	-	ND	-	ND	-	-	-	
ND	-	ND	-	ND	-	-	-	
ND	-	ND	-	ND	-	-	-	

(7) 大気中の水蒸気状トリチウム測定結果

測定地点	採 取 期 間	測 定 値		大気中 水分量 (g/m ³)	(参考) アクティブ試験 開始前の測定値の範囲		備 考
		大気中濃度 (mBq/m ³)	水分中濃度 (Bq/ℓ)		大気中濃度 (mBq/m ³)	水分中濃度 (Bq/ℓ)	
老 部 川	H21.12.28 ~ H22. 1.29	N D	N D	3.4	N D	N D	
	H22. 1.29 ~ H22. 2.26	N D	N D	3.1			
	H22. 2.26 ~ H22. 3.31	N D	N D	3.7			
二 又	H21.12.28 ~ H22. 1.29	N D	N D	3.4	N D	N D	
	H22. 1.29 ~ H22. 2.26	N D	N D	2.9			
	H22. 2.26 ~ H22. 3.31	N D	N D	3.5			
室ノ久保	H21.12.28 ~ H22. 1.29	N D	N D	3.6	N D	N D	
	H22. 1.29 ~ H22. 2.26	N D	N D	3.0			
	H22. 2.26 ~ H22. 3.31	N D	N D	3.7			

・測定値は試料採取日に補正した値。

・「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は、平成10～17年度の測定値の「最小値～最大値」。

(8) 大気中の気体状フッ素測定結果

(単位 : ppb)

測 定 局	測 定 月	平 均	最 大	最 小	備 考
老 部 川	1 月	N D	N D	N D	
	2 月	N D	N D	N D	
	3 月	N D	N D	N D	
	第 4 四 半 期	N D	N D	N D	
二 又	1 月	N D	N D	N D	
	2 月	N D	N D	N D	
	3 月	N D	N D	N D	
	第 4 四 半 期	N D	N D	N D	
室ノ久保	1 月	N D	N D	N D	
	2 月	N D	N D	N D	
	3 月	N D	N D	N D	
	第 4 四 半 期	N D	N D	N D	

(9) 環境試料中のフッ素測定結果

試 料 名	採 取 地 点	採取年月日	単 位	測 定 値	備 考
大 気	二 又	H22. 1. 8 ~ H22. 1.18	μg/m ³	N D	
	室ノ久保	H22. 1. 8 ~ H22. 1.18	μg/m ³	N D	
牛乳(原乳)	富 ノ 沢	H22. 1. 5	mg/ℓ	N D	
	二 又	H22. 1. 5	mg/ℓ	N D	

・「大気」の測定値は粒子状フッ素及び気体状フッ素の合計。

(10) 気象観測結果

風速・気温・湿度・降水量・積雪深

測 定 局	測 定 月	風速(m/sec)		気温()			湿度(%)		降水量	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小	(mm)	平均	最大	最小	過去の値	
													平 均	最 大
老 部 川	1 月	-	-	-	-	-	-	-	159.5	18	46	3	29	91
	2 月	-	-	-	-	-	-	-	68.5	27	49	9	35	110
	3 月	-	-	-	-	-	-	-	63.0	1	20	0	14	101
	第 4 四半期	-	-	-	-	-	-	-	291.0	15	49	0	26	110
二 又	1 月	4.3	11.0	-1.0	9.1	-11.2	74	43	136.0	26	51	5	28	83
	2 月	3.0	11.5	-1.9	14.3	-16.8	70	31	56.0	37	58	17	39	124
	3 月	3.8	12.0	0.8	8.9	-7.3	67	26	90.5	10	48	0	25	118
	第 4 四半期	3.7	12.0	-0.7	14.3	-16.8	70	26	282.5	24	58	0	30	124
室ノ久保	1 月	-	-	-	-	-	-	-	155.5	40	67	21	46	112
	2 月	-	-	-	-	-	-	-	70.5	61	91	40	66	169
	3 月	-	-	-	-	-	-	-	116.5	44	91	26	45	172
	第 4 四半期	-	-	-	-	-	-	-	342.5	48	91	21	52	172

・測定値は「地上気象観測指針（平成14年 気象庁）」に基づく1時間値。

・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間（平成16～20年度）の同一時期の平均値及び最大値。

大気安定度出現頻度表

単位：時間数（括弧内は％）

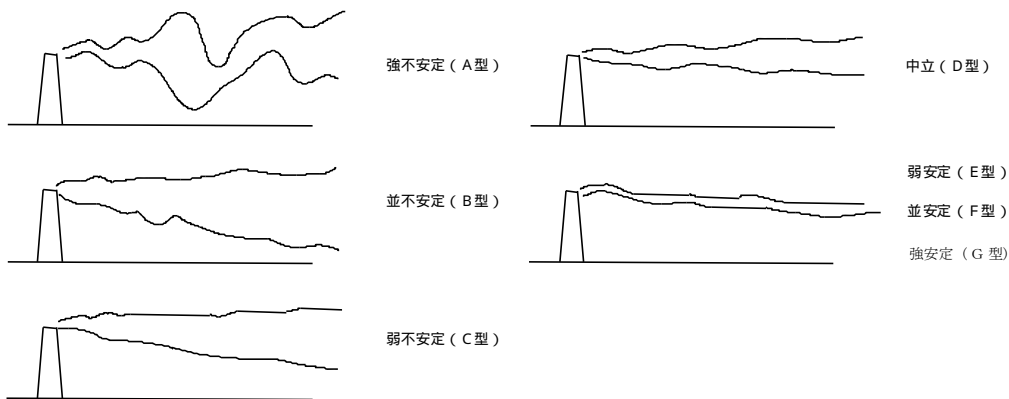
測 定 局	分類	A	A - B	B	B - C	C	C - D	D	E	F	G	計	備 考
	測定月												
二 又	1 月	0 (0.0)	11 (1.5)	14 (1.9)	3 (0.4)	13 (1.8)	11 (1.5)	579 (80.2)	13 (1.8)	6 (0.8)	72 (10.0)	722 (100)	
	2 月	0 (0.0)	23 (3.6)	39 (6.0)	23 (3.6)	23 (3.6)	13 (2.0)	409 (63.4)	22 (3.4)	6 (0.9)	87 (13.5)	645 (100)	
	3 月	0 (0.0)	19 (2.9)	34 (5.1)	14 (2.1)	51 (7.7)	14 (2.1)	430 (64.6)	24 (3.6)	17 (2.6)	63 (9.5)	666 (100)	
	第 4 四 半 期	0 (0.0)	53 (2.6)	87 (4.3)	40 (2.0)	87 (4.3)	38 (1.9)	1418 (69.7)	59 (2.9)	29 (1.4)	222 (10.9)	2033 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（平成13年3月 原子力安全委員会）」に基づく1時間値を用いて分類。

大気安定度分類表

風速(U) m/s	日射量(T) kW/m ²				放射収支量(Q) kW/m ²		
	T ≤ 0.60	0.60 > T 0.30	0.30 > T 0.15	0.15 > T	Q ≤ -0.020	-0.020 > Q -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A - B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A - B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B - C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C - D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

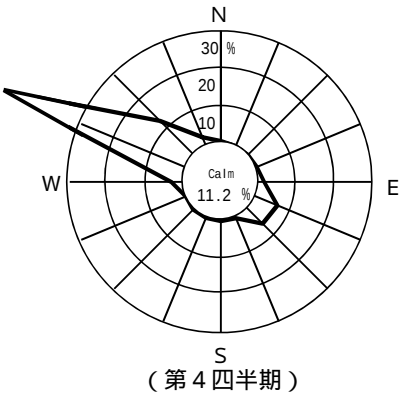
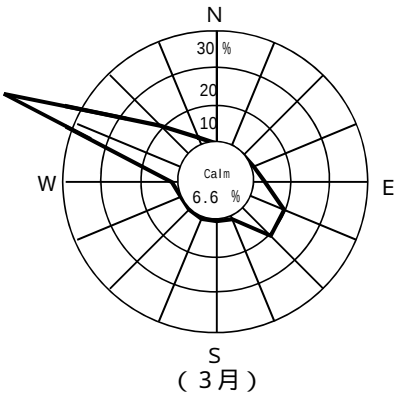
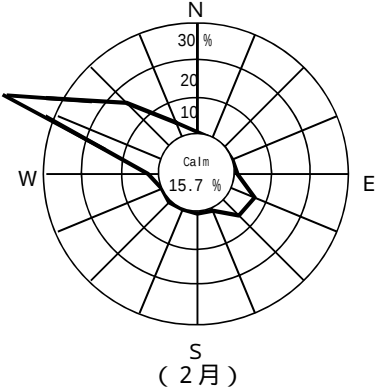
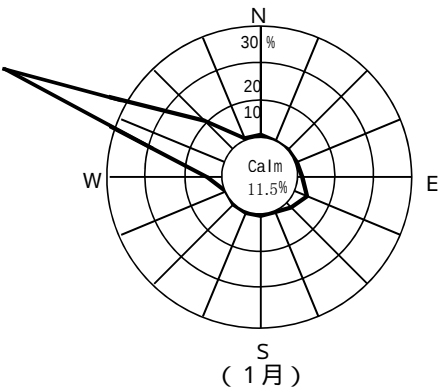
・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（平成13年3月 原子力安全委員会）



大気安定度と煙の型との模式

風配図

二 又



Calm: 風速0.4m/sec以下

3 . 原子燃料サイクル施設操業状況

(事 業 者 報 告)

表中の記号

* : 検出限界未満 (放射能の分析)

* * : 分析値が読み取れる限度を下回っている場合 (フッ素分析)

/ : 放出実績なし

(1) ウラン濃縮工場の操業状況

運転状況及び主要な保守状況 (平成 22 年 1 月 ~ 平成 22 年 3 月)

運 転 状 況	運転単位	22 年 1 月	22 年 2 月	22 年 3 月
	RE - 1 A	1		
	RE - 1 B	2		
	RE - 1 C	3		
	RE - 1 D	4		
	RE - 2 A	5		
	RE - 2 B	生産運転中 6		
	RE - 2 C	7		
主 要 な 保 守 状 況		加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・ U F ₆ 処理設備 ・ 均質・ブレンドイング設備 ・ 付着ウラン回収設備 ・ 気体廃棄物廃棄設備 ・ 液体廃棄物廃棄設備 ・ 非常用設備	加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・ U F ₆ 処理設備 ・ 均質・ブレンドイング設備 ・ 付着ウラン回収設備 ・ 気体廃棄物廃棄設備 ・ 液体廃棄物廃棄設備 ・ 非常用設備	加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・ U F ₆ 処理設備 ・ 均質・ブレンドイング設備 ・ 付着ウラン回収設備 ・ 気体廃棄物廃棄設備 ・ 液体廃棄物廃棄設備 ・ 非常用設備
備 考		・ 運転単位 第一期分 (R E - 1) : 150 トン SWU/年 × 4 運転単位 第二期分 (R E - 2) : 150 トン SWU/年 × 3 運転単位 1 R E - 1 A : 生産運転停止中 (H 1 2 . 4 . 3 ~) 2 R E - 1 B : 生産運転停止中 (H 1 4 . 1 2 . 1 9 ~) 3 R E - 1 C : 生産運転停止中 (H 1 5 . 6 . 3 0 ~) 4 R E - 1 D : 生産運転停止中 (H 1 7 . 1 1 . 3 0 ~) 5 R E - 2 A : 生産運転停止中 (H 1 8 . 1 1 . 3 0 ~) 6 R E - 2 B : 一部カスケード停止 (H 1 9 . 1 1 . 2 0 ~) 7 R E - 2 C : 生産運転停止中 (H 2 0 . 2 . 1 2 ~)		

放射性物質及びフッ素化合物の放出状況（平成22年1月～平成22年3月）

（a）ウラン濃縮施設

放射性廃棄物等の種類		測定箇所	平均濃度	管理目標値
ウラン	気体	排気口 A	* (Bq/cm ³)	2×10^{-8} (Bq/cm ³)
	液体	処理水ピット	* (Bq/cm ³)	1×10^{-3} (Bq/cm ³)
フッ素化合物	気体 (HF)	排気口 A	** (mg/m ³)	0.1 (mg/m ³)
	液体 (F)	処理水ピット	** (mg/l)	1 (mg/l)
備考		ウランの検出限界濃度は次のとおりである。 気体 : 2×10^{-9} (Bq/cm ³) 以下 液体 : 1×10^{-4} (Bq/cm ³) 以下 フッ素化合物の測定値の読み取れる限度は次のとおりである。 気体 : 4×10^{-3} (mg/m ³) 以下 液体 : 0.1 (mg/l)		

（b）その他施設（研究開発棟）

放射性廃棄物等の種類		測定箇所	平均濃度	管理目標値
ウラン	気体	排気口 B	* (Bq/cm ³)	2×10^{-8} (Bq/cm ³)
	液体	処理水ピット	* (Bq/cm ³)	1×10^{-3} (Bq/cm ³)
フッ素化合物	気体 (HF)	排気口 B	** (mg/m ³)	0.1 (mg/m ³)
	液体 (F)	処理水ピット	** (mg/l)	1 (mg/l)
備考		ウランの検出限界濃度は次のとおりである。 気体 : 2×10^{-9} (Bq/cm ³) 以下 液体 : 1×10^{-4} (Bq/cm ³) 以下 フッ素化合物の測定値の読み取れる限度は次のとおりである。 気体 : 4×10^{-3} (mg/m ³) 以下 液体 : 0.1 (mg/l)		

(2) 低レベル放射性廃棄物埋設センターの操業状況

廃棄物受入れ・埋設数量及び主要な保守状況（平成 22 年 1 月～平成 22 年 3 月）

	22 年 1 月	22 年 2 月	22 年 3 月	四半期合計	合 計	前年度末 合 計
受入れ 数量	0 本	1,264 本	1,600 本	2,864 本	9,136 本	210,851 本
					219,987 本	
埋 設 数 量	1,800 本	680 本	2,040 本	4,520 本	10,600 本	208,107 本
					218,707 本	
主 要 な 保 守 状 況	実績なし	廃棄物埋設施設保安規定に基づく吊り上げ高さ検査 ・ 1 号埋設クレーン	実績なし			
備 考	・ 合計欄の上段は年度合計、下段は累積合計を示す。 ・ 受入れ数量：廃棄体を低レベル廃棄物管理建屋に搬入した本数 ・ 埋設数量：廃棄体を埋設設備に定置した本数					

放射性物質の放出状況（平成 22 年 1 月～平成 22 年 3 月）

放射性廃棄物の種類		測 定 の 箇 所	平 均 濃 度	管 理 目 標 値
気 体	H - 3	排 気 口 C	(Bq/cm³)	5 × 10 ^{- 4} (Bq/cm ³)
	Co - 60	排 気 口 C	(Bq/cm³)	3 × 10 ^{- 7} (Bq/cm ³)
	Cs - 137	排 気 口 C	(Bq/cm³)	1 × 10 ^{- 6} (Bq/cm ³)
液 体	H - 3	サンフ° ルタンク	(Bq/cm³)	6 × 10 ⁰ (Bq/cm ³)
	Co - 60	サンフ° ルタンク	(Bq/cm³)	1 × 10 ^{- 2} (Bq/cm ³)
	Cs - 137	サンフ° ルタンク	(Bq/cm³)	7 × 10 ^{- 3} (Bq/cm ³)
備 考				

地下水中の放射性物質の濃度の測定結果（平成 22 年 1 月～平成 22 年 3 月）

測定項目 測定の箇所	H - 3 (Bq/cm ³)		Co - 60 (Bq/cm ³)		Cs - 137 (Bq/cm ³)	
	平均 値	最高 値	平均 値	最高 値	平均 値	最高 値
地下水監視設備(1)	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備(2)	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備(3)	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備(4)	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備(5)	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備(6)	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備(7)	*	*	*	*	*	*
法に定める濃度限度	6 × 10 ⁻¹		2 × 10 ⁻¹		9 × 10 ⁻²	
備 考	・ 法に定める濃度限度：「核燃料物質の加工の事業に関する規則等の規定に基づき、線量限度等を定める告示」(平成 12 年科学技術庁告示第 13 号) 検出限界濃度は次のとおりである。 H - 3 : 6 × 10 ⁻¹ (Bq/cm ³) 以下 Co - 60 : 1 × 10 ⁻³ (Bq/cm ³) 以下 Cs - 137 : 7 × 10 ⁻⁴ (Bq/cm ³) 以下					

(3) 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターの操業状況

廃棄物受入れ・管理数量及び主要な保守状況 (平成 22 年 1 月 ~ 平成 22 年 3 月)

	四半期合計	年度合計	累積合計	前年度末合計
ガラス固化体受入れ数量	28 本	28 本	1,338 本	1,310 本
ガラス固化体管理数量	0 本	0 本	1,310 本	1,310 本
主要な保守状況	廃棄物管理施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・ 収納管排気設備の入口圧力の測定等を行う計測制御設備 ・ 廃水貯槽の漏えい水の検知装置			
備 考				

放射性物質の放出状況 (平成 22 年 1 月 ~ 平成 22 年 3 月)

放射性廃棄物の種類		測定の箇所	平均濃度	管理目標値
気 体	放射性ルテニウム	排気口 D	* (Bq/cm ³)	1 × 10 ⁻⁷ (Bq/cm ³)
	放射 性 セ シ ウ ム	排気口 D	* (Bq/cm ³)	9 × 10 ⁻⁷ (Bq/cm ³)
備 考		検出限界濃度は次に示すとおりである。 放射性ルテニウム : 1 × 10 ⁻⁸ (Bq/cm ³) 以下 放射性セシウム : 4 × 10 ⁻⁹ (Bq/cm ³) 以下		

(4) 再処理工場の操業状況

使用済燃料受入れ量、再処理量及び在庫量並びに主要な保守状況

(平成 22 年 1 月 ~ 平成 22 年 3 月)

		四半期合計	年度合計	累積合計	前年度末合計
受入れ量	P W R 燃料集合体	112 体 約 48 t・Upr	560 体 約 239 t・Upr	3,634 体 約 1,553 t・Upr	3,074 体 約 1,314 t・Upr
	B W R 燃料集合体	0 体 0 t・Upr	0 体 0 t・Upr	9,300 体 約 1,612 t・Upr	9,300 体 約 1,612 t・Upr
再処理量	P W R 燃料集合体	0 体 0 t・Upr	0 体 0 t・Upr	456 体 約 206 t・Upr	456 体 約 206 t・Upr
	B W R 燃料集合体	0 体 0 t・Upr	0 体 0 t・Upr	1,246 体 約 219 t・Upr	1,246 体 約 219 t・Upr
在庫量 (3 月末)	P W R 燃料集合体			3,178 体 約 1,347 t・Upr	2,618 体 約 1,108 t・Upr
	B W R 燃料集合体			8,054 体 約 1,393 t・Upr	8,054 体 約 1,393 t・Upr
主要な保守状況		再処理施設保安規定に基づく施設定期自主検査 (使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設、プール水浄化・冷却設備、安全冷却水系 (使用済燃料の受入れ及び貯蔵用) 、せん断処理・溶解廃ガス処理設備、溶解設備、分配設備、精製施設、プルトニウム精製設備、高レベル廃液ガラス固化設備、高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備、前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備、精製建屋換気設備、制御建屋中央制御室換気設備、液体廃棄物の廃棄施設、安全圧縮空気系、安全蒸気系、補給水設備、非常用所内電源系統、漏えい検知装置等、放射線管理施設、その他再処理設備の附属施設)			
備 考		・「t・Upr」: 照射前金属ウラン質量換算 ・受入れ量及び再処理量のウラン量については端数処理しているため、必ずしも一致しない。			

製品の生産量（実績）（平成 22 年 1 月～平成 22 年 3 月）

	生 産 量	
	ウラン製品 （ウラン酸化物製品）	プルトニウム製品 （ウラン・プルトニウム混合酸化物製品）
四半期	0 t・U	0 kg
累 計	約 3 6 4 t・U	約 6 , 6 5 6 kg
備 考	・ウラン製品量は、ウラン酸化物製品の金属ウランの質量換算とする。 なお、ウラン試験に用いた金属ウラン（51.7 t・U）は、ウラン製品には含めていない。 ・プルトニウム製品量は、ウラン・プルトニウム混合酸化物の金属ウラン及び金属プルトニウム（1：1）の合計質量換算とする。	

放射性物質の放出状況（平成 22 年 1 月～平成 22 年 3 月）

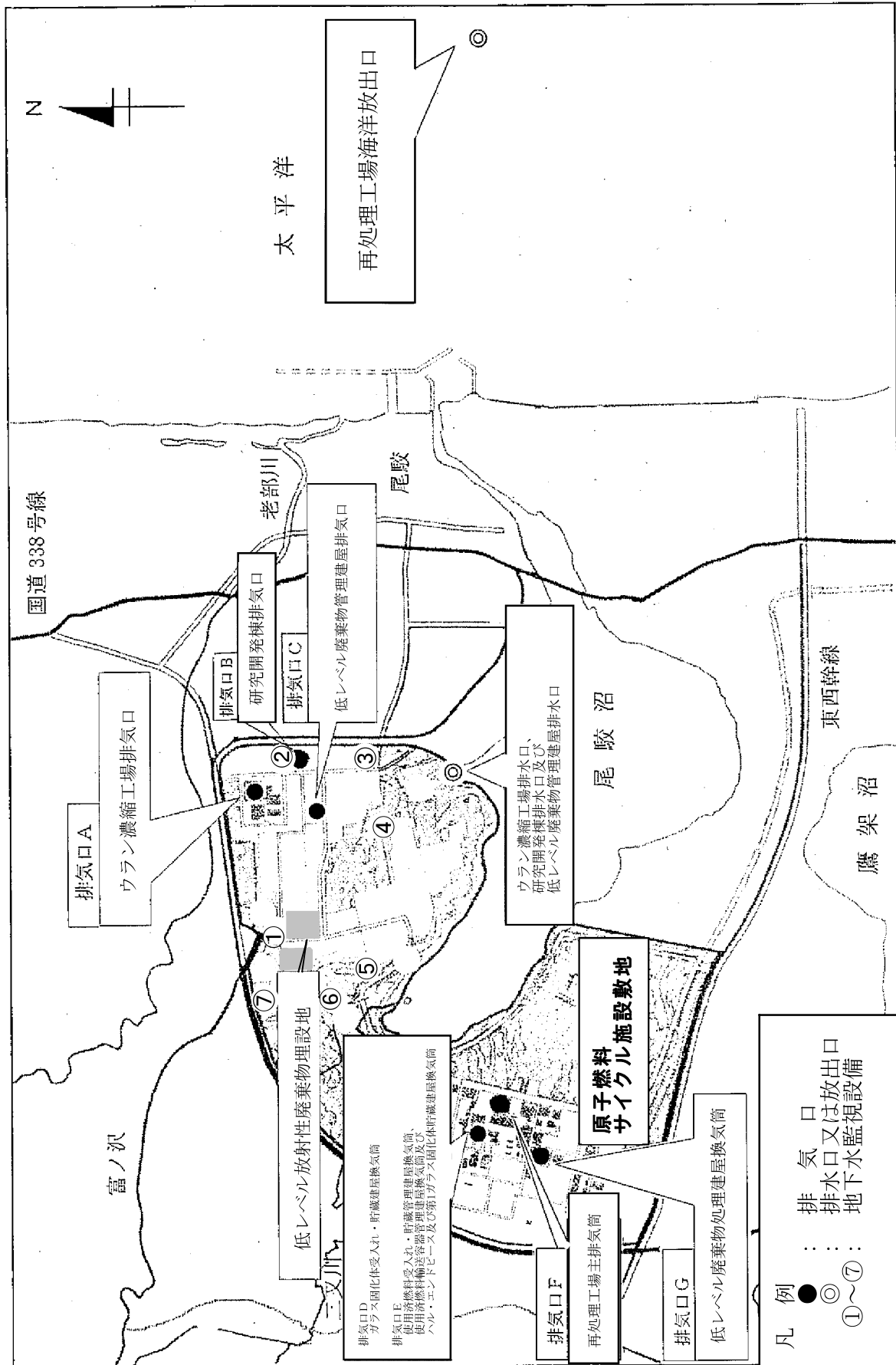
（a）放射性液体廃棄物の放射性物質の放出量

核 種 （測定箇所）	放 出 量					年間放出 管理目標値
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度合計	
H - 3 （放出前貯槽）	1.6×10^{12} (Bq)	1.2×10^{12} (Bq)	7.3×10^{11} (Bq)	5.8×10^{11} (Bq)	4.1×10^{12} (Bq)	1.8×10^{16} (Bq)
I - 1 2 9 （放出前貯槽）	8.6×10^6 (Bq)	1.2×10^6 (Bq)	2.7×10^6 (Bq)	* (Bq)	1.2×10^7 (Bq)	4.3×10^{10} (Bq)
I - 1 3 1 （放出前貯槽）	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	1.7×10^{11} (Bq)
その他 α 線を 放出する核種 （放出前貯槽）	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	3.8×10^9 (Bq)
その他 α 線を 放出しない核種 （放出前貯槽）	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	2.1×10^{11} (Bq)
備 考	放射性物質の放出量(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm³)に排水量(cm³)を乗じて求めている。 検出限界濃度は次に示すとおりである。 H - 3 : 2×10^{-1} (Bq/cm³)以下 I - 1 2 9 : 2×10^{-3} (Bq/cm³)以下 I - 1 3 1 : 2×10^{-2} (Bq/cm³)以下 その他 α 線を放出する核種 : 4×10^{-3} (Bq/cm³)以下 その他 α 線を放出しない核種 : 4×10^{-2} (Bq/cm³)以下					

(b) 放射性気体廃棄物の放射性物質の放出量

核 種 (測定箇所)	放 出 量					年間放出 管理目標値
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度合計	
K r - 8 5 (排気口 E , F)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	3.3 × 10 ¹⁷ (Bq)
H - 3 (排気口 E , F , G)	1.2 × 10 ¹¹ (Bq)	7.0 × 10 ¹⁰ (Bq)	9.0 × 10 ¹⁰ (Bq)	5.4 × 10 ¹⁰ (Bq)	3.4 × 10 ¹¹ (Bq)	1.9 × 10 ¹⁵ (Bq)
C - 1 4 (排気口 F)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	5.2 × 10 ¹³ (Bq)
I - 1 2 9 (排気口 E , F)	1.8 × 10 ⁶ (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	1.8 × 10 ⁶ (Bq)	1.1 × 10 ¹⁰ (Bq)
I - 1 3 1 (排気口 F)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	1.7 × 10 ¹⁰ (Bq)
その他 α 線を 放出する核種 (排気口 E , F , G)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	3.3 × 10 ⁸ (Bq)
その他 α 線を 放出しない核種 (排気口 E , F , G)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	9.4 × 10 ¹⁰ (Bq)
備 考	放射性物質の放出量(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm ³)に排気量 (cm ³)を乗じて求めている。					
	排気口 E は、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋換気筒、ハル・エンドピース及び第 1 ガラス固化体貯蔵建屋換気筒、使用済燃料輸送容器管理建屋換気筒の排 気口であり、これらのうちいずれかの排気口で測定している核種について放出 量を記載している。					
	検出限界濃度は次に示すとおりである。					
	K r - 8 5 : 2 × 10 ^{- 2} (Bq/cm ³)以下 H - 3 : 4 × 10 ^{- 5} (Bq/cm ³)以下 C - 1 4 : 4 × 10 ^{- 5} (Bq/cm ³)以下 I - 1 2 9 : 4 × 10 ^{- 8} (Bq/cm ³)以下 I - 1 3 1 : 7 × 10 ^{- 9} (Bq/cm ³)以下 その他 α 線を放出する核種 : 4 × 10 ^{- 1 0} (Bq/cm ³)以下 その他 α 線を放出しない核種 : 4 × 10 ^{- 9} (Bq/cm ³)以下					

図 原子燃料サイクル施設の排気口、排水口、放出口及び地下水監視設備位置図



参 考 資 料

1. モニタリングポスト測定結果

(1) 再処理事業所モニタリングポスト測定結果

空間放射線量率

大気中の気体状 β 放射能(クリプトン-85換算)

(2) 濃縮・埋設事業所モニタリングポスト測定結果

空間放射線量率

2. 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果

3. 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果

4. 気象観測結果

風速

降水量

大気安定度

風配図

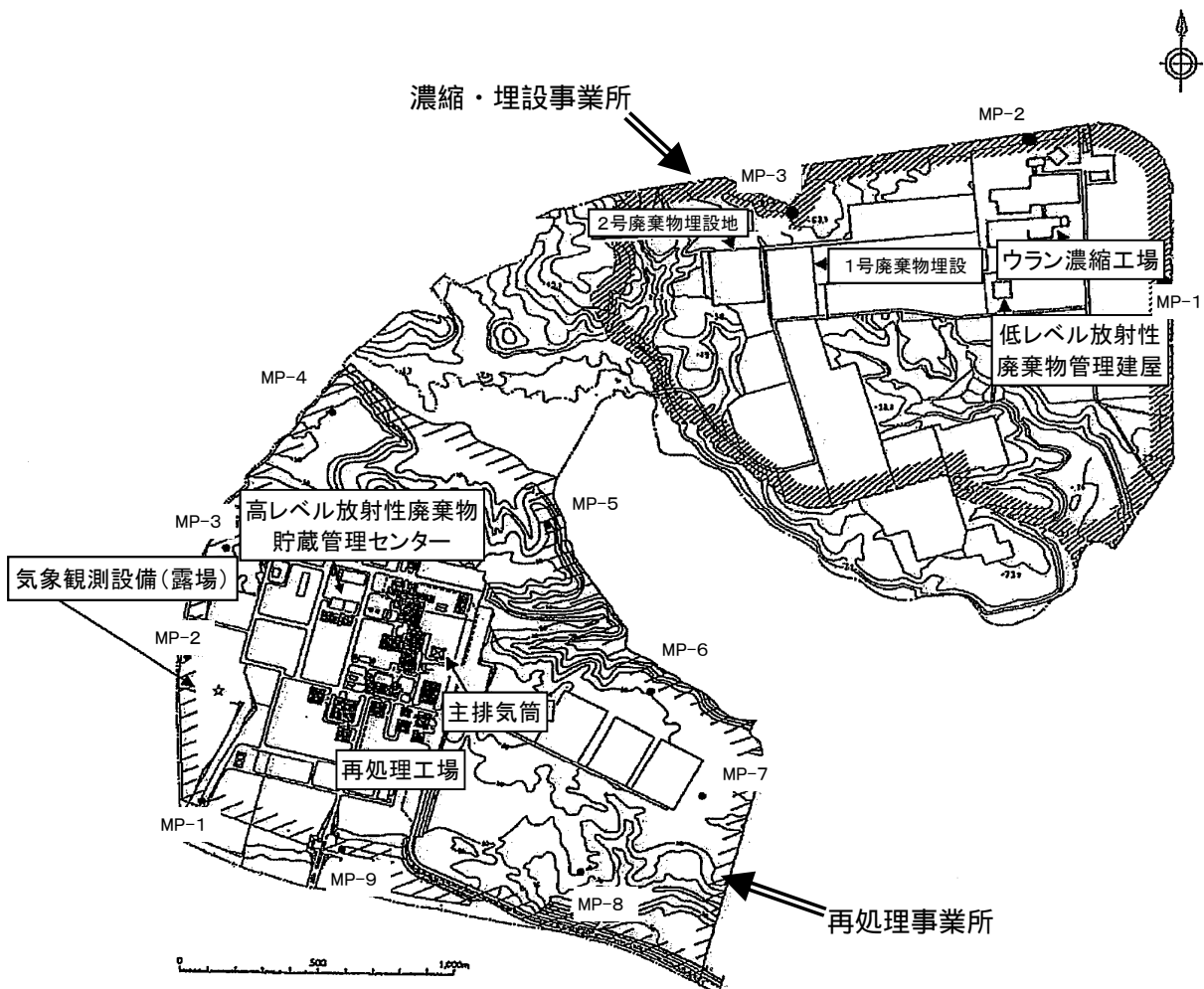


図 モニタリングポスト、主排気筒、気象観測設備配置図

1. モニタリングポスト測定結果

(1) 再処理事業所モニタリングポスト（平成22年1月 ～ 平成22年3月）

空間放射線量率

（単位：nGy/h）

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去 最大値	備考
MP - 1	1 月	14	34	10	73	
	2 月	13	30	10		
	3 月	14	32	11		
	第4四半期	14	34	10		
MP - 2	1 月	15	35	12	64	
	2 月	14	30	11		
	3 月	16	37	12		
	第4四半期	15	37	11		
MP - 3	1 月	13	34	10	71	
	2 月	12	33	9		
	3 月	13	38	10		
	第4四半期	13	38	9		
MP - 4	1 月	14	35	11	80	
	2 月	13	31	11		
	3 月	14	38	10		
	第4四半期	14	38	10		
MP - 5	1 月	14	32	11	72	
	2 月	14	28	11		
	3 月	14	33	12		
	第4四半期	14	33	11		
MP - 6	1 月	14	32	10	81	
	2 月	12	29	10		
	3 月	13	34	11		
	第4四半期	13	34	10		
MP - 7	1 月	15	34	11	81	
	2 月	13	30	11		
	3 月	15	36	10		
	第4四半期	14	36	10		
MP - 8	1 月	14	32	11	80	
	2 月	13	32	10		
	3 月	14	32	10		
	第4四半期	14	32	10		
MP - 9	1 月	15	37	12	69	
	2 月	14	30	12		
	3 月	16	34	12		
	第4四半期	15	37	12		

・ 2"φ × 2"φ NaI(Tl)シンチレーション検出器（温度補償型）、局舎屋根（地上約4m）に設置。

・ 測定値は1時間値。

・ 測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

・ 「過去最大値」は、平成7～20年度の測定値の最大値。

大気中の気体状β放射能（クリプトン - 85換算）

（単位：kBq/m³）

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去 最大値	備考
MP - 1	1 月	ND	ND	ND	3	定量下限値以上 となった回数 :0回
	2 月	ND	ND	ND		
	3 月	ND	ND	ND		
	第4四半期	ND	ND	ND		
MP - 2	1 月	ND	ND	ND	4	定量下限値以上 となった回数 :0回
	2 月	ND	ND	ND		
	3 月	ND	ND	ND		
	第4四半期	ND	ND	ND		
MP - 3	1 月	ND	ND	ND	3	定量下限値以上 となった回数 :0回
	2 月	ND	ND	ND		
	3 月	ND	ND	ND		
	第4四半期	ND	ND	ND		
MP - 4	1 月	ND	ND	ND	3	定量下限値以上 となった回数 :0回
	2 月	ND	ND	ND		
	3 月	ND	ND	ND		
	第4四半期	ND	ND	ND		
MP - 5	1 月	ND	ND	ND	5	定量下限値以上 となった回数 :0回
	2 月	ND	ND	ND		
	3 月	ND	ND	ND		
	第4四半期	ND	ND	ND		
MP - 6	1 月	ND	ND	ND	11	定量下限値以上 となった回数 :0回
	2 月	ND	ND	ND		
	3 月	ND	ND	ND		
	第4四半期	ND	ND	ND		
MP - 7	1 月	ND	ND	ND	16	定量下限値以上 となった回数 :0回
	2 月	ND	ND	ND		
	3 月	ND	ND	ND		
	第4四半期	ND	ND	ND		
MP - 8	1 月	ND	ND	ND	9	定量下限値以上 となった回数 :0回
	2 月	ND	ND	ND		
	3 月	ND	ND	ND		
	第4四半期	ND	ND	ND		
MP - 9	1 月	ND	ND	ND	3	定量下限値以上 となった回数 :0回
	2 月	ND	ND	ND		
	3 月	ND	ND	ND		
	第4四半期	ND	ND	ND		

・プラスチックシンチレーション検出器（350×300×2mm）

・測定値は1時間値。

・NDは、定量下限値（2 kBq/m³）未満を示す。

・「過去最大値」は、平成7～20年度の測定値の最大値。

・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と示す。

(2) 濃縮・埋設事業所モニタリングポスト（平成22年1月 ～ 平成22年3月）

空間放射線量率

（単位：nGy/h）

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去 最大値	備考
M P - 1	1 月	14	38	10	75	
	2 月	12	32	9		
	3 月	15	47	10		
	第4四半期	14	47	9		
M P - 2	1 月	19	40	14	64	
	2 月	17	35	14		
	3 月	20	49	16		
	第4四半期	19	49	14		
M P - 3	1 月	17	40	12	71	
	2 月	14	32	11		
	3 月	18	51	13		
	第4四半期	16	51	11		

・2"φ×2"φNaI(Tl)シンチレーション検出器（温度補償型）、地上約1.8m設置。

・測定値は1時間値。

・測定値は3MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

・「過去最大値」は、平成16～20年度までの測定値の最大値。

2．再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果（平成22年1月 ～ 平成22年3月）

(単位:Bq)

測定月	^{85}Kr	^3H	^{14}C	^{129}I	^{131}I	その他 α 線を放出する核種	その他 α 線を放出しない核種	備考
1月	*	2.2×10^{10}	*	*	*	*	*	
2月	*	1.5×10^{10}	*	*	*	*	*	
3月	*	1.7×10^{10}	*	*	*	*	*	
第4四半期	*	5.4×10^{10}	*	*	*	*	*	

注)「その他 α 線を放出する核種」は全 α 、「その他 α 線を放出しない核種」は全 $\beta(\gamma)$ 及び揮発性 ^{106}Ru である。

全 α 又は全 $\beta(\gamma)$ が検出限界以上の場合、当該試料について核種別に測定した結果を用いて算出している。

(参考) その他 α 線を放出する核種及びその他 α 線を放出しない核種の核種ごとの放出量(単位:Bq)

測定月	$\text{Pu}(\alpha)$	^{106}Ru	^{137}Cs	^{90}Sr	備考
1月	*	*	*		
2月	*	*	*		
3月	*	*	*		
第4四半期	*	*	*	*	

注) ^{90}Sr は、四半期ごとに測定している。

3．再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果（平成22年1月 ～ 平成22年3月）

(単位:Bq)

測定月	^3H	^{129}I	^{131}I	その他 α 線を放出する核種	その他 α 線を放出しない核種	備考
1月	2.3×10^{11}	*	*	*	*	
2月	1.8×10^{11}	*	*	*	*	
3月	1.6×10^{11}	*	*	*	*	
第4四半期	5.8×10^{11}	*	*	*	*	

注)「その他 α 線を放出する核種」は全 α 、「その他 α 線を放出しない核種」は全 $\beta(\gamma)$ である。

全 α 又は全 $\beta(\gamma)$ が検出限界以上の場合、当該試料について核種別に測定した結果を用いて算出している。

(参考) その他 α 線を放出する核種及びその他 α 線を放出しない核種の核種ごとの放出量(単位:Bq)

測定月	$\text{Pu}(\alpha)$	$\text{Am}(\alpha)$	$\text{Cm}(\alpha)$	^{241}Pu	^{60}Co	^{106}Ru	^{134}Cs	^{137}Cs
1月	*	*	*	*	*	*	*	*
2月	*	*	*	*	*	*	*	*
3月	*	*	*	*	*	*	*	*
第4四半期	*	*	*	*	*	*	*	*

測定月	^{154}Eu	^{144}Ce	^{90}Sr	備考
1月	*	*		
2月	*	*		
3月	*	*		
第4四半期	*	*	*	

注) ^{90}Sr は、四半期ごとに測定している。

○ 放出量測定結果における検出限界濃度

(1) 気体廃棄物の検出限界濃度

核 種	検出限界濃度
^{85}Kr	$2 \times 10^{-2}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^3H	$4 \times 10^{-5}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{14}C	$4 \times 10^{-5}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{129}I	$4 \times 10^{-8}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{131}I	$7 \times 10^{-9}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
全 α	$4 \times 10^{-10}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
全 $\beta(\gamma)$	$4 \times 10^{-9}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
$\text{Pu}(\alpha)$	$4 \times 10^{-10}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{106}Ru	$4 \times 10^{-9}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{137}Cs	$4 \times 10^{-9}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{90}Sr	$4 \times 10^{-10}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下

注) ^{106}Ru は粒子状 ^{106}Ru 及び揮発性 ^{106}Ru それぞれに対する値を示した。

(2) 液体廃棄物の検出限界濃度

核 種	検出限界濃度
^3H	$2 \times 10^{-1}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{129}I	$2 \times 10^{-3}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{131}I	$2 \times 10^{-2}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
全 α	$4 \times 10^{-3}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
全 $\beta(\gamma)$	$4 \times 10^{-2}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
$\text{Pu}(\alpha)$	$1 \times 10^{-3}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
$\text{Am}(\alpha)$	$6 \times 10^{-5}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
$\text{Cm}(\alpha)$	$6 \times 10^{-5}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{241}Pu	$3 \times 10^{-2}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{60}Co	$2 \times 10^{-2}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{106}Ru	$2 \times 10^{-2}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{134}Cs	$2 \times 10^{-2}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{137}Cs	$2 \times 10^{-2}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{154}Eu	$2 \times 10^{-2}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{144}Ce	$2 \times 10^{-2}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下
^{90}Sr	$7 \times 10^{-4}(\text{Bq}/\text{cm}^3)$ 以下

4. 気象観測結果（平成22年1月 ～ 平成22年3月）

風 速

測定高さ	測 定 月	風 速 (m/sec)		備 考
		平 均	最 大	
地上10m	1 月	6.0	14.7	
	2 月	4.2	12.7	
	3 月	5.1	15.3	
	第4四半期	5.1	15.3	
地上150m	1 月	10.5	23.9	
	2 月	7.9	21.8	
	3 月	9.1	24.2	
	第4四半期	9.2	24.2	

- ・測定値は「地上気象観測指針（平成14年 気象庁）」に基づく1時間値。
- ・地上10m：風向風速計[超音波式]（気象庁検定付）、連続測定（1時間値）
- ・地上150m：ドップラーソーダ、連続測定（1時間値）

降水量

測定地点	測定月	降水量 (mm)	備 考
露 場	1 月	105.0	
	2 月	43.5	
	3 月	53.5	
	第4四半期	202.0	

- ・「地上気象観測指針（平成14年 気象庁）」に基づく1時間値を用いて算出。
- ・雨雪量計[転倒ます型]（気象庁検定付）

大気安定度

（単位：時間〔括弧内は％〕）

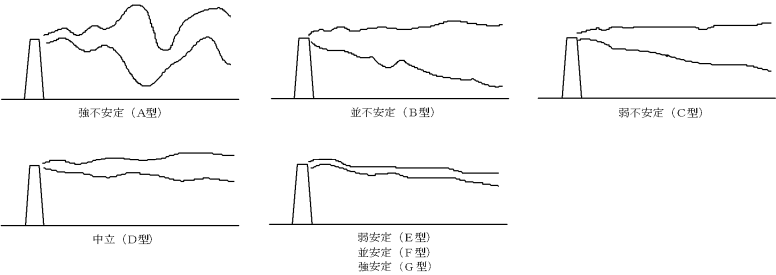
測定地点	分類	A	A - B	B	B - C	C	C - D	D	E	F	G	計	備 考
	測定月												
露 場	1 月	0 (0.0)	3 (0.4)	6 (0.8)	2 (0.3)	16 (2.2)	7 (0.9)	629 (84.8)	22 (3.0)	22 (3.0)	35 (4.7)	742 (100)	
	2 月	0 (0.0)	18 (2.7)	26 (3.9)	16 (2.4)	33 (4.9)	20 (3.0)	449 (66.9)	35 (5.2)	18 (2.7)	56 (8.3)	671 (100)	
	3 月	2 (0.3)	13 (1.8)	20 (2.8)	15 (2.1)	61 (8.7)	19 (2.7)	493 (70.1)	33 (4.7)	21 (3.0)	26 (3.7)	703 (100)	
	第4四半期	2 (0.1)	34 (1.6)	52 (2.5)	33 (1.6)	110 (5.2)	46 (2.2)	1571 (74.2)	90 (4.3)	61 (2.9)	117 (5.5)	2116 (100)	

- ・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（平成13年3月 原子力安全委員会）」に基づく1時間値を用いて分類。
- ・風向風速[超音波式]（気象庁検定付）、日射計[電気式]（気象庁検定付）、放射収支計[熱電対式]

大気安定度分類表

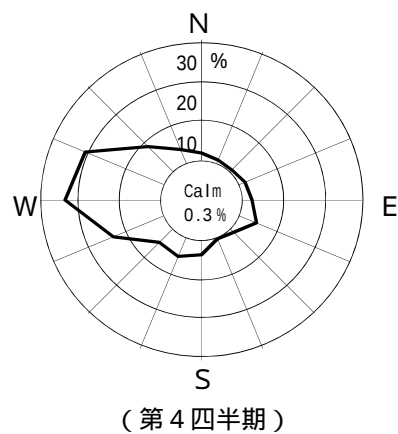
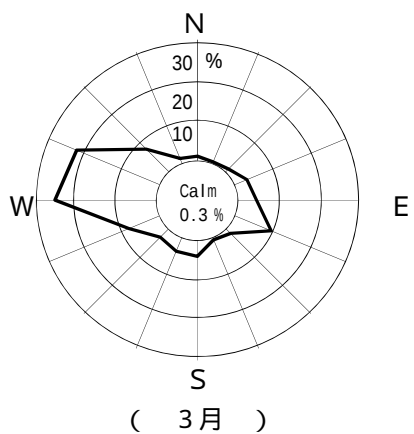
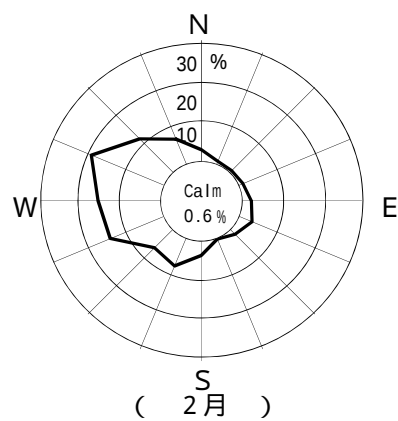
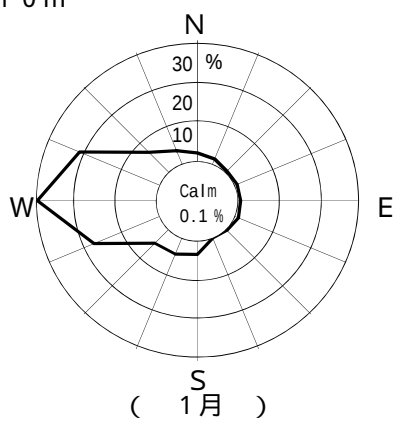
風速(U) m/s	日射量(T) kW/m ²				放射収支量(Q) kW/m ²		
	T 0.60	0.60 > T 0.30	0.30 > T 0.15	0.15 > T	Q -0.020	-0.020 > Q -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
U ≥ 6	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（平成13年3月 原子力安全委員会）

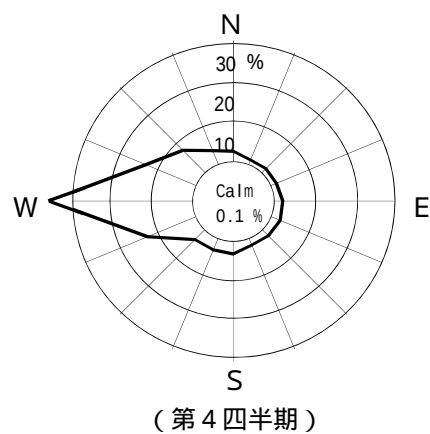
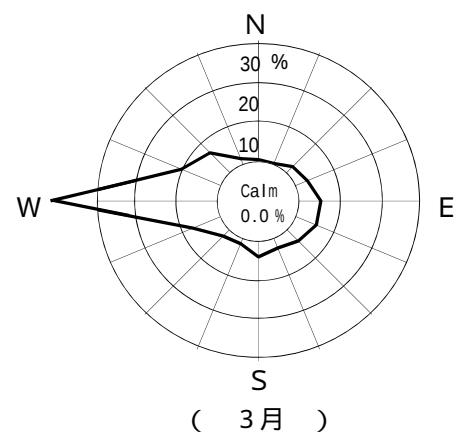
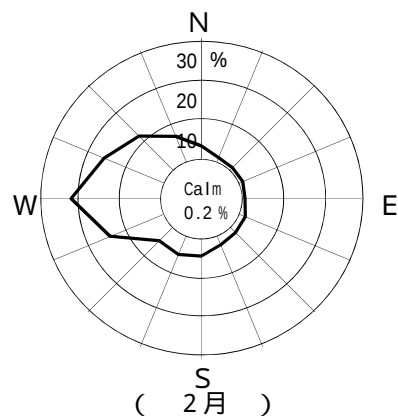
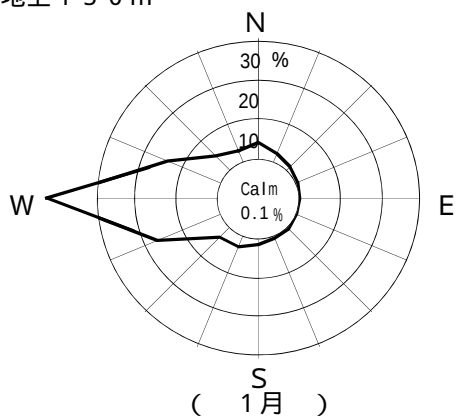


大気安定度と煙の型との模式図

風配図
・地上10m



・地上150m



CaIm : 風速0.4m/sec以下

4 . 原 子 燃 料 サ イ ク ル 施 設 に 係 る 環 境 放 射 線 等 モ ニ タ リ ン グ 実 施 要 領

平成	元 年	3 月策定
平成	5 年	3 月改訂
平成	7 年	6 月改訂
平成	9 年 1	1 月改訂
平成 1	3 年	4 月改訂
平成 1	4 年	4 月改訂
平成 1	5 年	4 月改訂
平成 1	5 年	8 月改訂
平成 1	7 年 1	0 月改訂
平成 1	9 年	3 月改訂
平成 2	1 年	4 月改訂
平成 2	2 年	3 月改訂

青 森 県

原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング実施要領

平成	元 年	3 月策定
平成	5 年	3 月改訂
平成	7 年	6 月改訂
平成	9 年	1 1 月改訂
平成	1 3 年	4 月改訂
平成	1 4 年	4 月改訂
平成	1 5 年	4 月改訂
平成	1 5 年	8 月改訂
平成	1 7 年	1 0 月改訂
平成	1 9 年	3 月改訂
平成	2 1 年	4 月改訂
平成	2 2 年	3 月改訂

1 . 趣旨

「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング基本計画」により環境放射線等の測定方法、分析方法等について必要な事項を定めるものとする。

2. 測定装置及び測定方法

(1) 空間放射線

項 目	青		森		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定	装 置	測 定	方 法	測 定 装 置	測 定 方 法
モニタリング ステーションによる 空間放射線量率	・低線量率計 3"φ×3" NaI(Tl)シンチレーション検 出器（温度補償方式加温装置付） G(E) 関数荷重演算方式	・低線量率計 14φ、4気圧球形窒素ガス加圧型電離箱 検出器（加温装置付）	測 定 法：文部科学省編「連続モニタによる環 境γ線測定法」（平成8年改訂）に準 拠 連続測定（1時間値） 測定位置：地上 1.8 m 校正線源： ¹³⁷ Cs		・低線量率計：同 左	測 定 法：同 左
	・高線量率計		・高線量率計 14φ、8気圧球形窒素ガス + アル ゴンガス加圧型電離箱検出器（加 温装置付）		測定位置：同 左 校正線源： ²²⁶ Ra	

項 目	青		森	
	測 定	装 置	測 定	方 法
モニタリング ポストによる 空間放射線量率	・低線量率計 2"φ×2" NaI(Tl)シンチレーション検 出器(温度補償方式加温装置付) G(E) 関数荷重演算方式(横浜町役場、野辺 地町役場、東北町役場、東北分庁舎、 三沢市役所)	・低線量率計 3"φ×3" NaI(Tl)シンチレーション検 出器(温度補償方式加温装置付) G(E) 関数荷重演算方式(砂子又)	測 定 法: 文部科学省編「連続モニタによる環 境γ線測定法」(平成8年改訂)に準 拠 連続測定(1時間値) 測定位置: 地上 3.8 m(屋根上)(東北町役場、 東北分庁舎、三沢市役所) 地上 3.4 m(屋根上)(横浜町役場) 地上 1.8 m(野辺地町役場、砂子又) 校正線源: ¹³⁷ Cs	

項 目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測 定 装 置	測 定 方 法
積 算 線 量	・蛍光ガラス線量計（RPLD）	測 定 法:文部科学省編「蛍光ガラス線量計を 用いた環境γ線量測定法」（平成 14年）に準拠 素 子 数:地点当たり3個 積算期間:3箇月 収 納 箱:木製 測定位置:地上 1.8 m 校正線源: ¹³⁷ Cs	・同 左	

(2) 環境試料中の放射能

項 目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測 定 装 置	測 定 方 法
大気浮遊じん中の 全α及び全β放射能	・ダストモニタ 検 出 器 α線、β線用 50 mmφ ZnS(Ag)+ プラス チックシンチレーション検出器	測 定 法: 文部科学省編「全ベータ放射能 測定法」(昭和 51 年改訂) に準 拠 連続測定 集じん時間: 168 時間 計 測 時 間: 集じん終了後 72 時間放置 1 時間測定 集じん方法: る紙間けつ自動移動方式 る 紙: HE-40T 大気吸引量: 約 100 ℓ / 分 吸引口位置: 地上 1.5 ~ 2.0 m 校 正 線 源: U_3O_8	・同 左	
大 気 中 の 気 体 状 β 放射能	・β線ガスモニタ 検 出 器 プラスチックシンチレーション検出器 (350×300×0.5 mm×2 枚) 検出槽容量 約 30 ℓ	測 定 法: 連続測定 (1 時間値) 大気吸引量: 約 6.5 ℓ / 分 吸引口位置: 地上 1.5 ~ 2.0 m 装置設置前の初期校正線源: ^{85}Kr 装置設置後の定期校正線源: ^{133}Ba	・同 左	

項 目	青 島 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測定装置	測定方法
機 器 分 析 γ 線 放 出 核 種	・ゲルマニウム半導体検出器	測 定 法: 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリ」(平成4年改訂)に準拠 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器を用いる機器分析のための試料の前処理法」(昭和57年)に準拠 文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成8年改訂)に準拠 測定試料形態: 降 下 物 蒸発残留物 大気浮遊じん 陸 水 3 箇月分のろ紙の集積 表土、河底土、湖底土 農 産 物 灰化物 畜 産 物 灰化物(牛乳中の ¹³¹ Iの測定では生試料) 指 標 生 物 灰化物 海 水 と 共沈法による沈殿物 一部湖沼水 海 底 土 乾燥細土 海 産 物 灰化物 測定容器: U-8 容器又はマリネリビーカー 測定時間: 80,000 秒	・同 左	
	・低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置	測 定 法: 文部科学省編「トリチウム分析法」(平成14年改訂)に準拠 測定容器: 100 ml バイアル 測定時間: 500 分 (50 分、10 回測定)	・同 左	
	・低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置	測 定 法: 文部科学省編「放射性炭素分析法」(平成5年)のベンゼン合成法に準拠 測定容器: 3 ~ 7 ml バイアル 測定時間: 500 ~ 1,000 分 (50 分、10 ~ 20 回測定)	・同 左	
	放射化学分析 ³ H			
放射化学分析 ¹⁴ C				

項 目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測定装置	測定方法
放射化学分析 ^{90}Sr	・低バックグラウンド2πガス フロー計数装置	測定法:文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」 (平成15年改訂)に準拠 測定容器:25 mm φステンレススチール皿 測定時間:60分	・同 左	
放射化学分析 $^{239+240}\text{Pu}$ ^{234}U 、 ^{235}U 、 ^{238}U ^{241}Am ^{244}Cm	・シリコン半導体検出器	測定法:文部科学省編「プルトニウム分析法」(平成2 年改訂)に準拠 文部科学省編「ウラン分析法」(平成14年改 訂)に準拠 文部科学省編「アメリシウム分析法」(平成2 年)に準拠 測定用電着板:25 mm φステンレススチール製 測定時間:90,000秒	・同 左	測定法:文部科学省編「プルトニウム分 析法」(平成2年改訂)に準拠 文部科学省編「ウラン分析法」 (平成14年改訂)に準拠 文部科学省編「プルトニウム・ アメリシウム逐次分析法」(平成 2年)に準拠 測定用電着板:同 左 測定時間:同 左
放射化学分析 ^{129}I	・低バックグラウンド2πガス フロー計数装置	測定法:文部科学省編「ヨウ素-129分析法」(平成8 年)に準拠 測定時間:100分	・同 左	

項 目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測定装置	測定方法
機器分析 γ線放出核種 (大気中の ^{131}I)	・ゲルマニウム半導体検出器	測定法:文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成8 年改訂)に準拠 測定試料形態:活性炭吸着物 捕集材:活性炭カートリッジ 大気吸引量:約50ℓ/分 集じん時間:168時間 吸引口位置:地上1.5~2.0 m 測定容器:U-8容器 測定時間:80,000秒	・同 左	

(3) 環境試料中のフッ素

項 目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測 定 装 置	測 定 方 法
大気中の気体状 フッ素	・HF モニタ	測 定 法:湿式捕集双イオン電極法 測 定 周 期:8 時間	・同 左	
フッ素	・イオンメータ	測 定 法:「JIS K 0102 工場排水試験方法」 「大気汚染物質測定法指針」 (昭和 63 年 3 月環境庁大気保全局) 「環境測定分析法注解」(昭和 60 年環境 庁企画調整局研究調整課監修) 「底質試験方法とその解説」(昭和 63 年 改訂環境庁水質保全局水質管理課編) 「衛生試験法・注解」(2005 年日本薬学 会編)に準拠	・同 左	

(4) モニタリングカーによる測定

項 目	青 森 県	
	測 定 装 置	測 定 方 法
空間放射線量率	2" φ × 2" NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償 方式加温装置付) G(E)関数荷重演算方式	測 定 法: 定 点 測 定 10 分間測定 走 行 測 定 10 秒間の測定値を 500 m ごとに平均 走行速度 30 ~ 60 km/h 測 定 位 置:地上 3.2 m (車両上)

(5) 気 象

項 目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測 定 装 置	測 定 方 法
風向・風速	・風向風速計[プロペラ型] (気象庁検定付)	測 定 法:指針 に準拠 測定位置:地上約 10 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
気 温	・温度計[白金測温抵抗式] (気象庁検定付)	測 定 法:指針 に準拠 測定位置:地上約 2 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
降 水 量	・雨雪量計[転倒升方式] (気象庁検定付)	測 定 法:指針 に準拠 測定位置:地上約 2 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
感 雨	・感雨雪器[電極式]	測 定 法:指針 に準拠 測定位置:地上約 2、6 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:地上約 2 m
積 雪 深	・積雪計[超音波式] (気象庁検定付)	測 定 法:指針 に準拠 測定位置:地上約 3 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
日 射 量	・日射計[熱電対式] (気象庁検定付)	測 定 法:指針 に準拠 測定位置:地上約 10 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
放射収支量	・放射収支計[熱電対式]	測 定 法:指針 に準拠 測定位置:地上約 2 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
湿 度	・湿度計[毛髪式] (気象庁検定付)	測 定 法:指針 に準拠 測定位置:地上約 2 m	・湿度計[静電容量式] (気象庁検定付)	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
大気安定度	-	測 定 法:指針 に準拠	-	測 定 法:同 左

：「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」(平成 13 年改訂 原子力安全委員会)

3 . 環境試料中の放射能測定対象核種

^{54}Mn 、 ^{60}Co 、 ^{106}Ru 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{144}Ce 、 ^7Be 、 ^{40}K 、 ^{214}Bi 、 ^{228}Ac 、 ^3H 、 ^{14}C 、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 、 U 、 ^{241}Am 、 ^{244}Cm 、 ^{129}I 、 ^{131}I

なお、 ^{214}Bi 、 ^{228}Ac については、土試料のみとする。

上記核種以外で次の核種が検出された場合は、報告書の備考欄に記載する。

^{51}Cr 、 ^{59}Fe 、 ^{58}Co 、 ^{65}Zn 、 ^{95}Zr 、 ^{95}Nb 、 ^{103}Ru 、 ^{125}Sb 、 ^{140}Ba 、 ^{140}La 、 ^{154}Eu

4 . 数値の取扱方法

(1) 空間放射線量率

単 位	表 示 方 法
nGy/h	整数で示す。

(2) 積算線量

単 位	表 示 方 法
$\mu\text{Gy}/91\text{日}$ $\mu\text{Gy}/365\text{日}$	3 箇月積算線量は、測定期間の測定値を 91 日当たりに換算し、整数で示す。 年間積算線量は、各期間の測定値を合計した後、365 日当たりに換算し、整数で示す。

(3) 大気浮遊じん中の全 α 及び全 β 放射能

単 位	表 示 方 法
mBq/m ³	有効数字 2 桁で示す。 測定値がその計数誤差の 3 倍以下の場合検出限界以下とし「*」と表示する。 平均値の算出においては、測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「*」と表示する。

(4) 大気中の気体状 β 放射能

単 位	表 示 方 法
kBq/m ³	クリプトン - 85 換算濃度として、有効数字 2 桁で示す。最小位は 1 位。 定量下限値は「2 kBq/m ³ 」とし、定量下限値未満は「ND」と表示する。 平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と表示する。

(5) 環境試料中の放射性核種

試 料		単 位	表 示 方 法
大 気 浮 遊 じ ん		mBq/m ³	有効数字 2 桁で示す。最小位は定量下限値の最小の位。 定量下限値は別表 1 に示す。 定量下限値未満は「ND」と表示する。 計数誤差は記載しない。
大 気 (水蒸気状トリチウム)	大 気 中 濃 度	mBq/m ³	
	水 分 中 濃 度	Bq/ℓ	
大 気	ヨ ウ 素	mBq/m ³	
降 下 物		Bq/m ²	
雨 水		Bq/ℓ	
陸 水 、 海 水	ト リ チ ウ ム	Bq/ℓ	
	そ の 他	mBq/ℓ	
河 底 土、湖 底 土、表 土、海 底 土		Bq/kg 乾	
牛 乳		Bq/ℓ	
農産物、淡水産食品、 海産食品、指標生物	ト リ チ ウ ム (自 由 水)	Bq/kg 生、 Bq/ℓ	
	炭 素 - 1 4	Bq/kg 生、 Bq/g 炭素	
	そ の 他	Bq/kg 生	

(6) 環境試料中のフッ素

試 料	単 位	表 示 方 法
大	気 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	有効数字2桁で示す。最小位は定量下限値の最小の位。 定量下限値は別表2に示す。 定量下限値未満は「ND」と表示する。
大気(気体状フッ素:HF モニタ)	ppb	
陸	水 mg/ℓ	
河底土、湖底土、表土	mg/kg 乾	
牛	乳 mg/ℓ	
農産物、淡水産食品	mg/kg 生	

・大気：粒子状フッ素及びガス状フッ素の合計。

別表2 環境試料中のフッ素の定量下限値

試 料	単 位	定 量 下 限 値
大	気 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.03
大気(気体状フッ素:HF モニタ)	ppb	0.04
陸	水 mg/ℓ	0.1
河底土、湖底土、表土	mg/kg 乾	5
牛	乳 mg/ℓ	0.1
農産物、淡水産食品	mg/kg 生	0.1

・大気：粒子状フッ素及びガス状フッ素の合計。

別表1 環境試料中の放射性核種の定量下限値

試 料	単 位	γ 線 放 出 核 種										^3H	^{14}C	^{90}Sr	^{129}I	^{131}I	$^{239+240}\text{Pu}$	U	^{241}Am	^{244}Cm	備考
		^{54}Mn	^{60}Co	^{106}Ru	^{134}Cs	^{137}Cs	^{144}Ce	^{7}Be	^{40}K	^{210}Bi	^{228}Ac										
大 気 浮 遊 じ ん	mBq/m^3	0.02	0.02	0.2	0.02	0.02	0.1	0.2	0.3	-	-	-	-	0.004	-	-	0.0002	0.0004	-	-	
大 気 (水蒸気状 トリチウム (ヨウ素))	mBq/m^3 (大気中濃度)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	-	-	-	-	-	-	-	-	
	Bq/ℓ (水中濃度)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
	mBq/m^3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	-	-	-	-	
降 下 物	Bq/m^2	0.2	0.2	2	0.2	0.2	1	2	4	-	-	-	-	0.08	-	-	0.004	0.008	-	-	
雨 水	Bq/ℓ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
陸 水	mBq/ℓ	6	6	60	6	6	30	100	100	-	-	2	-	0.4	-	-	0.02	2	-	-	
海 水	^3H は Bq/ℓ)	6	6	60	6	6	30	100	-	-	-	2	-	-	-	-	0.02	2	-	-	
河底土、海底土、表土	Bq/kg 乾	3	3	20	3	3	8	30	40	8	15	-	-	0.4	5	-	0.04	0.8	0.04	0.04	
湖 底 土		4	4	30	4	4	15	40	60	10	20	-	-	0.4	-	-	0.04	0.8	0.04	0.04	
牛 乳	Bq/ℓ	0.4	0.4	4	0.4	0.4	1.5	6	6	-	-	-	-	0.04	-	-	-	0.02	-	-	
農産物、淡水産食品、 海産食品、指標生物	Bq/kg 生	0.4	0.4	4	0.4	0.4	1.5	6	6	-	-	2	2	0.04	-	-	0.002	0.02	-	-	
	Bq/ℓ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
	Bq/g 炭素	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.004	-	-	-	-	-	-	-	

・陸水：河川水、湖沼水（小川原湖）、水道水、井戸水。

・海水：海水、湖沼水（尾駁沼、鷹架沼）。

・Uは ^{234}U 、 ^{235}U 及び ^{238}U の合計。

・魚類（ヒラメ、カレイ）中の ^3H は、自由水中の ^3H 。

5 . 試料の採取方法等

試 料	採 取 方 法 等
大 気 浮 遊 じ ん	ろ紙 (HE-40T) に捕集する。
大 気 中 の 水 蒸 気 状 ト リ チ ウ ム	モレキュラーシーブに捕集する。
大 気 中 の ヨ ウ 素	活性炭カートリッジに捕集する。
大 気 中 の フ ッ 素	メンブランフィルター及びアルカリろ紙に捕集する。
降 下 物	大型水盤で採取する。
雨 水	降水採取器で採取する。
河 川 水 、 湖 沼 水	表面水を採取する。
水 道 水 、 井 戸 水	給水栓から採取する。
河 底 土 、 湖 底 土	表面底質を採泥器等により採取する。
表 土	表層 (0 ~ 5 cm) を採土器により採取する。
牛 乳	原乳を採取する。
精 米	玄米を精米して試料とする。
ハ ク サ イ 、 キ ャ ベ ツ	葉部を試料とする。
ダイコン、ナガイモ、パレイショ	外皮を除き、ダイコン及びナガイモは根部を、パレイショは塊茎部を試料とする。
牧 草	地上約 10 cm の位置で刈り取る。
松 葉	二年生葉を採取する。
海 水	表面海水を採取する。
海 底 土	表面底質を採泥器により採取する。
ワ カ サ ギ 、 ヒ ラ ツ メ ガ ニ	全体を試料とする。
ヒ ラ メ 、 カ レ イ 、 イ カ	頭、骨、内臓を除き、可食部を試料とする。
ア ワ ビ	貝殻、内臓を除き、軟体部を試料とする。
ホタテ、シジミ、ムラサキイガイ	貝殻を除き、軟体部を試料とする。
コ ン ブ 、 チ ガ イ ソ	根を除く全体を試料とする。
ウ ニ	殻を除き、可食部を試料とする。

5 . 空間放射線等測定地点図 及び環境試料の採取地点図

図1 空間放射線等測定地点図

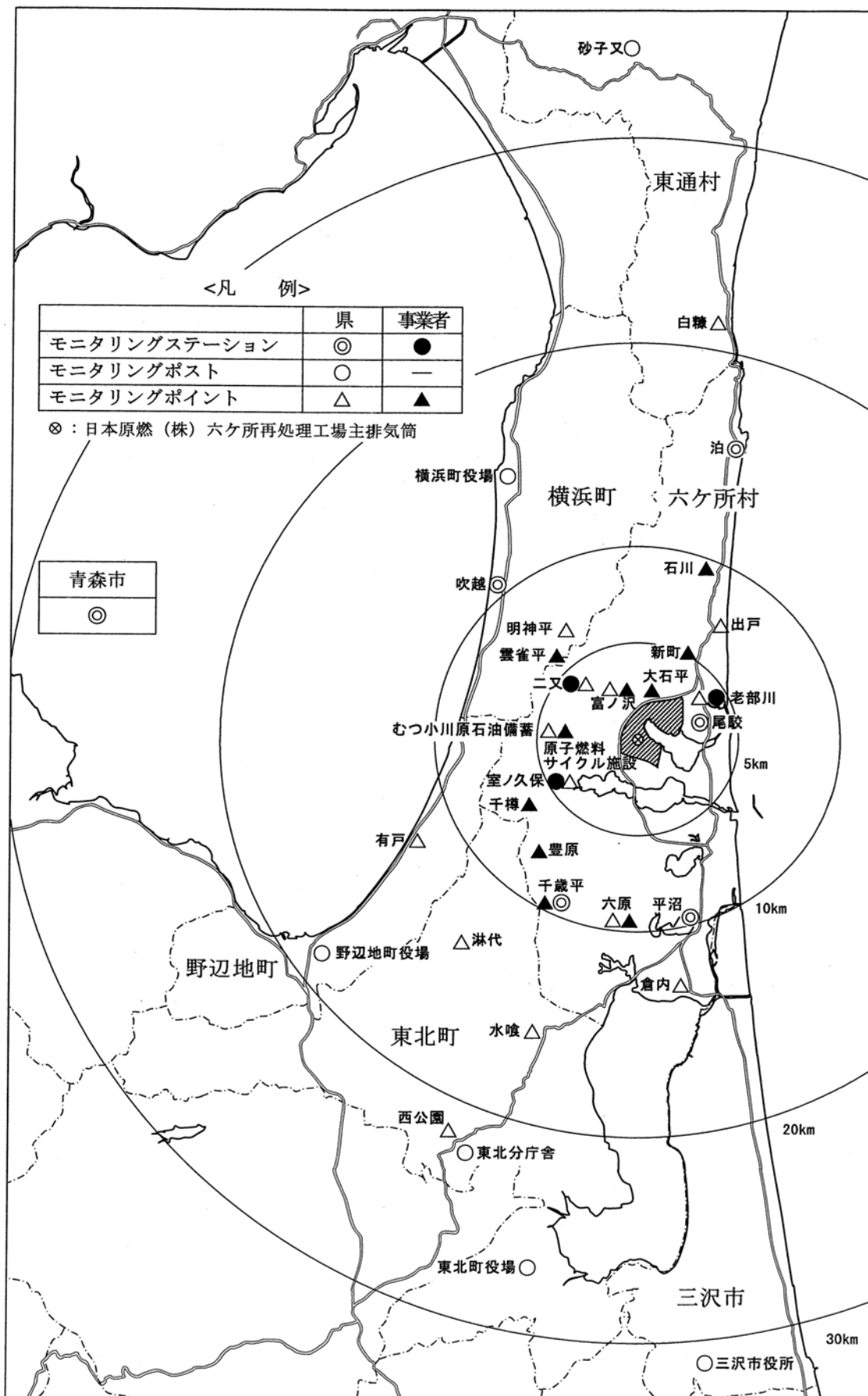


図2 環境試料の採取地点図

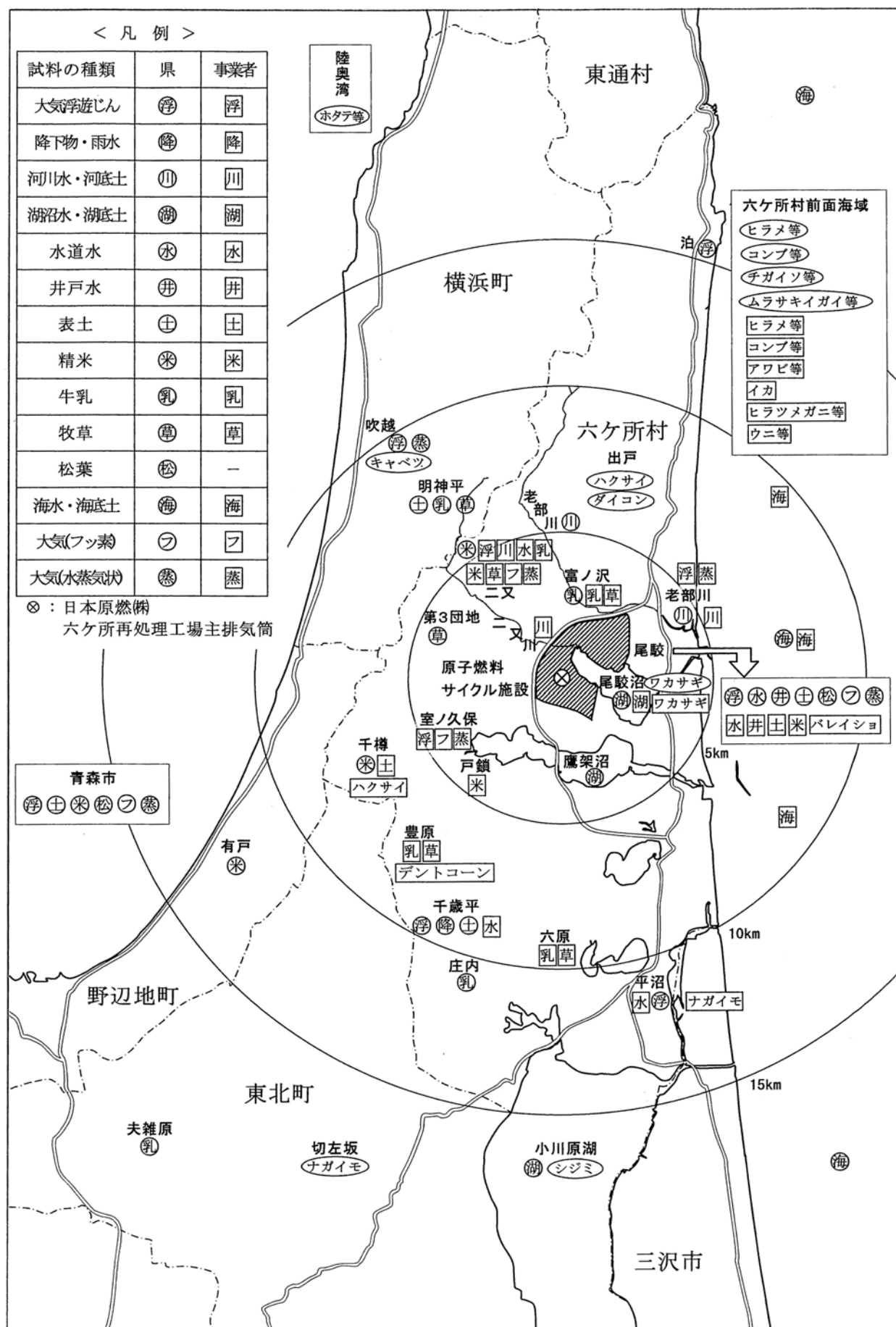
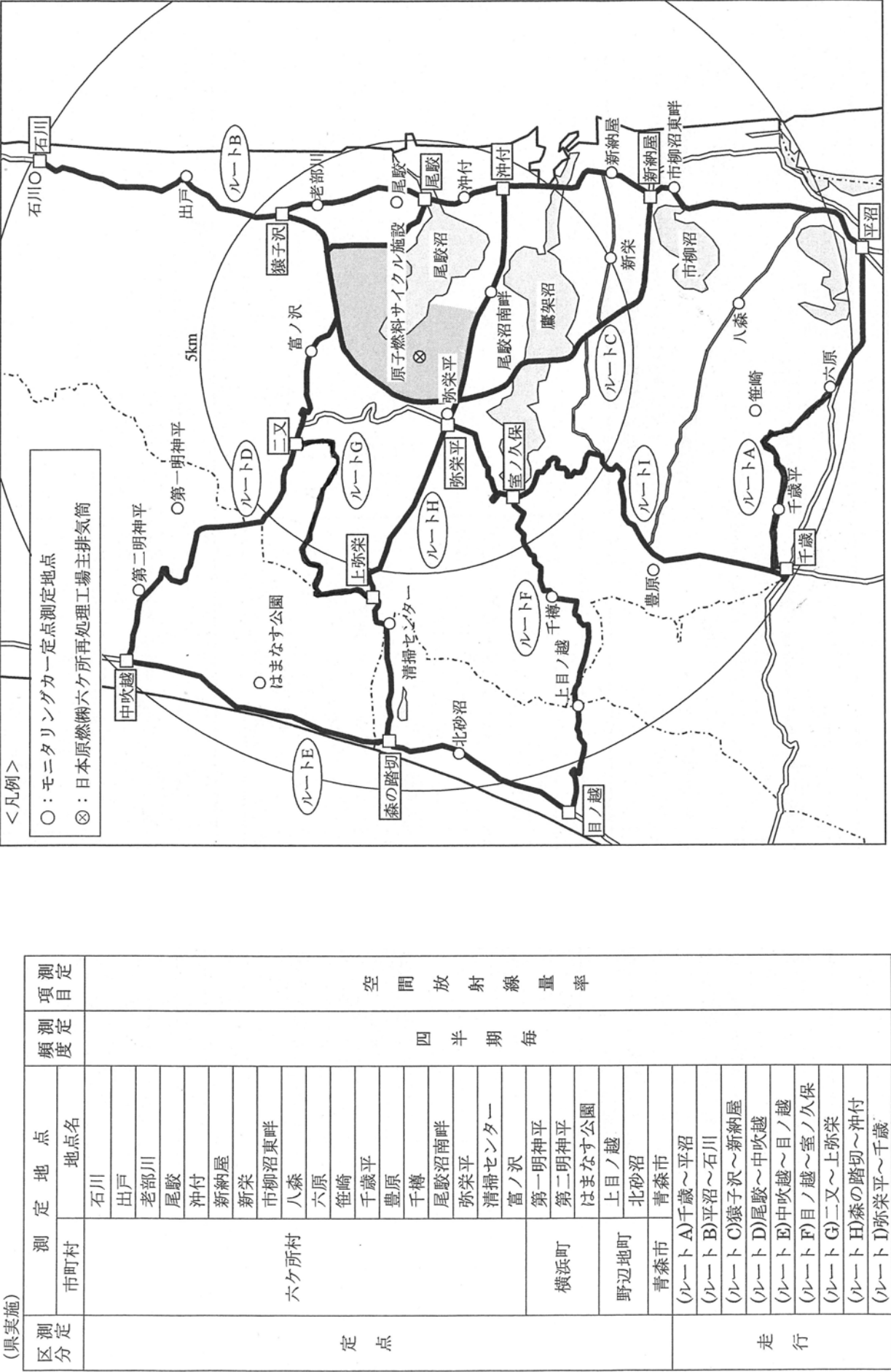


図 3 モニタリングカーの定点測定地点及び走行測定ルート



6. 原子燃料サイクル施設に係る 環境放射線等モニタリング結果の評価方法

原子燃料サイクル施設に係る 環境放射線等モニタリング結果の評価方法

原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング結果の評価については、「同施設に係る環境放射線等モニタリング構想等」の考え方に基づくほか、「環境放射線モニタリングに関する指針（平成元年 3 月策定、平成 13 年 3 月改訂 原子力安全委員会）」等に準拠して行うものであり、同施設の特徴を踏まえながら下記のとおり適正な評価を行うものとする。

1. 測定値の取り扱い

(1) 測定値の変動と平常の変動幅

空間放射線及び環境試料中の放射能の測定結果は、

- ① 試料採取方法・処理方法、測定器の性能、測定方法等の測定条件の変化
- ② 降雨、降雪、逆転層の出現等の気象要因、及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化
- ③ 核爆発実験等の影響
- ④ 原子力施設の運転状況の変化

などにより、変動を示すのが普通である。これらの要因のうち③は別として、測定条件がよく管理されており、かつ原子力施設が平常運転を続けている限り、測定値はある幅の中に納まる確率が高く、これを「平常の変動幅」と呼ぶことにする。

(2) 平常の変動幅の決定

空間放射線（空間放射線量率、積算線量）、環境試料中の放射能濃度等についてそれぞれ平常の変動幅を次のように定める。

① 空間放射線量率

連続モニタの測定値については、過去の測定値の〔平均値±（標準偏差の 3 倍）〕を平常の変動幅とする。

② 積算線量

蛍光ガラス線量計（RPLD）測定値の 91 日換算値については、過去の測定値の最小値～最大値を平常の変動幅とする。

③ 環境試料中の放射能濃度等

環境試料中の放射能濃度等については、過去の測定値の最小値～最大値を平常の変動幅とする。

2. 測定結果の評価

(1) 空間放射線の測定結果の評価

空間放射線の測定結果については、測定値が平常の変動幅の範囲内にあるかどうかを確認す

る。測定値が平常の変動幅を外れた場合は以下の項目について調査を行い、原因を明らかにするとともに、原子燃料サイクル施設からの寄与の有無の判断及びその環境への影響の評価に資する。

- ① 計測系及び伝送処理系の健全性
- ② 降雨等による自然放射線の増加による影響
- ③ 地形、地質等の周辺環境状況の変化
- ④ 核爆発実験等の影響

また、測定値が平常の変動幅を下回る場合は、積雪の影響のほか、機器の故障が考えられるので点検する。

(2) 環境試料中の放射能濃度等の測定結果の評価

環境試料中の放射能濃度等の測定結果についても、空間放射線と同様に、測定値が平常の変動幅の範囲内にあるかどうかを確認する。測定値が平常の変動幅を外れた場合には、まず試料採取、処理、分析、測定について変更がなかったか、あるいはそれらが正しく行われたかどうか、また核爆発実験等による影響でないかどうか等についてチェックを行い、その原因を調査するとともに、原子燃料サイクル施設からの寄与の有無の判断及びその環境への評価に資する。

(3) 核爆発実験等の影響の評価

空間放射線又は、環境試料中の放射能濃度等の測定結果が平常の変動幅を上回った場合、放射性降下物による影響が考えられるので、それが原因であるかどうか調査する。

(4) 蓄積状況の把握

長期にわたる蓄積状況の把握は、主として土壌及び海底土の核種分析結果から、有意な差が見られるかどうか判定するものとする。

(5) 測定結果に基づく線量の推定・評価

測定結果に基づく線量の推定・評価は、1年間の外部被ばくによる実効線量と内部被ばくによる預託実効線量とに分けて別々に算定し、その結果を総合することで行う。

測定結果に基づく線量の推定・評価は原則として年度ごとに行う。

① 外部被ばくによる実効線量

外部被ばくによる実効線量は、原則として RPLD 測定値から算定するものとし、地点毎に四半期の線量を合計して年間線量を求め、これに 0.8 を乗じて算出する。

② 内部被ばくによる預託実効線量

内部被ばくによる預託実効線量は、原則として表 1 の食品等及び核種を対象として算出する。

それぞれの食品等に該当する環境試料の年平均核種濃度を求め、これらの核種濃度の食品等を毎日摂取するものと仮定して算出し、これらを積算する。

計算式は「環境放射線モニタリングに関する指針(平成 13 年 3 月 原子力安全委員会)」に準拠し、線量係数については表 2 及び表 3 の値を用いる。

表1 食品等の1日の摂取量（成人）

食品等の種類	1日の摂取量	該当する環境試料	対 象 核 種
米	320 g	精 米	γ 線放出核種 $\left[\begin{array}{l} {}^{54}\text{Mn}, {}^{60}\text{Co}, {}^{134}\text{Cs}, \\ {}^{137}\text{Cs}, {}^{144}\text{Ce}, \text{その他} \end{array} \right]$ ${}^3\text{H}, {}^{14}\text{C}, {}^{90}\text{Sr}, \text{Pu}, \text{U}, {}^{131}\text{I}$
葉 菜	370 g	ハクサイ、キャベツ等	
根 菜 ・ い も 類	230 g	ダイコン、ナガイモ、バレイショ等	
海 水 魚	200 g	ヒラメ等	
淡 水 魚	30 g	ワカサギ等	
無 脊 椎 動 物 (海 水 産)	80 g	ホタテ、ヒラツメガニ、イカ、アワビ、ウニ等	
無 脊 椎 動 物 (淡 水 産)	10 g	シジミ等	
海 藻 類	40 g	コンブ等	
牛 乳	0.25 ℓ	牛乳（原乳）	
飲 料 水	2.65 ℓ	水道水	
空 気	22.2 m ³	大気浮遊じん、大気	

- ・「線量評価における食品等の摂取量について」（平成17年度第4回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会（平成18年1月24日開催）提出資料）による。
- ・大気：水蒸気状トリチウムの場合は、ICRP Publication 71により、皮膚からの吸収分（呼吸による吸収分の0.5倍）を加算する。

表2 1 Bq を経口又は吸入摂取した場合の成人の実効線量係数

(単位：mSv/Bq)

核 種	経 口 摂 取	吸 入 摂 取	備 考
^{54}Mn	7.1×10^{-7}	1.5×10^{-6}	
^{60}Co	3.4×10^{-6}	3.1×10^{-5}	
^{106}Ru	7.0×10^{-6}	6.6×10^{-5}	
^{134}Cs	1.9×10^{-5}	9.1×10^{-6}	
^{137}Cs	1.3×10^{-5}	9.7×10^{-6}	
^{144}Ce	5.2×10^{-6}	5.3×10^{-5}	
^3H	1.8×10^{-8}	1.8×10^{-8}	
^{14}C	5.8×10^{-7}		
^{90}Sr	2.8×10^{-5}	3.6×10^{-5}	
U	4.9×10^{-5}	9.4×10^{-3}	
$^{239+240}\text{Pu}$	2.5×10^{-4}	5.0×10^{-2}	
^{131}I		1.5×10^{-5}	

- ・ ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{90}Sr 及び $^{239+240}\text{Pu}$ の吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されているもののうち、タイプ M の値を用いた。
- ・ ^3H の経口摂取、吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されているもののうち、水に対応する値を用いた。
- ・U の経口摂取、吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されている ^{234}U 、 ^{235}U 、 ^{238}U のうち、最も大きな値を用いた。
- ・上記以外の値は「環境放射線モニタリングに関する指針（平成 13 年 3 月 原子力安全委員会）」による。
- ・ただし、分析方法等から化学形等が明らかな場合には、原則として ICRP Publication 72 などから当該化学形等に相当する実効線量係数を使用する。

表3 1 Bq を経口又は吸入摂取した場合の成人の甲状腺の等価線量に係る線量係数（単位：mSv/Bq）

核 種	経 口 摂 取	吸 入 摂 取	備 考
^{131}I		2.9×10^{-4}	

- ・「環境放射線モニタリングに関する指針（平成 13 年 3 月 原子力安全委員会）」による。

(6) 総合評価

以上の測定結果及び線量評価結果を、青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議において、総合的に評価し、モニタリングの基本目標である、原子燃料サイクル施設周辺住民等の健康と安全を守るため、環境における同施設に起因する放射性物質又は放射線による周辺住民等の線量が年線量限度を十分下回っていることを確認する。

3. そ の 他

本評価方法については、今後、必要に応じ適宜検討を加える。

[解 説]

1. 〔平均値±（標準偏差の3倍）〕

連続モニタから、よく管理された条件のもとで測定値が得られる場合には、個々の数値の99.73%がこの範囲に収まることを意味する。

2. 有意な差

測定値に変動が見られた場合、その変動が単なる統計上のバラツキではなく、実際に測定対象が変動していると考えられること。

3. 実効線量

人体の各組織は放射線に対する感受性がそれぞれ異なる。その違いを考慮して決めた係数（組織荷重係数）を各組織が受けた線量にかけて加え合わせたものが実効線量であり、防護の目的で放射線のリスクを評価する尺度である。

4. 預託実効線量

人体内に取り込まれた放射性核種がある期間体内に残留することを考慮し、成人については摂取後50年間、子どもでは摂取した年齢から70才までに受ける実効線量を積算したものが預託実効線量である。

平常の変動幅について

「平常の変動幅」については、「環境放射線モニタリングに関する指針」（平成元年 3 月 原子力安全委員会決定）の考え方に準拠し、「原子燃料サイクル施設環境放射線等モニタリング結果の評価方法（平成 2 年青森県）」においてその設定方法等を定め、分析測定上の問題、環境の変化、施設からの予期しない放出などの原因調査が必要な測定値（データ）をふるい分けるために用いている。

「平常の変動幅」を設定するためにはある程度の数のデータを得る必要があることから、調査開始当初の頃は前年度までの調査結果のすべてのデータを用いることとし、「平常の変動幅」の設定に用いるデータの累積の期間（以下「平常の変動幅の期間」という。）については、蓄積されたデータの数が多くなってきた時点で改めて検討することとしていた。

この度、調査を開始して 10 年を経過したことから、「平常の変動幅の期間」を以下のとおり定め、併せて、「環境試料の種類の区分」について見直しを行った。

なお、平常の変動幅へのデータの繰り入れについては、従来どおり、原子燃料サイクル施設環境放射線等監視評価会議^{※1}において決定する。

1. 平常の変動幅の期間

(1) 空間放射線

モニタリングステーションによる空間放射線量率及び TLD^{※2}による積算線量については、

- ・ 空間放射線量率の測定では 1 年間に得られるデータ数が多いが、積算線量の測定では、1 年間に得られるデータ数が 4 個であり、ある程度のデータ数を確保するために年数が必要であること
- ・ 定点の継続測定においては、測定地点周辺の環境が変化すると、調査を実施している年度とそれ以前のデータのレベルに差が生じる可能性があることから、調査年度になるべく近い時期のデータを用いることが望ましいこと

以上を考慮し、「平常の変動幅の期間」は調査を実施している年度の前の 5 年間とする。

ただし、測定地点周辺における工事などにより、測定地点のバックグラウンドレベルに大きな変化があった場合は、それ以前のデータは参考値として扱い、5 年以上経過した時点で改めて「平常の変動幅」を設定する。それまでは、変化があった後の 1 年間以上のデータを暫定的に「平常の変動幅」として用いる。

(2) 環境試料中の放射能及びフッ素

環境試料については、

- ・ 採取可能な時期が限られている試料があること。
- ・ 同じ試料であっても採取時の状況などの違い等によってデータのばらつきが大きいものがあること

※1 モニタリング対象施設として東通原子力発電所が追加されたことに伴い、平成 15 年 4 月 1 日に「青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議」に名称を変更した。

※2 平成 17 年度に、積算線量測定方法を熱ルミネセンス線量計（TLD）から蛍光ガラス線量計（RPLD）に変更した。

- ・ 定量下限値未満のデータが多いことから、長期間にわたってデータを積み重ねることにより、平常時におけるデータの変動範囲を把握していく必要があること

以上を考慮し、「平常の変動幅の期間」は、従来どおり調査を開始した年度から調査を実施している年度の前年度までとする。

2. 環境試料の種類の区分

調査を開始してから10年を経過し、各試料のデータ数が多くなり、生物種別に整理することが可能になったことから、環境試料の種類の区分を従来よりも細分化し、別表のとおりとする。

別 表 環境試料の種類の区分

(変更前)		(変更後)	
試 料 の 種 類		試 料 の 種 類	
陸上試料	大 気 浮 遊 じ ん	陸上試料	大 気 浮 遊 じ ん
	大 気 (気 体 状)		大 気 (気 体 状)
	大 気		大 気
	大 気 (水 蒸 気 状)		大 気 (水 蒸 気 状)
	雨		雨
	降 下 物		降 下 物
	河 川 水		河 川 水
	湖 沼 水		湖 沼 水
	水 道 水		水 道 水
	井 戸 水		井 戸 水
	河 底 土		河 底 土
	湖 底 土		湖 底 土
	表 土		表 土
	牛 乳		牛 乳 (原 乳)
	精 米		精 米
	野 菜		野 菜
	牧 草		牧 草
海洋試料	デ ン ト コ ー ン		デ ン ト コ ー ン
	淡 水 産 食 品		淡 水 産 食 品
	指 標 生 物 (松 葉)		指 標 生 物
比較対照 (青森市)	海 水	海洋試料	海 水
	海 底 土		海 底 土
	海 産 食 品		海 産 食 品
	指 標 生 物		指 標 生 物
比較対照 (青森市)	大 気 浮 遊 じ ん	比較対照 (青森市)	大 気 浮 遊 じ ん
	大 気 (気 体 状)		大 気 (気 体 状)
	大 気		大 気
	大 気 (水 蒸 気 状)		大 気 (水 蒸 気 状)
	表 土		表 土
	精 米		精 米
	指 標 生 物 (松 葉)		指 標 生 物

7．六ヶ所再処理工場の操業と線量評価について

六ヶ所再処理工場の操業と線量評価について

1. はじめに

青森県六ヶ所村に立地している原子燃料サイクル施設について、県では、「環境放射線モニタリングに関する指針（原子力安全委員会）」に準拠して策定したモニタリング計画に基づき、「原子燃料サイクル施設周辺住民等の健康と安全を守るため、環境における同施設に起因する放射線又は放射性物質による周辺住民等の線量（人体に及ぼす影響）が、年線量限度（1mSv（ミリシーベルト））を十分に下回っていることを確認する。」ことを目的として、環境放射線等に係るモニタリングを実施してきている。この結果をもとに、年度ごとに「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング結果の評価方法（青森県）」（以下、「モニタリング結果の評価方法」という。）に基づき、測定結果に基づく線量の推定・評価（施設に起因する住民等の線量の推定・評価）を行うこととしているが、これまでは施設から環境への影響は認められていないことから省略してきており、参考として「測定結果に基づく線量算出要領（青森県）」（以下、「線量算出要領」という。）に基づき自然放射線等による線量を算出してきている。

一方で、六ヶ所再処理工場本体の操業開始以降において放出される放射性物質に起因する放射線（能）は、本県の環境放射線モニタリングにおいて施設からの影響の有無を把握可能なレベルのものと推定されている。

このようなことから、「モニタリング結果の評価方法」に記載されている「測定結果に基づく線量の推定・評価」の、より具体的な方法について、その基本的な考え方をここに示すものである。なお、今後、本基本的な考え方及び具体的事例に基づき、実施要領を策定していくこととする。

2. 六ヶ所再処理工場の操業に伴う環境モニタリングへの影響

六ヶ所再処理工場については、国内外の最良の技術を用いて、再処理に伴い発生する廃棄物をできる限り取り除く設計とされているが、その一部は排気又は排水とともに大気、海洋へ放出される。国の安全審査において、操業に伴い放出される放射性物質による施設周辺住民等が受ける線量は年間約 0.022mSv と評価されており、国が定めている年線量限度の 1mSv を十分下回るものである。この線量は、自然放射線による線量 2.4mSv（世界平均）の約 1 % 程度と小さく、また、日本国内における自然放射線の地域差（県別平均の差）の最大 0.4mSv に比較しても十分低いものの、放出される放射性物質に起因する放射線（能）は、本県の環境放射線モニタリングにおいて施設寄与分として検出され得るレベルのものである。

これらの主要なものはクリプトン-85、トリチウム、炭素-14 等であり、表 1 は、安全審査の評価のベースとなる環境試料に含まれる施設寄与分の放射性核種濃度及び線量評価の予測値、これ

までの測定値をまとめたものである。

また、線量評価に用いる 1 年間の積算値又は平均値として有意な増加が認められない場合でも、短期間では測定値に比較的大きな変動が予想される。例えば、フランスのラ・アーグ再処理工場の周辺地域における空間放射線量率の事例がある（参考図 1 , 2 ）。表 2 は、モニタリングステーション尾駁局において、大気中に放出されるクリプトン-85 による空間放射線量率の上昇について変動（上昇幅とその出現頻度）の試算結果をまとめたものである。

なお、表 1 及び表 2 に示す結果は年間 8 0 0 t ・ U の再処理を行った場合の予測値であるが、使用済燃料を用いた総合試験(アクティブ試験)においても、同様に測定値の上昇が予想される。

表 1 再処理工場の操業に伴う環境モニタリングへの影響（主なもの）

試料の種類等	核 種	対 象	単 位	施設寄与分(増分) の予測値 ^{*1}	これまでの測定値 ^{*2}
積算線量	—	モニタリング測定値	μ Gy/91 日	2	74 ~ 125
		線量評価値	mSv/年	0.006	0.146 ~ 0.245
大 気 (気体状 β)	クリプトン-85 換算 (Kr-85)	モニタリング測定値	kBq/m ³	ND (< 2) ^{*3}	ND (< 2)
		線量評価値	mSv/年	— ^{*4}	— ^{*4}
大 気 (水蒸気状)	トリチウム (H-3)	モニタリング測定値	mBq/m ³	1000	ND (< 40)
		線量評価値	mSv/年	0.0002	NE (< 0.00005) ^{*5}
精 米	炭素-14 (C-14)	モニタリング測定値	Bq/kg 生	90	87 ~ 110
		線量評価値	mSv/年	0.006	0.0059 ~ 0.0068
葉 菜	炭素-14 (C-14)	モニタリング測定値	Bq/kg 生	5	— ^{*6}
		線量評価値	mSv/年	0.0004	— ^{*6}
根菜・いも類	炭素-14 (C-14)	モニタリング測定値	Bq/kg 生	20	— ^{*6}
		線量評価値	mSv/年	0.0009	— ^{*6}
海 水	トリチウム (H-3)	モニタリング測定値	Bq/ℓ	300	ND (< 2)
		線量評価値	mSv/年	— ^{*7}	— ^{*7}
	プルトニウム (Pu)	モニタリング測定値	mBq/ℓ	0.05	ND (< 0.02)
		線量評価値	mSv/年	— ^{*7}	— ^{*7}
海 藻	プルトニウム (Pu)	モニタリング測定値	Bq/kg 生	0.02	ND (< 0.002) ~ 0.007
		線量評価値	mSv/年	0.00007	NE (< 0.00005) ^{*5}
魚 類	トリチウム (H-3)	モニタリング測定値	Bq/kg 生	300	ND (< 2)
		線量評価値	mSv/年	0.0004	NE (< 0.00005) ^{*5}
	プルトニウム (Pu)	モニタリング測定値	Bq/kg 生	0.005	ND (< 0.002)
		線量評価値	mSv/年	0.00009	NE (< 0.00005) ^{*5}

* 1 : モニタリング測定値は、安全審査の被ばく経路における放射性物質の移行評価に基づく年間平均値。
線量評価値は、モニタリング測定値をもとに青森県の定めた方法（線量算出要領）により算出。

* 2 : これまでの測定値の期間

・ 積算線量：平成 11 年 4 月～平成 16 年 3 月

・ 環境試料：平成元年 4 月～平成 16 年 3 月（ただし、精米の炭素-14 は平成 7 年 4 月～，魚類のトリチウムは平成 10 年 4 月～）。

* 3 : 年間平均値として有意な増加が認められない場合でも、短期間では測定値に比較的大きな変動が予想されており、個々の測定値に施設寄与がみられる可能性がある。

* 4 : クリプトン-85 の β 線による線量は、現状、県の線量算出要領の対象外。施設寄与分の予測値（β 線による実効線量）を日本原燃（株）の事業指定申請書に記載の方法で算出すると、0.0008 mSv/年となる。

* 5 : ND は定量下限値未満を意味し、NE は評価を行うレベル未満であることを意味する。モニタリング測定値が ND 又は 線量評価値が 0.00005 mSv/年未満の場合 NE と表示している。

* 6 : 平成 17 年度から調査を開始（アクティブ試験開始（予定）年度から実施することとしている項目）。

* 7 : 外部被ばくの対象外であり、内部被ばくにおいても人が直接摂取しないため、線量として算出しない測定項目。

表 2 再処理工場の操業に伴うクリプトン-85 による空間放射線量率への影響

測定項目	施設寄与分（増分とその頻度） の予測値 ^{*1}			これまでの測定値 ^{*2}		
空間放射線量率 (nGy/h)	尾駁局 ^{*3}	10 以下	99.83%	尾駁局	平均	25
		10 ~ 40	0.16%		最大	96
		40 以上	0.01%		最小	13

*1：短期間の運転条件及び気象条件を想定した際の、空間放射線量率（γ線による空気吸収線量率）の大きさ及びその頻度の試算値

*2：これまでの測定値の期間は平成13年4月～平成16年3月

*3：県及び事業者が設置しているモニタリングステーションのうち、気象条件等から、クリプトン-85による線量率への寄与が最も大きいと考えられる尾駁局について試算した。

<解説>

モニタリングステーション設置地点において、自然放射線による空間放射線量率は、通常20～30 nGy/h、最大で100 nGy/h（降雨雪時）程度が観測されている。

再処理工場から放出されるクリプトン-85によって、風下の測定値の上昇が観測され、気象条件等によっては、一時的に100 nGy/h以上の上昇も考えられるが、その出現頻度は低い。

3. 線量評価について

(1)線量評価の概要

六ヶ所再処理工場のアクティブ試験の開始以降は、平常運転において放出される放射性物質に起因する放射線（能）は、本県の環境放射線モニタリングにおいて、施設寄与分として検出され得るレベルのものと推定されることを踏まえ、県の計画に基づき、環境放射線モニタリングを引き続き着実に実施するとともに、施設起因の放射線及び放射性物質による周辺住民等の線量について適切に評価し、その結果について青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議で評価・確認を行う。また、放出源情報に基づく線量評価については、事業者から国への報告に用いられている算出方法により行うこととし、その結果についても併せて報告する。

なお、線量算出要領に基づきこれまで報告してきた自然放射線等による線量については、施設起因の線量の比較参考データとして、今後も引き続き算出していくこととする。

(2)具体的な線量評価の考え方

外部被ばく

ア 蛍光ガラス線量計（RPLD）の測定値（91日換算値）について施設寄与が認められた場合には、推定・評価した施設寄与分を合計して年間値を求め、年間値が最も高い地点の値に実効線量への換算係数0.8を乗じてγ線による実効線量とする。

イ 低線量率計（NaI(Tl)シンチレーション検出器）の測定値（1時間値）については、シングルチャンネルアナライザ（SCA）計数率と線量率の関係等から施設寄与分をより明確

に推定・評価できる可能性があることから、今後具体的な線量算出方法を検討していくこととし、施設寄与が認められた場合には、参考として実効線量を試算する。

ウ β線ガスモニタによる測定値に基づきβ線による外部被ばく線量を評価することについては、「六ヶ所再処理施設周辺の環境放射線モニタリング計画（平成17年2月原子力安全委員会了承）」において線量評価の考え方が示されていることから、県としても今後具体的な線量算出方法を検討していくこととし、測定値に施設寄与が認められた場合には、参考としてKr-85からのβ線による実効線量を試算する。

内部被ばく

ア 評価に用いる環境試料と放射性核種については、モニタリング計画で対象としている試料及び核種のうち、線量評価に関連するものとする。ただし、モニタリング結果の評価方法及び線量算出要領において、評価対象となっている井戸水については、最近の聞き取り調査の結果、飲用に供されていないことから、評価の対象としない。

表3 線量評価の対象とする試料及び核種

食品等の種類	該当する環境試料	評価対象核種
米	精 米	γ線放出核種、 ^{14}C 、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 、U
葉 菜	ハクサイ、キャベツ	γ線放出核種、 ^{14}C 、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 、U
根菜・いも類	ダイコン、ナガイモ、パレイショ	γ線放出核種、 ^{14}C 、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 、U
海 水 魚	ヒラメ	γ線放出核種、 ^3H 、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$
淡 水 魚	ワカサギ	γ線放出核種、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 、U
無脊椎動物（海水産）	ホタテ、ヒラツメガニ、イカ、アワビ、ウニ	γ線放出核種、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$
無脊椎動物（淡水産）	シジミ	γ線放出核種、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$
海 藻 類	コンブ	γ線放出核種、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$
牛 乳	牛 乳	γ線放出核種、 ^{90}Sr 、U
飲 料 水	水道水	γ線放出核種、 ^3H 、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$
空 気	大気浮遊じん、大気	γ線放出核種、 ^3H 、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 、U、 ^{131}I

イ 環境試料中の放射性核種濃度について施設寄与が認められた場合には、次のような手順により内部被ばくによる預託実効線量を求める。

- ・ 核種ごとに推定・評価した施設寄与分について、食品等の種類ごとに月又は四半期最大値の年間平均値あるいは年間の最大値を求める。
- ・ この値を用いて、核種ごとに預託実効線量を算出し、対象核種で合計して食品等の種類ごとの線量とする。

- ・ すべての食品等の種類について合計し、内部被ばくによる預託実効線量とする。

ウ 陸域の生物試料（米、葉菜、根菜・いも類及び牛乳）中のトリチウムについては、「六ヶ所再処理施設周辺の環境放射線モニタリング計画（平成１７年２月原子力安全委員会了承）」においてその濃度を大気中湿分のトリチウム濃度から推定して線量評価を行うとの考え方が示されていることから、県としても今後具体的な線量算出方法を検討していくこととし、大気中湿分の測定値に施設寄与が認められた場合には、参考として生物試料の摂取による預託実効線量を試算する。

エ 海水魚中のトリチウムにおいて、海水中トリチウム濃度が大きく変化した場合、海水魚中の組織自由水は海水との交換速度が速いため、両者のトリチウム濃度は比較的容易に同程度となるが、有機結合型トリチウムについては、生体代謝反応によりトリチウムと有機物との結合又は脱離が起ることから、その濃度の変化は比較的ゆっくりであると考えられている。再処理工場からの放出により海水中トリチウム濃度に施設寄与が認められるような状況では、海水中トリチウム濃度は時間的・空間的に大きく変動するものと予想されるため、海水魚における組織自由水中トリチウムと有機結合型トリチウムの比放射能が、必ずしも一致しない可能性がある。

このようなことから、今後、これまで実施してきた海水魚の組織自由水中トリチウムの分析に加え、有機結合型トリチウム分析を環境モニタリングへ取り入れることについて検討していくこととする。

施設周辺住民等の実効線量

アの外部被ばくによる実効線量と イの内部被ばくによる預託実効線量を総合し、施設周辺住民等の年間の実効線量とする。

食品摂取量について

別に定める「線量評価における食品等の摂取量について（青森県）」の値を用いる。

評価対象年齢について

線量算出要領と同様に、線量評価は基本的に成人を対象として行う。

線量係数について

放射性核種の摂取量から線量へ換算するために用いる線量係数については、線量算出要領と同じ値を用いる。

表 4 1 Bq を経口または吸入摂取した場合の成人の実効線量係数

(単位：mSv/Bq)

核 種	経 口 摂 取	吸 入 摂 取
^{54}Mn	7.1×10^{-7}	1.5×10^{-6}
^{60}Co	3.4×10^{-6}	3.1×10^{-5}
^{106}Ru	7.0×10^{-6}	6.6×10^{-5}
^{134}Cs	1.9×10^{-5}	9.1×10^{-6}
^{137}Cs	1.3×10^{-5}	9.7×10^{-6}
^{144}Ce	5.2×10^{-6}	5.3×10^{-5}
^3H	1.8×10^{-8}	1.8×10^{-8}
^{14}C	5.8×10^{-7}	
^{90}Sr	2.8×10^{-5}	3.6×10^{-5}
U	4.9×10^{-5}	9.4×10^{-3}
$^{239+240}\text{Pu}$	2.5×10^{-4}	5.0×10^{-2}
^{131}I		1.5×10^{-5}

- ・ ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{90}Sr 及び $^{239+240}\text{Pu}$ の吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されているもののうち、タイプMの値を用いる。
- ・ ^3H の経口摂取、吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されているもののうち、水に対応する値を用いる。
- ・U の経口摂取、吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されている ^{234}U 、 ^{235}U 、 ^{238}U のうち、最も大きな値を用いる。
- ・上記以外の値は「環境放射線モニタリングに関する指針(平成13年3月原子力安全委員会)」による。
- ・ただし、分析方法等から化学形等が明らかな場合には、原則として Publication72 などから当該化学形等に相当する実効線量係数を使用する。

表 5 1 Bq を経口又は吸入摂取した場合の成人の甲状腺の等価線量に係る線量係数

(単位：mSv/Bq)

核 種	経 口 摂 取	吸 入 摂 取
^{131}I		2.9×10^{-4}

- ・「環境放射線モニタリングに関する指針(平成13年3月原子力安全委員会)」による。

(3)線量評価の実施時期について

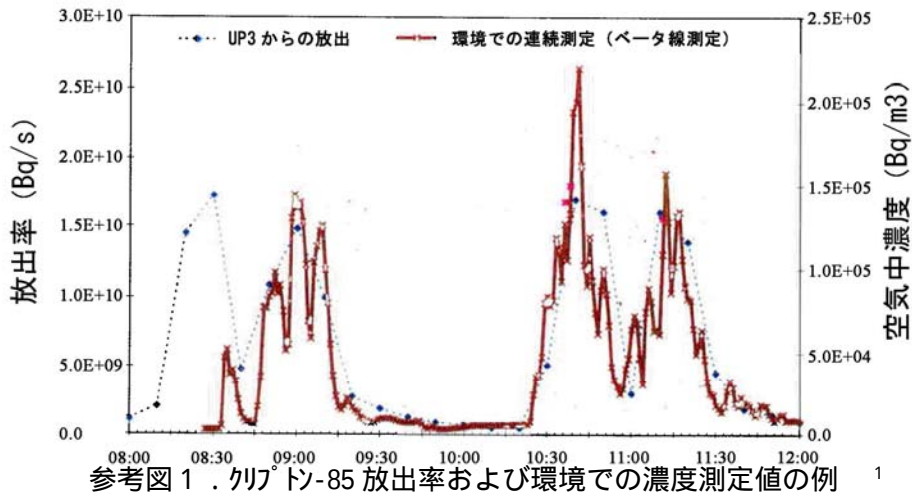
モニタリング結果の評価方法において、線量の推定・評価は、1年間の外部被ばくによる実効線量と1年間の飲食物等の摂取からの内部被ばくによる預託実効線量に分けて別々に算定し、その結果を総合することとしているため、線量評価は年度ごとに実施する。

一方で、再処理工場からの液体廃棄物の海洋放出については法令で3箇月間の線量限度により規制されていること、環境モニタリング結果の取りまとめを四半期ごとに行っていること等を考慮し、四半期報告時に施設寄与が認められた項目については、暫定的に1年未満の期間においても線量を算出する。

(4)調査研究について

今後、六ヶ所再処理工場から環境への影響をより詳細に把握し、県が実施する環境モニタリングにおける線量評価の妥当性を裏付けるとともに、必要に応じて改善に資するため、県と事業者が分担して調査研究を実施する。調査研究結果については、定期的に監視評価会議で報告する。

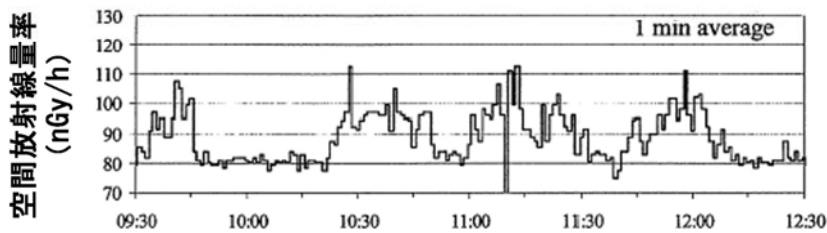
先行施設における線量率等の観測例



- ・排気筒高さ：100 m
- ・環境測定：放出源から 1,000 m 地点 (Herqueville)
- ・風速：11.1 m/s (排気筒高さ)
- ・大気安定度：D

《考察》

線量率は風速に反比例することから、風速が 2 m/s の条件を仮定すれば、濃度及び線量率はこの図の5倍程度の値が考えられる。



- ・排気筒高さ：100 m
- ・環境測定：放出源から 630 m 地点
- ・風速：10.7 m/s (排気筒高さ)
- ・大気安定度：D
- ・平均放出率： 1.0×10^{10} Bq/s

- 出典： 1 : Comparaison des modèles gaussiens de dispersion atmosphérique de Doury, Pasquill et Caire avec les résultats des mesures du Krypton 85 réalisées autour de l'usine de retraitement des combustibles irradiés de La Hague, IRSN, Rapport DPRE/SERNAT 2000-021 (2000)
- 2 : R.Gurriaran et al., In situ metrology of ^{85}Kr plumes released by the COGEM La Hague nuclear reprocessing plant, J.Environ.Radioact.(2004) ほか

東 通 原 子 力 発 電 所

表中の記号（資料 3．東通原子力発電所の運転状況を除く）

- : モニタリング対象外を示す。
- : 今四半期の分析対象外を示す。
- ND : 定量下限値未満を示す。分析室等で実施する環境試料中放射性核種の分析測定については、測定条件や精度を一定の水準に保つため、試料・核種毎に定量下限値を定めている。
- * : **検出限界以下**を示す。モニタリングステーションにおいて自動的に採取・測定している大気浮遊じん中の全ベータ放射能については、測定条件（採取空気量等）が変動するため、計数誤差の3倍を検出限界として設定している。

1 調査概要

(1) 実施者

青森県原子力センター
東北電力株式会社

(2) 期間

平成 2 2 年 1 月 ~ 3 月 (平成 2 1 年度第 4 四半期)

(3) 内容

調査内容は、表 1 - 1、表 1 - 2 (1) 及び表 1 - 2 (2) に示すとおりである。

(4) 測定方法

『東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施要領』による (「資料」参照) 。

表 1 - 1 空間放射線

測 定 項 目			測 定 頻 度	地 点 数		
				区 分	青 森 県	事 業 者
空間放射線量率	モニタリングステーション		連 続	施 設 周 辺 地 域	3	—
	モ ニ タ リ ン グ ポ ス ト		連 続	施 設 周 辺 地 域	2	2
	モニタリングカー	定点測定	1回 / 3箇月	施 設 周 辺 地 域	9	—
		走行測定	1回 / 3箇月	施 設 周 辺 地 域	4ルート	—
R P L D に よ る 積 算 線 量			3 箇 月 算 積	施 設 周 辺 地 域	14	6
				比較対照(むつ市川内町)	1	—

表 1 - 2 (1) 環境試料中の放射能(モニタリングステーション)

試 料 の 種 類		測 定 頻 度	地 点 数	
			青 森 県	
			全 β 放 射 能	ヨウ素 - 131
施設周辺地域	大 気 浮 遊 じ ん	1 回 / 3 時 間	3	—
	大 気	1 回 / 週	—	3

表1 - 2 (2) 環境試料中の放射能 (機器分析等)

試 料 の 種 類				青 森 県					事 業 者							
				地 点 数	検 体 数					地 点 数	検 体 数					
					γ 線 放 出 核 種	ヨ ウ 素 ・ 131	ト リ チ ウ ム	ス ト ロ ン チ ウ ム ・ 90	プ ル ト ニ ウ ム		γ 線 放 出 核 種	ヨ ウ 素 ・ 131	ト リ チ ウ ム	ス ト ロ ン チ ウ ム ・ 90		
陸 上 試 料	大 気 浮 遊 じ ん			3	9	-	-	-	-	2	6	-	-	-		
	降 下 物			1	3	-	-	1	1	1	3	-	-	1		
	河 川 水					-		-	-	-	-	-	-	-		
	水 道 水			4	4	-	4	-	-	3	3	-	3	-		
	井 戸 水			2	2	-	2	-	-	1	1	-	1	-		
	表 土					-	-	-				-	-	-		
	精 米					-	-		-			-	-			
	野 菜	バレイショ					-	-		-		-	-			
		ダイコン					-	-		-		-	-			
		ハクサイ、キャベツ						-		-			-			
		アブラナ						-		-	-	-	-	-		
	牛 乳（原乳）			2	2	2	-	2	-	2	2	2	-	2		
	牛 肉			1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-		
	牧 草						-	-	-			-	-	-		
	指 標 生 物	松 葉					-	-		-			-			
海 洋 試 料	海 水			3	3	-	3	-	-	2	2	-	2	-		
	海 底 土						-	-	-				-	-		
	海 産 類	魚 類	ヒラメ													
			カレイ													
			ウスメバル													
			コウナゴ													
	食 品	貝 類	ホタテ							1	1		-	-	1	
			アワビ													
			海 藻 類	コンブ												
				その他	タコ				-	-		-	-	-	-	-
指 標 生 物		ウニ	-	-	-	-	-	-				-	-			
		チガイソ	-	-	-	-	-	-				-	-			
		ムラサキガイ	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-		
比較 対 照 (むつ市川内町)	表 土						-	-		-	-	-	-	-		
	指 標 生 物	松 葉					-	-		-	-	-	-	-		
計				17	25	2	9	5	2	12	18	2	6	4		
					43						30					

・ プルトニウムはプルトニウム-(239+240)。

2 調査結果

平成 21 年度第 4 四半期（平成 22 年 1 月～ 3 月）における空間放射線及び環境試料中の放射能濃度は、これまでと同じ水準であった。

（１）空間放射線

モニタリングステーション、モニタリングポスト及びモニタリングカーによる空間放射線量率測定並びに R P L D による積算線量測定を実施した。

空間放射線量率（NaI）

（a）モニタリングステーション及びモニタリングポスト（図 2 - 1）

各測定局における測定値は、過去の測定値¹と同じ水準であった。

各測定局における今四半期の平均値は 16 ～ 20 nGy/h、最大値は 41 ～ 68 nGy/h、最小値は 11 ～ 16 nGy/h であり、月平均値は 14 ～ 21 nGy/h であった。

平常の変動幅²を上回った測定値は、すべて降雨等³によるものであった。

（b）モニタリングカー（図 2 - 2）

定点測定における測定値は 10 ～ 18 nGy/h、走行測定における測定値は 9 ～ 21 nGy/h であり、過去の測定値と同じ水準であった。

R P L D による積算線量（図 2 - 3）

測定値は 75 ～ 99 μ Gy/91 日 であり、過去の測定値と同じ水準であった。

県実施分の 2 地点（桜木町及び関根）事業者実施分の 3 地点（上田代、蒲野沢及び小川町）で平常の変動幅を下回ったが、積雪の影響と考えられる。

1：「過去の測定値」は空間放射線量率については前年度までの 5 年間（平成 16～20 年度）の測定値。

ただし、

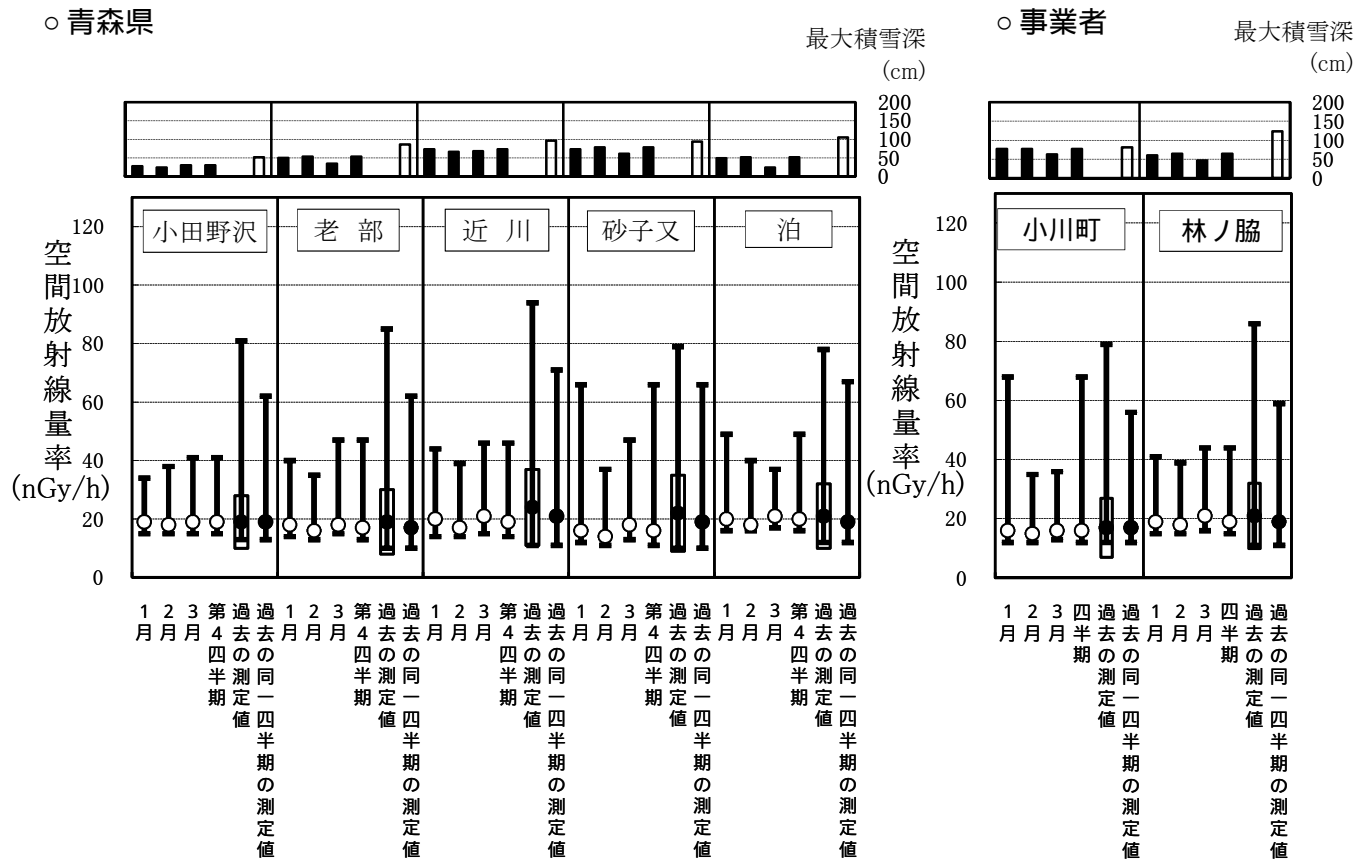
・モニタリングカーの走行測定については、平成 17～20 年度の測定値。

・積算線量の砂子又については平成 17 年 1 月～平成 21 年 3 月の測定値。

2：「平常の変動幅」は空間放射線量率（モニタリングステーション及びモニタリングポスト）については「過去の測定値」の「平均値 $\pm$ （標準偏差の 3 倍）」RPLD による積算線量については「過去の測定値」の「最小値～最大値」。

3：「降雨等」とは、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などである。空間放射線量率は、降雨雪時に雨や雪に取り込まれて地表面に落下したラドンの壊変生成物の影響により上昇し、積雪により大地からの放射線が遮へいされることにより低下する。また、医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響により測定値が上昇することがある。

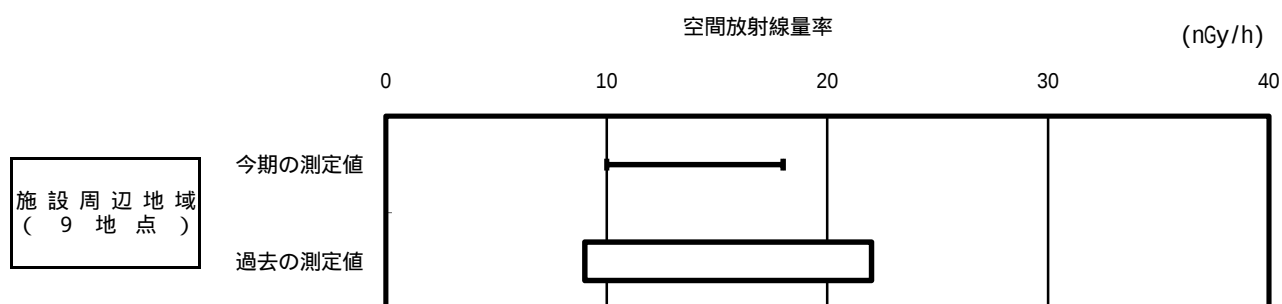
図2 - 1 モニタリングステーション及びモニタリングポストによる
空間放射線量率 (NaI) 測定結果



凡例 最大値 平常の変動幅 平均値 最小値 今期の測定値 過去の測定値	測定値は1時間値。 過去の測定値 平成16～20年度の測定値。 平常の変動幅 平成16～20年度の測定値の 「平均値±(標準偏差の3倍)」。 過去の同一四半期の測定値 平成16～20年度の測定値のうち、同一四半期の 測定値。	過去の測定値の最大値とその測定年月 <table> <tr> <th>測定局</th><th>最大値 (nGy/h)</th><th>測定年月</th></tr> <tr> <td>小田野沢</td><td>81</td><td>平成19年12月</td></tr> <tr> <td>老部</td><td>85</td><td>平成19年12月</td></tr> <tr> <td>近川</td><td>94</td><td>平成19年12月</td></tr> <tr> <td>砂子又</td><td>79</td><td>平成16年12月</td></tr> <tr> <td>泊</td><td>78</td><td>平成19年12月</td></tr> <tr> <td>小川町</td><td>79</td><td>平成19年12月</td></tr> <tr> <td>林ノ脇</td><td>86</td><td>平成19年12月</td></tr> </table> 注) いずれも降雨等の影響によるものであった。	測定局	最大値 (nGy/h)	測定年月	小田野沢	81	平成19年12月	老部	85	平成19年12月	近川	94	平成19年12月	砂子又	79	平成16年12月	泊	78	平成19年12月	小川町	79	平成19年12月	林ノ脇	86	平成19年12月
測定局	最大値 (nGy/h)	測定年月																								
小田野沢	81	平成19年12月																								
老部	85	平成19年12月																								
近川	94	平成19年12月																								
砂子又	79	平成16年12月																								
泊	78	平成19年12月																								
小川町	79	平成19年12月																								
林ノ脇	86	平成19年12月																								

図 2 - 2 モニタリングカーによる空間放射線量率測定結果

○ 定点測定



○ 走行測定

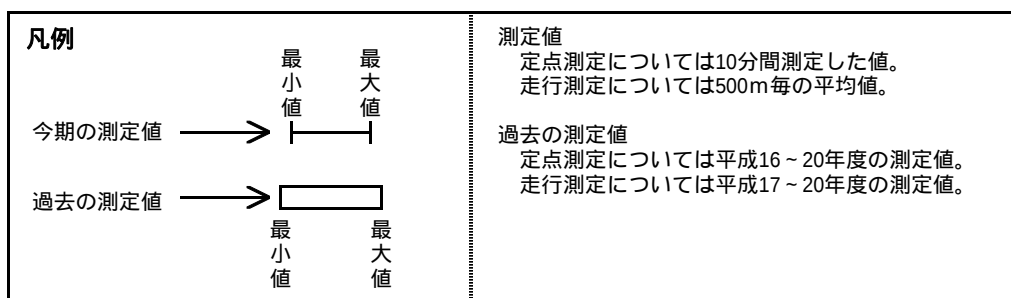
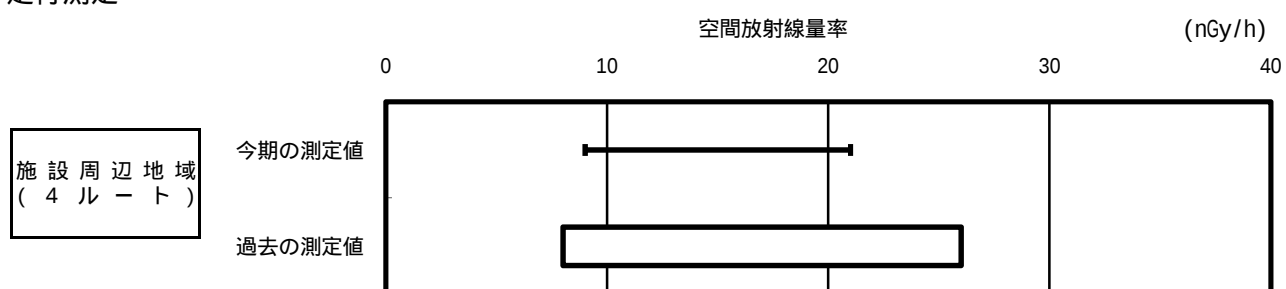
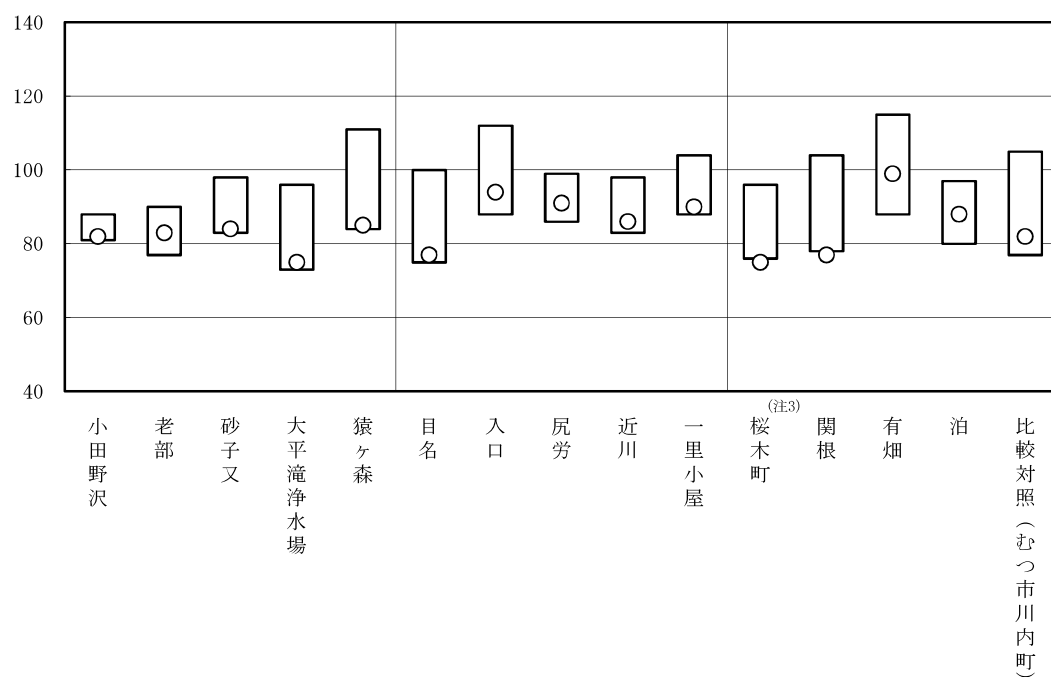


図 2-3 RPLDによる積算線量測定結果^(注1)

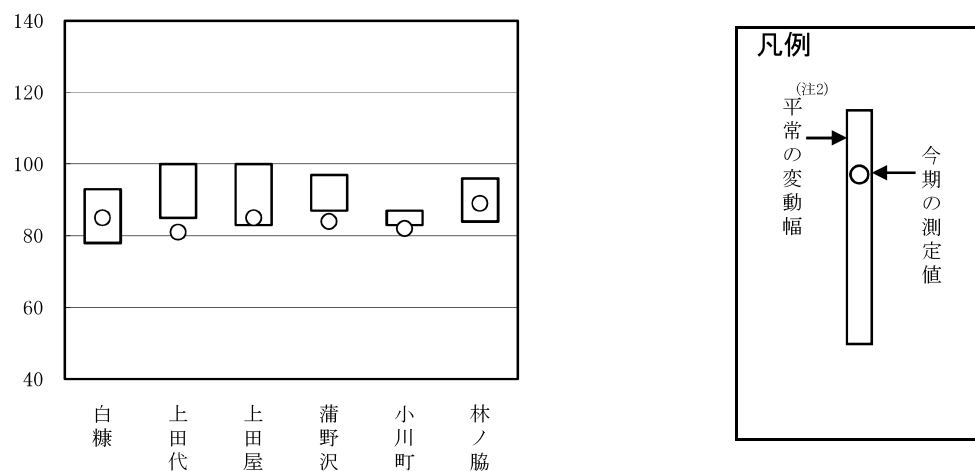
○青森県

($\mu\text{Gy}/91\text{日}$)



○事業者

($\mu\text{Gy}/91\text{日}$)



(注1) 測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。

(注2) 「平常の変動幅」は平成16年4月～平成21年3月の測定値の「最小値～最大値」。
ただし、砂子又については平成17年1月～平成21年3月の測定値の「最小値～最大値」。

(注3) 桜木町については、隣接する中学校の耐震補強工事により周辺環境が変化していたことから測定値の取扱いについて検討した。その結果、工事前後において測定地点のバックグラウンドレベルに変化がないと考えられたことから、測定値については平常の変動幅に繰り入れることとした(付6)。

(2) 環境試料中の放射能

大気浮遊じん中の全 β （ベータ）放射能測定、大気中のヨウ素 - 131 測定、機器分析及び放射化学分析を実施した。

大気浮遊じん中の全 β 放射能測定⁴（表2 - 1）

測定値は0.067 ~ 5.4 Bq/m³であり、過去の測定値⁵と同じ水準であった。

大気中のヨウ素 - 131 測定（表2 - 2）

測定値は、これまでと同様にすべて ND であった。

機器分析及び放射化学分析

γ （ガンマ）線放出核種及びヨウ素 - 131 については、ゲルマニウム半導体検出器による機器分析を、トリチウム、ストロンチウム - 90 及びプルトニウム分析については、放射化学分析を実施した。

○ γ 線放出核種分析（表2 - 3）

人工放射性核種であるセシウム - 137 の測定値はすべて ND であり、過去の測定値と同じ水準であった。

その他の人工放射性核種については、これまでと同様にすべて ND であった。

○ ヨウ素 - 131 分析（表2 - 4）

測定値は、これまでと同様にすべて ND であった。

○ トリチウム分析（表2 - 5）

測定値はすべて ND であり、過去の測定値と同じ水準であった。

○ ストロンチウム - 90 分析（表2 - 6）

降下物が #ND⁶、0.16 Bq/m²、その他はすべて ND であり、過去の測定値と同じ水準であった。

降下物（砂子又）は #ND であり、平常の変動幅を下回ったが、環境レベルの変動と考えられる。

○ プルトニウム分析（表2 - 7）

測定値はすべて ND であり、過去の測定値と同じ水準であった。

4：3時間集じん終了直後10分間測定。

5：「過去の測定値」は環境試料中の放射能については調査を開始した平成15年度から前年度までの測定値。

6：#は、平常の変動幅を外れた測定値。

表 2 - 1 大気浮遊じん中の全β放射能測定結果

(単位：Bq/m³)

実施者	測 定 局	測 定 値	平 常 の 変 動 幅
青 森 県	小 田 野 沢	0.088 ~ 5.3	* ~ 9.1
	老 部	0.074 ~ 4.8	0.012 ~ 9.9
	近 川	0.067 ~ 5.4	* ~ 12

- ・ 3時間集じん終了直後 10 分間測定。
- ・ 「平常の変動幅」は平成 15～20 年度の測定値の「最小値～最大値」。

表 2 - 2 大気中のヨウ素 - 131 測定結果

(単位：mBq/m³)

実施者	測 定 局	定 量 下 限 値	測 定 値	平 常 の 変 動 幅
青 森 県	小 田 野 沢	20	ND	ND
	老 部		ND	ND
	近 川		ND	ND

- ・ 「平常の変動幅」は平成 15～20 年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2 - 3 γ線放出核種分析結果

試 料 の 種 類				単 位	定量 下限値	セ シ ウ ム - 137					
						青 森 県		事 業 者		平常の変動幅	
						検体数	測定値	検体数	測定値		
陸 上 試 料	大 気 浮 遊 じ ん			mBq/m³	0.02	9	ND	6	ND	ND	
	降 下 物			Bq/m²	0.2	3	ND	3	ND	ND ~ 0.2	
	河 川 水			mBq/ℓ	6			—	—	ND	
	水 道 水					4	ND	3	ND	ND	
	井 戸 水					2	ND	1	ND	ND	
	表 土			Bq/kg乾	3					ND ~ 47	
	精 米			Bq/kg生	0.4					ND	
	野	バ レ イ シ ョ								ND ~ 0.4	
		ダ イ コ ン								ND	
		ハクサイ、キャベツ								ND	
	菜	ア ブ ラ ナ								—	—
		牛 乳（ 原 乳 ）			Bq/ℓ	0.4	2	ND	2	ND	ND
	牛 肉			Bq/kg生	0.4	1	ND	—	—	ND	
	牧 草										ND ~ 2.8
	指標生物	松 葉									ND
海 洋 試 料	海 水			mBq/ℓ	6	3	ND	2	ND	ND	
	海 底 土			Bq/kg乾	3					ND	
	海 産 食 品	ヒラメ、カレイ、ウスメバル、コウナゴ、アイナメ		Bq/kg生	0.4						ND
		ホタテ、アワビ						1	ND	ND	
		コ ン ブ								ND	
		タ コ						—	—	ND	
		ウ ニ				—	—			ND	
	指標生物	チ ガ イ ソ				—	—			ND	
		ムラサキイガイ		1	ND	—	—			ND	
	比較 対 照 (むつ市川内町)	表 土			Bq/kg乾	3			—	—	8 ~ 10
指標生物		松 葉		Bq/kg生	0.4			—	—	ND	
計				—	—	25	—	18	—	—	

- ・ 測定対象核種はマンガン-54、鉄-59、コバルト-58、コバルト-60、セシウム-134、セシウム-137、ベリリウム-7、カリウム-40、ビスマス-214、アクチニウム-228。
- ・ 「平常の変動幅」は平成15～20年度の測定値の「最小値～最大値」。ただし、「ヒラメ、カレイ、ウスメバル、コウナゴ、アイナメ」及び「ホタテ、アワビ」については平成元～20年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2 - 4 ヨウ素 - 131分析結果

試料の種類			単位	定量 下限値	青 森 県		事 業 者		平常の変動幅
					検体数	測定値	検体数	測定値	
陸上 試料	野菜	ハクサイ、キャベツ	Bq/kg [±]	0.4					ND
		アブラナ					-	-	ND
	牛乳（原乳）		Bq/ℓ	0.4	2	ND	2	ND	ND
	牧草		Bq/kg [±]	0.4			-	-	ND
	指標生物	松葉			-	-			ND
海洋試料	海産食品	コンブ	Bq/kg [±]	0.4					ND
計			-	-	2	-	2	-	-

・「平常の変動幅」は平成15～20年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2 - 5 トリチウム分析結果

試料の種類		単位	定量 下限値	青 森 県		事 業 者		平常の 変動幅	参 考
				検体数	測定値	検体数	測定値		過去の測定 値の範囲
陸上試料	河川水	Bq/ℓ	2			-	-	ND	ND
	水道水			4	ND	3	ND	ND	ND
	井戸水			2	ND	1	ND	ND	ND
海洋試料	海水			3	ND	2	ND	ND	ND～4
計		-	-	9	-	6	-	-	-

・「平常の変動幅」は平成15～20年度の測定値の「最小値～最大値」。ただし、再処理工場のアクティブ試験による影響が考えられたものは、東通原子力発電所に係る測定値のふり分けに用いることは適切でないことから、「平常の変動幅」に繰り入れていない。

・「過去の測定値の範囲」は平成15～20年度の測定値の「最小値～最大値」（再処理工場のアクティブ試験の影響と考えられるものを含む）。

表2-6 ストロンチウム-90分析結果

試料の種類				単位	定量 下限値	青森県		事業者		平常の変動幅		
						検体数	測定値	検体数	測定値			
陸上試験料	降下物			Bq/m ²	0.08	1	#ND	1	0.16	0.08 ～ 0.23		
	精米			Bq/kg [±]	0.04	△	△	△	△	ND		
	野菜	バレイショ				△	△	△	△	ND		
		ダイコン				△	△	△	△	ND ～ 0.27		
		ハクサイ、キャベツ				△	△	△	△	ND ～ 0.29		
		アブラナ				△	△	-	-	0.22 ～ 0.56		
	牛乳（原乳）			Bq/ℓ	0.04	2	ND	2	ND	ND ～ 0.06		
	牛肉	指標生物			松葉	Bq/kg [±]	0.04	1	ND	-	-	ND
								△	△	△	△	0.06 ～ 3.5
海洋試験料	海産食品	ヒラメ、カレイ、ウスメバル、コウナゴ、アイナメ		Bq/kg [±]	0.04	△	△	△	△	ND		
		ホタテ、アワビ				△	△	1	ND	ND		
		コンブ				△	△	△	△	ND		
		タコ				△	△	-	-	ND		
		ウニ				-	-	△	△	ND		
		チガイソ				-	-	△	△	ND ～ 0.05		
		指標生物				ムラサキイガイ	1	ND	-	-	ND	
比較対照	（むつ市内町） 指標生物	松葉		Bq/kg [±]	0.04	△	△	-	-	0.39 ～ 1.4		
		計		-	-	5	-	4	-	-		

- ・「平常の変動幅」は平成15～20年度の測定値の「最小値～最大値」。ただし、「ヒラメ、カレイ、ウスメバル、コウナゴ、アイナメ」及び「ホタテ、アワビ」については平成元～20年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・降下物の採取期間は1年間。
- ・#は、平常の変動幅を外れた測定値。

表2-7 プルトニウム分析結果

試料の種類			単位	定量 下限値	青森県 検体数	測定値	平常の変動幅
陸上 試験 料	降下物		Bq/m ²	0.004	1	ND	ND ~ 0.011
	表土		Bq/kg [±]	0.04	△	△	ND ~ 0.11
海洋 試験 料	海底土		Bq/kg [±]	0.04	△	△	0.28 ~ 0.88
	海産 食品	ホタテ、アワビ	Bq/kg [±]	0.002	△	△	ND ~ 0.023
		コンブ			△	△	ND ~ 0.004
		指標生物			1	ND	ND ~ 0.003
比較 対照 (むつ市内町)	表土		Bq/kg [±]	0.04	△	△	0.10 ~ 0.16
	計		-	-	2	-	-

- ・プルトニウムはプルトニウム-(239+240)。
- ・「平常の変動幅」は平成15～20年度の測定値の「最小値～最大値」。ただし、「ホタテ、アワビ」については平成元～20年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・降下物の採取期間は1年間。

資

料

核種の記号及び名称

^3H , H-3	: トリチウム
^7Be , Be-7	: ベリリウム-7
^{40}K , K-40	: カリウム-40
^{54}Mn , Mn-54	: マンガン-54
^{59}Fe , Fe-59	: 鉄-59
^{58}Co , Co-58	: コバルト-58
^{60}Co , Co-60	: コバルト-60
^{90}Sr , Sr-90	: ストロニウム-90
^{131}I , I-131	: ヨウ素-131
^{134}Cs , Cs-134	: セシウム-134
^{137}Cs , Cs-137	: セシウム-137
^{214}Bi , Bi-214	: ビスマス-214
^{228}Ac , Ac-228	: アクチニウム-228
$^{239+240}\text{Pu}$, Pu-(239+240)	: プルトニウム-(239+240)

1 . 青 森 県 実 施 分 測 定 結 果

(1) 空間放射線量率測定結果

モニタリングステーション及びモニタリングポストによる空間放射線量率 (N a I) 測定結果
(単位 : nGy/h)

測定局	測 定 月	平均	最大	最小	標準 偏差	平常の 変動幅 を外れた時間 数 (単位 : 時間)	平 常 の 変 動 幅 を 外れた原因と時間数 (単 位 : 時 間)		平常の 変動幅	過去の 測定値 の範囲	過去の 同一四 半期の 測定値 の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
小 田 野 沢	1 月	19	34	15	3.5	25	0	25	10 ~ 28 (19 ± 9)	13 ~ 81	13 ~ 62 (19)	M S
	2 月	18	38	15	3.0	13	0	13				
	3 月	19	41	15	3.0	21	0	21				
	第 4 四半期	19	41	15	3.2	59	0	59				
老 部	1 月	18	40	14	4.5	28	0	28	8 ~ 30 (19 ± 11)	10 ~ 85	10 ~ 62 (17)	M S
	2 月	16	35	13	3.0	3	0	3				
	3 月	18	47	15	3.5	14	0	14				
	第 4 四半期	17	47	13	3.9	45	0	45				
近 川	1 月	20	44	14	5.5	16	0	16	11 ~ 37 (24 ± 13)	11 ~ 94	11 ~ 71 (21)	M S
	2 月	17	39	14	3.8	2	0	2				
	3 月	21	46	15	4.1	8	0	8				
	第 4 四半期	19	46	14	4.9	26	0	26				
砂子又	1 月	16	66	12	5.4	7	0	7	9 ~ 35 (22 ± 13)	10 ~ 79	10 ~ 66 (19)	M P
	2 月	14	37	11	3.5	1	0	1				
	3 月	18	47	13	4.2	5	0	5				
	第 4 四半期	16	66	11	4.7	13	0	13				
泊	1 月	20	49	16	3.9	13	0	13	10 ~ 32 (21 ± 11)	12 ~ 78	12 ~ 67 (19)	M P
	2 月	18	40	16	2.4	3	0	3				
	3 月	21	37	17	2.7	6	0	6				
	第 4 四半期	20	49	16	3.2	22	0	22				

- ・ 測定値は 1 時間値。
- ・ 測定時間数は 3 箇月間で約2,200時間。
- ・ 測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・ M S : モニタリングステーション
- ・ M P : モニタリングポスト
- ・ 「平常の変動幅」は「過去の測定値」の「平均値 ± (標準偏差の3倍)」。
- ・ 「過去の測定値」の範囲は平成16 ~ 20年度の測定値の「最小値 ~ 最大値」。
- ・ 「過去の同一四半期の測定値」の範囲は「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値 ~ 最大値」。
- また、括弧内の数値は平均値。
- ・ 「施設起因」は、監視対象施設である東通原子力発電所に起因するもの。
- ・ 「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・ 「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(参考) モニタリングステーション及びモニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果
(単位: nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
小田野沢	1月	52	66	48	3.2	M S
	2月	51	70	48	2.8	
	3月	51	72	48	2.9	
	第4四半期	51	72	48	3.0	
老 部	1月	55	76	48	4.7	M S
	2月	51	70	48	3.0	
	3月	54	79	48	3.7	
	第4四半期	54	79	48	4.2	
近 川	1月	54	77	48	5.2	M S
	2月	51	72	48	3.7	
	3月	54	78	48	3.8	
	第4四半期	53	78	48	4.5	
砂 子 又	1月	51	102	46	5.6	M P
	2月	49	71	46	3.6	
	3月	52	78	47	4.2	
	第4四半期	51	102	46	4.7	
泊	1月	56	81	51	3.8	M P
	2月	55	76	52	2.4	
	3月	56	74	53	2.9	
	第4四半期	56	81	51	3.2	

- ・ 測定値は1時間値。
- ・ 測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。
- ・ M S : モニタリングステーション
- ・ M P : モニタリングポスト

モニタリングカーによる空間放射線量率（NaI）測定結果

ア 定点測定

測 定 地 点		測 定 日 年 月 日	測 定 値 (nGy/h)	積雪深 (cm)	備 考
東 通 村	白 糠	H22.3.5	12	0	
	大 平 滝 浄 水 場	"	11	8	
	小 田 野 沢	H22.3.19	12	0	
	上 田 代	"	12	7	
	砂 子 又	"	10	20	
む つ 市	浜 奥 内	H22.3.5	12	0	
	中 野 沢	H22.3.19	14	0	
横 浜 町	浜 田	"	16	0	
六ヶ所村	泊	H22.3.5	18	0	

- ・測定値は、10分間測定した値。
- ・降雨雪のない状況で測定。

イ 走行測定

走 行 ル ー ト	測定年月日	測定値の範囲 (nGy/h)	備 考
ルートA（泊～発電所）	H22.3.19	11 ～ 20	
ルートB（発電所～砂子又）	"	9 ～ 20	
ルートC（発電所～近川）	"	9 ～ 12	
ルートD（浜田～奥内）	"	12 ～ 21	

- ・測定値は、500m毎の平均値。
- ・降雨雪のない状況で測定。

(2) 積算線量測定結果 (R P L D)

測 定 地 点		測 定 期 間 (日数)	3 箇 月 積算線量 ($\mu\text{Gy}/91\text{日}$)	平常の変動幅 ($\mu\text{Gy}/91\text{日}$)	備 考
東 通 村	小 田 野 沢	H21. 12. 25~H22. 3. 25 (90)	82	81 ~ 88	
	老 部	〃	83	77 ~ 90	
	砂 子 又	〃	84	83 ~ 98	
	大 平 滝 浄 水 場	〃	75	73 ~ 96	
	猿 ケ 森	〃	85	84 ~ 111	
	目 名	〃	77	75 ~ 100	
	入 口	〃	94	88 ~ 112	
	尻 労	〃	91	86 ~ 99	
む つ 市	近 川	〃	86	83 ~ 98	※
	一 里 小 屋	〃	90	88 ~ 104	
	桜 木 町	〃	75	76 ~ 96	
	関 根	〃	77	78 ~ 104	
横 浜 町	有 畑	〃	99	88 ~ 115	
六 ヶ 所 村	泊	〃	88	80 ~ 97	
む つ 市	比 較 対 照 (むつ市川内町)	〃	82	77 ~ 105	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3 箇月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成16年4月～平成21年3月の3 箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。
ただし、砂子又については平成17年1月～平成21年3月の3 箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。
- ・※：桜木町については、隣接する中学校の耐震補強工事により周辺環境が変化していたことから測定値の取扱いについて検討した。その結果、工事前後において測定地点のバックグラウンドレベルに変化がないと考えられたことから、測定値については平常の変動幅に繰り入れることとした（付6）。

(3) 大気浮遊じん中の全β放射能測定結果

(単位 : Bq/m³)

測 定 局	採 取 期 間	検体数	平 均	最 大	最 小	備 考
小 田 野 沢	H22.1. 1～H22.1.31	247	1.3	3.4	0.088	
	H22.2. 1～H22.2.28	223	1.8	5.3	0.41	
	H22.3. 1～H22.3.31	243	1.4	3.9	0.44	
	第 4 四 半 期	713	1.5	5.3	0.088	
老 部	H22.1. 1～H22.1.31	247	1.2	3.2	0.074	
	H22.2. 1～H22.2.28	223	1.6	4.8	0.28	
	H22.3. 1～H22.3.31	243	1.3	3.9	0.43	
	第 4 四 半 期	713	1.3	4.8	0.074	
近 川	H22.1. 1～H22.1.31	247	1.3	4.1	0.067	
	H22.2. 1～H22.2.28	222	1.9	4.8	0.28	
	H22.3. 1～H22.3.31	244	1.4	5.4	0.26	
	第 4 四 半 期	713	1.5	5.4	0.067	

- ・ 3時間集じん直後、10分間測定。
- ・ 平均値の算出においては測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し平均値に「<」を付ける。すべての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「*」と表示する。

(4) 大気中のヨウ素 - 131 測定結果

(単位 : mBq/m³)

測 定 局	採 取 期 間	検体数	平 均	最 大	最 小	備 考
小 田 野 沢	H22. 1. 4～H22. 1.31	4	N D	N D	N D	
	H22. 2. 1～H22. 2.28	4	N D	N D	N D	
	H22. 3. 1～H22. 3.28	4	N D	N D	N D	
	第 4 四 半 期	12	N D	N D	N D	
老 部	H22. 1. 4～H22. 1.31	4	N D	N D	N D	
	H22. 2. 1～H22. 2.28	4	N D	N D	N D	
	H22. 3. 1～H22. 3.28	4	N D	N D	N D	
	第 4 四 半 期	12	N D	N D	N D	
近 川	H22. 1. 4～H22. 1.31	4	N D	N D	N D	
	H22. 2. 1～H22. 2.28	4	N D	N D	N D	
	H22. 3. 1～H22. 3.28	4	N D	N D	N D	
	第 4 四 半 期	12	N D	N D	N D	

- ・ 168時間捕集直後、1時間測定。

(5) 環境試料中の放射能測定結果

試 料 名	採 取 地 点	採 取 年 月 日	単 位	機 器					
				⁵⁴ Mn	⁵⁹ Fe	⁵⁸ Co	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs
大 気 浮 遊 じ ん	小 田 野 沢	H22. 1. 1 ~ H22. 1. 31	mBq/m ³	N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 2. 1 ~ H22. 2. 28		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 3. 1 ~ H22. 3. 31		N D	N D	N D	N D	N D	N D
	老 部	H22. 1. 1 ~ H22. 1. 31		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 2. 1 ~ H22. 2. 28		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 3. 1 ~ H22. 3. 31		N D	N D	N D	N D	N D	N D
	近 川	H22. 1. 1 ~ H22. 1. 31		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 2. 1 ~ H22. 2. 28		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 3. 1 ~ H22. 3. 31		N D	N D	N D	N D	N D	N D
降 下 物	砂 子 又	H21.12.28 ~ H22. 1. 29	Bq/m ²	N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 1.29 ~ H22. 2. 26		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 2.26 ~ H22. 3. 31		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H21. 3.31 ~ H22. 3. 31		-	-	-	-	-	-
水 道 水	老 部	H22. 1. 13	mBq/ℓ トリチウム については Bq/ℓ	N D	N D	N D	N D	N D	N D
	砂 子 又	H22. 1. 15		N D	N D	N D	N D	N D	N D
	一 里 小 屋	H22. 1. 15		N D	N D	N D	N D	N D	N D
	有 畑	H22. 1. 15		N D	N D	N D	N D	N D	N D
井 戸 水	浜 奥 内	H22. 1. 14		N D	N D	N D	N D	N D	N D
	有 畑	H22. 1. 14		N D	N D	N D	N D	N D	N D
牛 乳 (原 乳)	豊 栄	H22. 1.18	Bq/ℓ	N D	N D	N D	N D	N D	N D
	東 栄	H22. 1.18		N D	N D	N D	N D	N D	N D
牛 肉	野 牛	H21. 12.10	Bq/kg生	N D	N D	N D	N D	N D	N D
海 水	放 水 口 近	H22. 1.20	mBq/ℓ トリチウム については Bq/ℓ	N D	N D	N D	N D	N D	N D
	放 水 口 沖 北 2km 地点	H22. 1.20		N D	N D	N D	N D	N D	N D
	放 水 口 沖 南 2km 地点	H22. 1.20		N D	N D	N D	N D	N D	N D
ム ラ サ キ イ ガ キ	小 田 野 沢 沖	H22. 1.27	Bq/kg生	N D	N D	N D	N D	N D	N D

・ γ線スペクトロメトリ、³H及び⁹⁰Srの測定値は、試料採取日に補正した値。

分 析					放射化学分析			備 考
⁷ B e	⁴⁰ K	²¹⁴ B i	²²⁸ A c	¹³¹ I	³ H	⁹⁰ S r	²³⁹⁺²⁴⁰ P u	
3.4	-	-	-	-	-	-	-	
5.1	-	-	-	-	-	-	-	
5.4	-	-	-	-	-	-	-	
3.6	-	-	-	-	-	-	-	
4.9	-	-	-	-	-	-	-	
4.5	-	-	-	-	-	-	-	
3.9	-	-	-	-	-	-	-	
4.8	-	-	-	-	-	-	-	
4.7	-	-	-	-	-	-	-	
400	N D	-	-	-	-	-	-	
250	N D	-	-	-	-	-	-	
300	N D	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	N D	N D	採取期間は1年間
N D	N D	-	-	-	N D	-	-	
N D	N D	-	-	-	N D	-	-	
N D	N D	-	-	-	N D	-	-	
N D	N D	-	-	-	N D	-	-	
N D	N D	-	-	-	N D	-	-	
N D	N D	-	-	-	N D	-	-	
N D	53	-	-	N D	-	N D	-	
N D	48	-	-	N D	-	N D	-	
N D	62	-	-	-	-	N D	-	
N D	-	-	-	-	N D	-	-	
N D	-	-	-	-	N D	-	-	
N D	-	-	-	-	N D	-	-	
N D	37	-	-	-	-	N D	N D	

(6) 気象観測結果

風速・気温・湿度・降水量・積雪深

測定局	測 定 月	風速(m/sec)		気 温()			湿度(%)		降水量 (mm)	積 雪 深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
小 野 田 沢	1 月	-	-	-	-	-	-	-	96.0	4	27	0	4	21
	2 月	-	-	-	-	-	-	-	38.0	6	24	0	6	51
	3 月	-	-	-	-	-	-	-	74.0	2	30	0	2	26
	第 4 四半期	-	-	-	-	-	-	-	208.0	4	30	0	4	51
老 部	1 月	2.6	9.3	-0.3	8.5	-7.1	72	38	160.5	18	50	0	23	64
	2 月	2.0	7.9	-1.4	13.9	-9.3	69	25	56.0	30	53	12	26	86
	3 月	2.5	8.0	1.3	9.0	-6.3	66	25	78.0	4	34	0	9	74
	第 4 四半期	2.4	9.3	-0.1	13.9	-9.3	69	25	294.5	17	53	0	19	86
近 川	1 月	2.1	5.6	-0.4	7.0	-9.3	70	40	162.5	31	73	7	23	65
	2 月	1.7	6.6	-1.6	12.8	-10.8	67	26	56.0	45	66	26	30	96
	3 月	2.1	6.9	1.4	10.1	-7.8	63	26	76.0	21	68	0	15	87
	第 4 四半期	2.0	6.9	-0.2	12.8	-10.8	67	26	294.5	32	73	0	23	96
砂子又	1 月	-	-	-	-	-	-	-	152.0	48	73	26	23	64
	2 月	-	-	-	-	-	-	-	49.5	57	78	42	24	94
	3 月	-	-	-	-	-	-	-	87.0	28	61	0	8	56
	第 4 四半期	-	-	-	-	-	-	-	288.5	44	78	0	18	94
泊	1 月	-	-	-	-	-	-	-	169.0	24	49	6	27	77
	2 月	-	-	-	-	-	-	-	58.5	34	51	19	32	93
	3 月	-	-	-	-	-	-	-	93.0	5	24	0	16	105
	第 4 四半期	-	-	-	-	-	-	-	320.5	21	51	0	25	105

- ・ 測定値は「地上気象観測指針（平成14年気象庁）」に基づく1時間値。
- ・ 積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間（平成16～20年度）の同一時期の平均値及び最大値。
ただし、砂子又局については前年度までの4年間（平成17～20年度）の同一時期の平均値及び最大値。

大気安定度出現頻度表

単位：時間（括弧内は％）

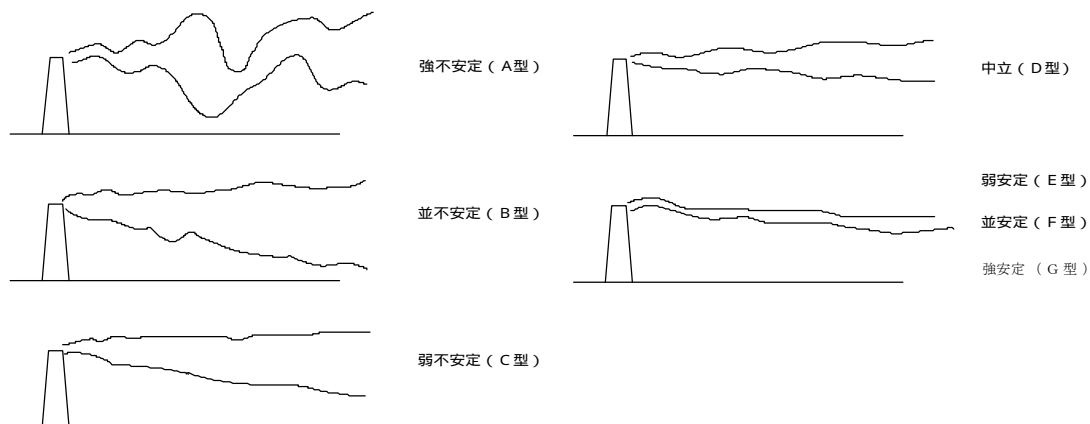
測定局	分類 測定月	A	A - B	B	B - C	C	C - D	D	E	F	G	計	備考
老 部	1月	0 (0.0)	13 (1.7)	37 (5.0)	7 (0.9)	27 (3.6)	6 (0.8)	501 (67.3)	41 (5.5)	29 (3.9)	83 (11.2)	744 (100)	
	2月	2 (0.3)	34 (5.1)	54 (8.0)	23 (3.4)	34 (5.1)	9 (1.3)	294 (43.8)	31 (4.6)	25 (3.7)	166 (24.7)	672 (100)	
	3月	7 (0.9)	42 (5.6)	68 (9.1)	16 (2.2)	53 (7.1)	15 (2.0)	328 (44.1)	39 (5.2)	48 (6.5)	128 (17.2)	744 (100)	
	第 4 四半期	9 (0.4)	89 (4.1)	159 (7.4)	46 (2.1)	114 (5.3)	30 (1.4)	1,123 (52.0)	111 (5.1)	102 (4.7)	377 (17.5)	2,160 (100)	
近 川	1月	0 (0.0)	7 (0.9)	26 (3.5)	8 (1.1)	34 (4.6)	6 (0.8)	546 (73.4)	22 (3.0)	21 (2.8)	74 (9.9)	744 (100)	
	2月	4 (0.6)	42 (6.3)	65 (9.7)	17 (2.5)	31 (4.6)	4 (0.6)	304 (45.2)	21 (3.1)	18 (2.7)	166 (24.7)	672 (100)	
	3月	4 (0.5)	51 (6.9)	74 (9.9)	25 (3.4)	36 (4.8)	11 (1.5)	327 (44.0)	41 (5.5)	30 (4.0)	145 (19.5)	744 (100)	
	第 4 四半期	8 (0.4)	100 (4.6)	165 (7.6)	50 (2.3)	101 (4.7)	21 (1.0)	1,177 (54.5)	84 (3.9)	69 (3.2)	385 (17.8)	2,160 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（平成13年3月 原子力安全委員会）」に基づく1時間値を用いて分類。

大気安定度分類表

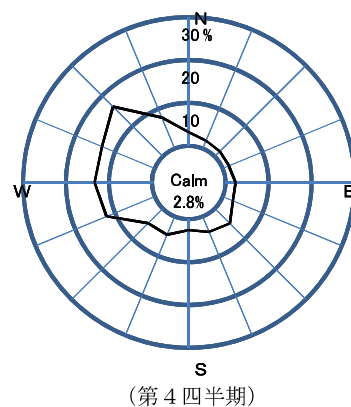
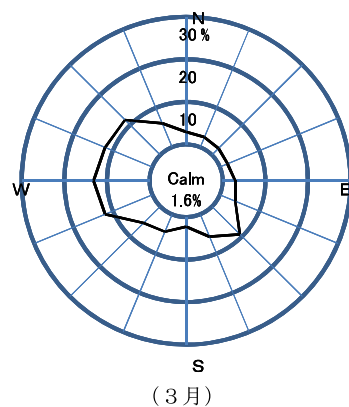
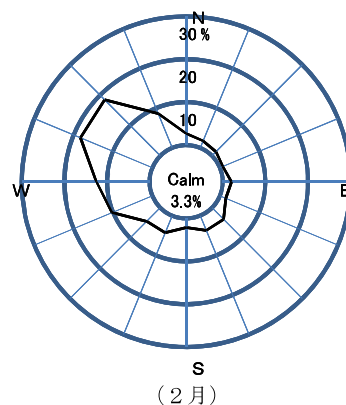
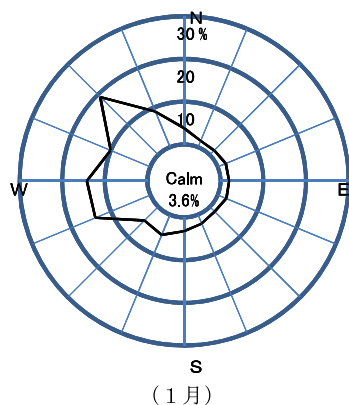
風速(U) m/s	日射量(T) kW/m ²				放射収支量(Q) kW/m ²		
	T 0.60	0.60 > T 0.30	0.30 > T 0.15	0.15 > T	Q -0.020	-0.020 > Q -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 U	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（平成13年3月 原子力安全委員会）

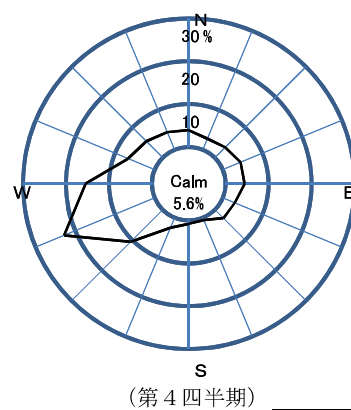
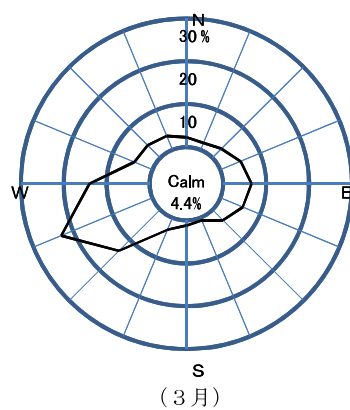
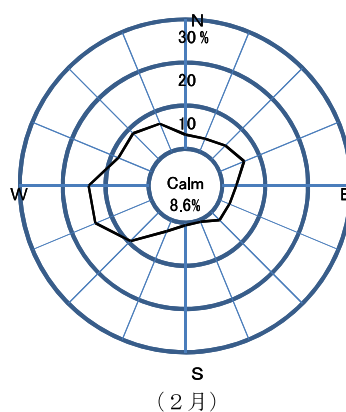
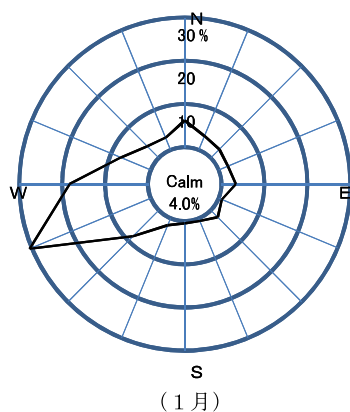


大気安定度と煙の型との模式図

③ 風配図
老 部



近 川



Calm: 風速0.4m/sec以下

2 . 事 業 者 実 施 分 測 定 結 果

(1) 空間放射線量率測定結果

モニタリングポストによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果

(単位: nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間 (単位: 時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間 (単位: 時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
小川町	1 月	16	68	12	5.4	36	0	36	7~27 (17±10)	12~79	12~56 (17)	
	2 月	15	35	12	3.2	6	0	6				
	3 月	16	36	13	3.0	16	0	16				
	第4四半期	16	68	12	4.0	58	0	58				
林ノ脇	1 月	19	41	15	3.7	9	0	9	10~32 (21±11)	11~86	11~59 (19)	
	2 月	18	39	15	2.6	4	0	4				
	3 月	21	44	16	3.1	12	0	12				
	第4四半期	19	44	15	3.4	25	0	25				

- ・測定値は1時間値。
 - ・測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
 - ・測定値は3MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
 - ・「平常の変動幅」は、「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
 - ・「過去の測定値」の範囲は、平成16~20年度の測定値の「最小値~最大値」。
 - ・「過去の同一四半期の測定値」の範囲は、「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。
- また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である東通原子力発電所に起因するもの。
 - ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
 - ・「施設起因」と「降雨等」が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位: nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
小川町	1 月	50	98	45	5.2	
	2 月	48	67	45	3.1	
	3 月	50	70	46	3.1	
	第4四半期	49	98	45	4.0	
林ノ脇	1 月	51	72	46	4.0	
	2 月	49	70	46	2.7	
	3 月	52	77	47	3.6	
	第4四半期	51	77	46	3.7	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定値は3MeVを超える高エネルギー成分を含む。

(2) 積算線量測定結果 (R P L D)

測 定 地 点		測 定 期 間 (日数)	3 箇 月 積算線量 (μ Gy/91日)	平常の変動幅 (μ Gy/91日)	備 考
東通村	白 糠	H21.12.25 ~ H22.3.25 (90)	85	78 ~ 93	
	上 田 代	"	81	85 ~ 100	
	上 田 屋	"	85	83 ~ 100	
	蒲 野 沢	"	84	87 ~ 97	
むつ市	小 川 町	"	82	83 ~ 87	
横浜町	林 ノ 脇	"	89	84 ~ 96	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3箇月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成16年4月～平成21年3月の3箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。

(3) 環境試料中の放射能測定結果

試 料 名	採 取 地 点	採取年月日	単 位	機 器					
				⁵⁴ M n	⁵⁹ F e	⁵⁸ C o	⁶⁰ C o	¹³⁴ C s	¹³⁷ C s
大気浮遊じん	周辺監視区域境界 付近 (西側)	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1	mBq/m ³	N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 3. 1 ~ H22. 4. 1		N D	N D	N D	N D	N D	N D
	周辺監視区域境界 付近 (南側)	H22. 1. 4 ~ H22. 2. 1		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 2. 1 ~ H22. 3. 1		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 3. 1 ~ H22. 4. 1		N D	N D	N D	N D	N D	N D
降 下 物	周辺監視区域境界 付近	H21.12.28 ~ H22. 1.29	Bq/m ²	N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 1.29 ~ H22. 3. 1		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 3. 1 ~ H22. 3.31		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H21. 3.31 ~ H22. 3.31		—	—	—	—	—	—
水 道 水	小 田 野 沢 近 川 泊	H22. 1. 6	mBq/ℓ トリチウム については Bq/ℓ	N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 1. 6		N D	N D	N D	N D	N D	N D
		H22. 1. 6		N D	N D	N D	N D	N D	N D
井 戸 水	白 糠	H22. 1. 6		N D	N D	N D	N D	N D	N D
牛乳 (原乳)	金 谷 沢	H22. 1. 6	Bq/ℓ	N D	N D	N D	N D	N D	N D
	鶏 沢	H22. 1. 6		N D	N D	N D	N D	N D	N D
海 水	放 水 口 付 近	H22. 1.12	mBq/ℓ トリチウム については Bq/ℓ	N D	N D	N D	N D	N D	N D
	放 水 口 沖	H22. 1.12		N D	N D	N D	N D	N D	N D
ホ タ テ	浜 奥 内 沖	H22. 1. 8	Bq/kg生	N D	N D	N D	N D	N D	N D

・ γ 線スペクトロメトリ、³H 及び ⁹⁰Sr の測定値は、試料採取日に補正した値。

分 析					放射化学分析		備 考
⁷ B e	⁴⁰ K	²¹⁴ B i	²²⁸ A c	¹³¹ I	³ H	⁹⁰ S r	
3.9	—	—	—	—	—	—	
4.8	—	—	—	—	—	—	
5.0	—	—	—	—	—	—	
4.1	—	—	—	—	—	—	
5.0	—	—	—	—	—	—	
5.3	—	—	—	—	—	—	
470	4	—	—	—	—	—	
220	N D	—	—	—	—	—	
260	N D	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	0.16	採取期間は 1 年間
N D	N D	—	—	—	N D	—	
N D	N D	—	—	—	N D	—	
N D	N D	—	—	—	N D	—	
N D	N D	—	—	—	N D	—	
N D	51	—	—	N D	—	N D	
N D	52	—	—	N D	—	N D	
N D	—	—	—	—	N D	—	
N D	—	—	—	—	N D	—	
N D	90	—	—	—	—	N D	

(4) 気象観測結果

降水量・積雪深

測 定 局	測 定 月	降 水 量 (mm)	積 雪 深(cm)				
			平 均	最 大	最 小	過 去 の 値	
						平 均	最 大
小川町	1 月	177.5	46	77	28	20	57
	2 月	67.0	55	77	38	24	81
	3 月	103.5	22	63	0	12	76
	第 4 四 半 期	348.0	41	77	0	18	81
林ノ脇	1 月	131.0	30	60	6	33	89
	2 月	35.5	47	64	29	43	115
	3 月	63.0	11	47	0	23	123
	第 4 四 半 期	229.5	29	64	0	33	123

・積雪深における「過去の値」は、平成16～20年度の同一時期の平均値及び最大値。

3．東通原子力発電所の運転状況

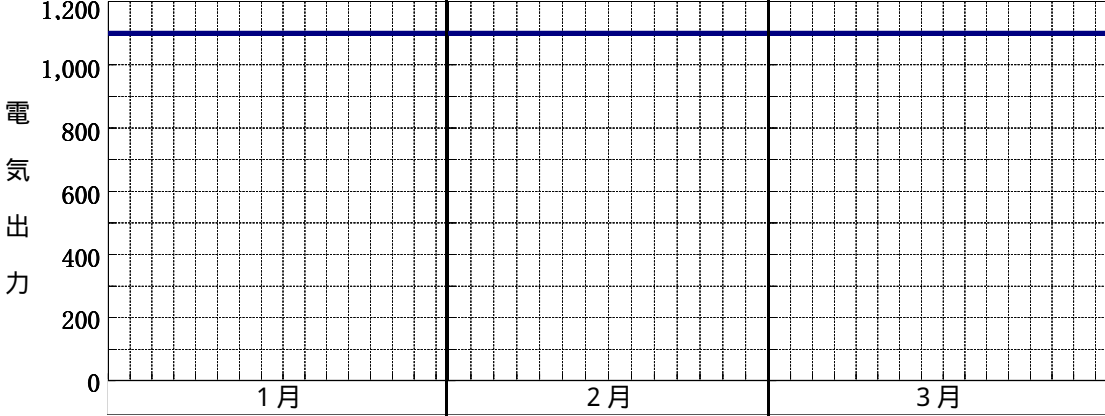
（ 事 業 者 報 告 ）

表中の記号

* ： 検出限界未満（放射能の分析）

/ ： 放出実績なし

(1) 発電所の運転保守状況 (平成 2 2 年 1 月 ~ 平成 2 2 年 3 月)

運 転 状 況	×10³kW 
主 な 保 守 状 況	なし
備 考	平成 2 2 年 1 月 7 日 第 3 回定期検査終了 平成 2 2 年 1 月 7 日 ~ 定格電気出力にて運転

(2) 放射性物質の放出状況 (平成 2 2 年 1 月 ~ 平成 2 2 年 3 月)

放射性気体廃棄物の放射性物質の放出量

核 種 (測定箇所)	放 出 量					年間放出 管理目標値
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年 度	
希 ガ ス (排気筒)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	1.2×10^{15} (Bq)
I - 1 3 1 (排気筒)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	2.0×10^{10} (Bq)
H - 3 (排気筒)	6.5×10^{10} (Bq)	8.6×10^{10} (Bq)	7.9×10^{10} (Bq)	8.8×10^{10} (Bq)	3.2×10^{11} (Bq)	
備 考	放射性物質の放出量(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm ³)に排気量(cm ³)を乗じて求めている。 検出限界濃度は次に示すとおりである。 希ガス : 2×10^{-2} (Bq/cm ³)以下 I - 1 3 1 : 7×10^{-9} (Bq/cm ³)以下 H - 3 : 4×10^{-5} (Bq/cm ³)以下					

放射性液体廃棄物の放射性物質の放出量

核 種 (測定箇所)	放 出 量					年間放出 管理目標値
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年 度	
H - 3 を除く 全放射能 (サンプリング)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	3.7×10^9 (Bq)
H - 3 (サンプリング)	* (Bq)	6.1×10^{10} (Bq)	1.6×10^{11} (Bq)	* (Bq)	2.3×10^{11} (Bq)	
備 考	放射性物質の放出量(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm ³)に排水量(cm ³)を乗じて求めている。 検出限界濃度は次に示すとおりである。 H - 3 を除く全放射能 : 2×10^{-2} (Bq/cm ³)以下 (C o - 6 0 で代表した) H - 3 : 2×10^{-1} (Bq/cm ³)以下					

参 考 資 料

1 . モニタリングポスト測定結果

空間放射線量率

2 . 排気筒モニタ測定結果

全ガンマ線計数率（希ガス）

3 . 放水口モニタ測定結果

全ガンマ線計数率

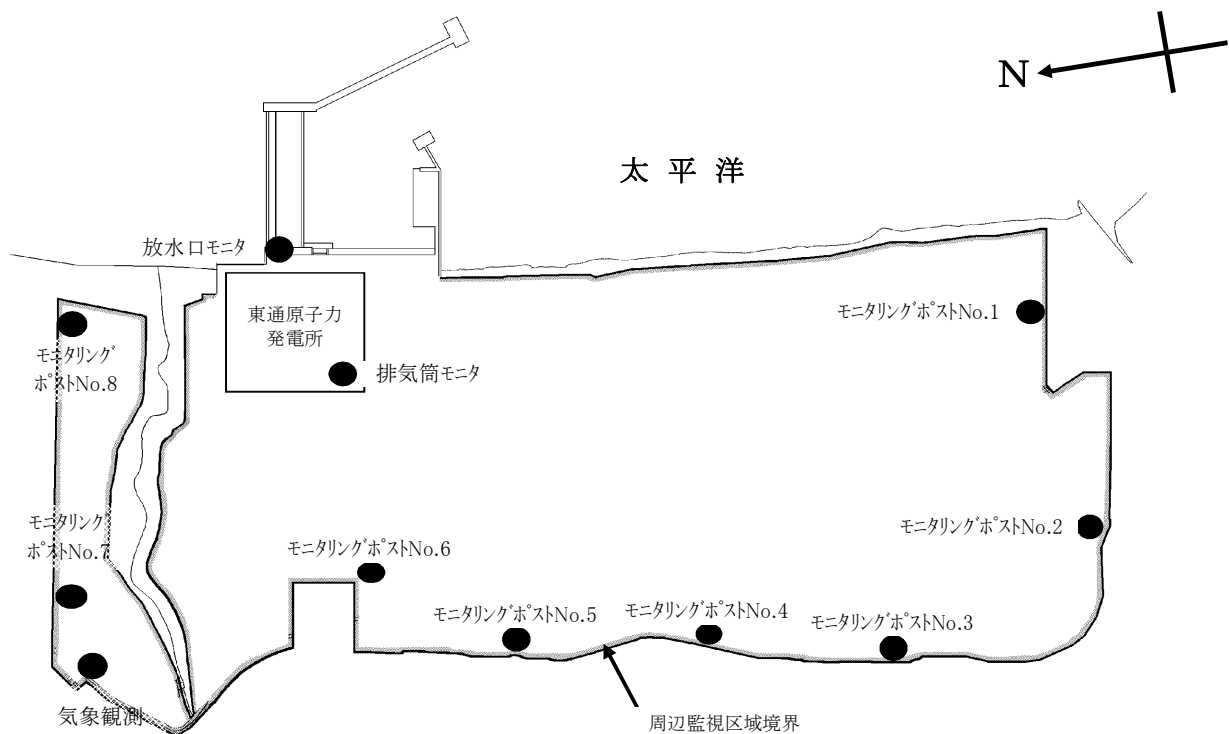
4 . 気象観測結果

風速

降水量

大気安定度

風配図



1. モニタリングポスト測定結果 (平成22年 1月～平成22年 3月)

空間放射線量率

(単位: nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去 最大値	備考
No. 1	1 月	18	39	13	86	
	2 月	16	34	13		
	3 月	17	43	14		
	第4四半期	17	43	13		
No. 2	1 月	17	41	13	81	
	2 月	15	32	12		
	3 月	17	48	13		
	第4四半期	16	48	12		
No. 3	1 月	18	40	13	84	
	2 月	16	34	13		
	3 月	17	56	14		
	第4四半期	17	56	13		
No. 4	1 月	18	37	13	89	
	2 月	16	33	13		
	3 月	18	51	15		
	第4四半期	17	51	13		
No. 5	1 月	18	37	13	92	
	2 月	16	36	12		
	3 月	18	54	14		
	第4四半期	17	54	12		
No. 6	1 月	14	34	10	81	
	2 月	13	33	9		
	3 月	14	44	11		
	第4四半期	13	44	9		
No. 7	1 月	17	34	13	76	
	2 月	15	35	12		
	3 月	17	42	13		
	第4四半期	16	42	12		
No. 8	1 月	13	32	9	70	
	2 月	12	33	9		
	3 月	12	36	9		
	第4四半期	12	36	9		

・2"φ×2" NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型恒温装置付) DBM方式

・測定値は1時間値。

・局舎屋根(地上約 4 m)設置

・測定値は、3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

・「過去最大値」は、平成16～20年度の測定値の最大値。

2．排気筒モニタ測定結果（平成22年 1月～平成22年 3月）

全ガンマ線計数率（希ガス）

（単位： s^{-1} ）

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去 最大値	備考
排気筒モニタ	1 月	3.8	4.3	3.4	4.4	
	2 月	3.8	4.2	3.4		
	3 月	3.8	4.3	3.4		
	第4四半期	3.8	4.3	3.4		

・2"φ×2" NaI(Tl)シンチレーション検出器

・測定値は10分値。

・「過去最大値」は、平成16～20年度の測定値の最大値。

3．放水口モニタ測定結果（平成22年 1月～平成22年 3月）

全ガンマ線計数率

（単位： min^{-1} ）

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去 最大値	備考
放水口モニタ	1 月	190	230	170	290	
	2 月	190	230	170		
	3 月	190	260	170		
	第4四半期	190	260	170		

・2"φ×2" NaI(Tl)シンチレーション検出器（温度補償型）

・測定値は10分値。

・「過去最大値」は、平成16～20年度の測定値の最大値。

4. 気象観測結果 (平成22年 1月～平成22年 3月)

風速

測定高さ	測定月	風速 (m/sec)		備考
		平均	最大	
地上10m	1 月	2.5	9.6	
	2 月	1.8	6.5	
	3 月	2.2	9.5	
	第4四半期	2.2	9.6	
地上100m	1 月	6.7	19.8	
	2 月	4.9	18.2	
	3 月	6.3	17.9	
	第4四半期	6.0	19.8	

・「地上気象観測指針(平成14年 気象庁)」に基づく1時間値。

・地上 10 m : 風向風速計[プロペラ型](気象庁検定付)

・地上100 m : ドップラーソーダ

降水量

測定地点	測定月	降水量 (mm)	備考
露 場	1 月	150.5	
	2 月	42.5	
	3 月	103.5	
	第4四半期	296.5	

・「地上気象観測指針(平成14年 気象庁)」に基づく1時間値を用いて算出。

・雨雪量計[転倒升方式](気象庁検定付)

大気安定度

(単位: 時間〔括弧内は%〕)

測定地点	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
露 場	1 月	0 (0.0)	11 (1.5)	28 (3.8)	5 (0.7)	35 (4.7)	5 (0.7)	501 (67.3)	25 (3.4)	36 (4.8)	98 (13.2)	744 (100)	
	2 月	1 (0.1)	42 (6.3)	61 (9.1)	12 (1.8)	30 (4.5)	9 (1.3)	281 (41.8)	35 (5.2)	36 (5.4)	165 (24.6)	672 (100)	
	3 月	6 (0.8)	52 (7.1)	72 (9.9)	17 (2.3)	33 (4.5)	20 (2.7)	330 (45.2)	31 (4.2)	24 (3.3)	145 (19.9)	730 (100)	
	第4四半期	7 (0.3)	105 (4.9)	161 (7.5)	34 (1.6)	98 (4.6)	34 (1.6)	1112 (51.8)	91 (4.2)	96 (4.5)	408 (19.0)	2146 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類

・風向風速計[プロペラ型](気象庁検定付)、日射計[電気式](気象庁検定付)、放射収支計[風防型]

大気安定度分類表

風速(U) m/s	日射量(T) kW/m ²				放射収支量(Q) kW/m ²		
	T 0.60	0.60 > T 0.30	0.30 > T 0.15	0.15 > T	Q -0.020	-0.020 > Q -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (平成13年3月 原子力安全委員会)



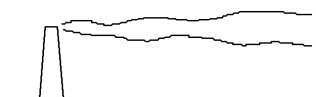
強不安定 (A型)



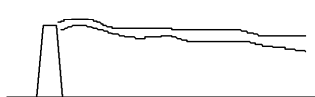
並不安定 (B型)



弱不安定 (C型)



中立 (D型)

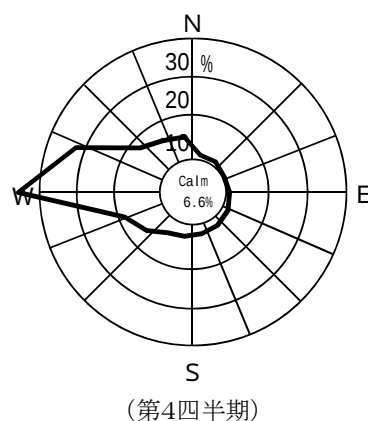
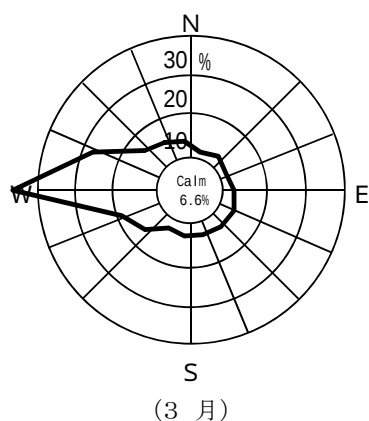
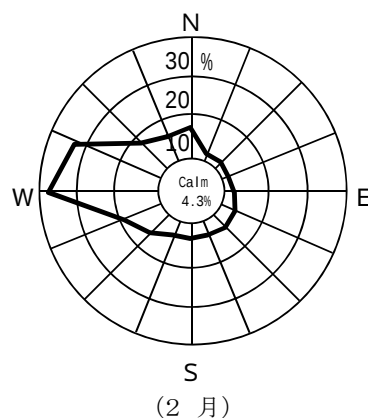
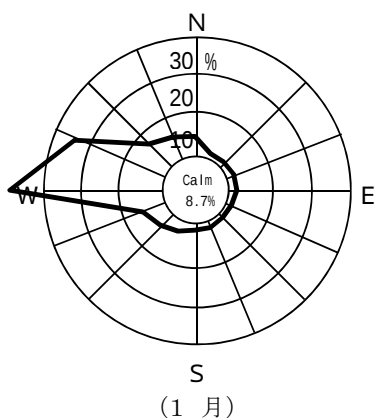


弱安定 (E型)
並安定 (F型)
強安定 (G型)

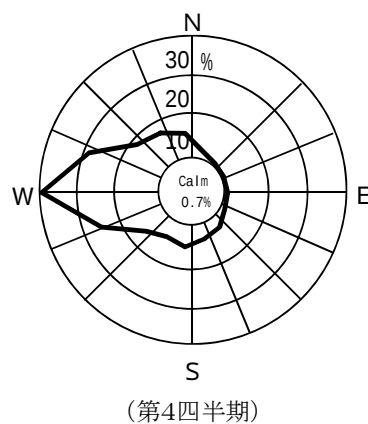
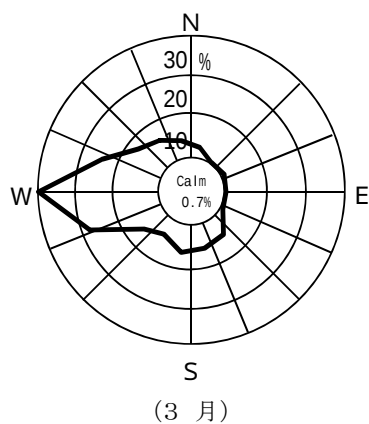
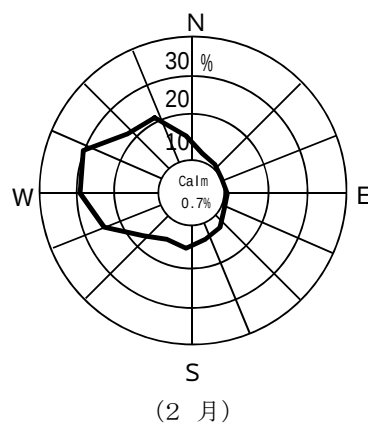
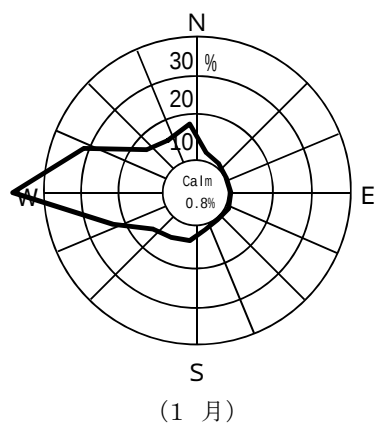
大気安定度と煙の型との模式図

風配図

・地上 10m



・地上100m



Calm: 風速0.4m/sec以下

4 . 東 通 原 子 力 発 電 所 に 係 る 環境放射線モニタリング実施要領

平成 1 5 年 2 月策定

平成 1 7 年 1 0 月改訂

平成 2 1 年 4 月改訂

青 森 県

東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施要領

平成 15 年 2 月策定
平成 17 年 10 月改訂
平成 21 年 4 月改訂

1. 趣 旨

「東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施計画」により環境放射線の測定方法、分析方法等について必要な事項を定めるものとする。

2. 測定装置及び測定方法

(1) 空間放射線等

項目	青		森		東 北 電 力 株 式 会 社	
	測定	装置	測定	方法	測定	方法
空間放射線量率	- 低線量率計 3" φ × 3" NaI(Tl)シンチレーション検出器 (温度補償方式加温装置付)、G(E)関数荷重演算方式 - 高線量率計 14 0、4 気圧球形窒素ガス加圧型電離箱検出器 (加温装置付)		測定法: 文部科学省編「連続モニタによる環境γ線測定法」(平成 8 年改訂)に準拠 連続測定 (1 時間値) 測定位置: 地上 1.8 m 校正線源: ^{137}Cs	測定装置: 同 左 • 低線量率計 • 高線量率計 14 0、8 気圧球形窒素ガス+アルゴンガス加圧型電離箱検出器 (加温装置付)	• 同 左	

項目	青		森		東 北 電 力 株 式 会 社	
	測定	装置	測定	方法	測定	方法
積算線量	蛍光ガラス線量計 (RPLD)		測定法: 文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」(平成 14 年)に準拠 素子数: 地点当たり 3 個 積算期間: 3 箇月 収納箱: 木製 測定位置: 地上 1.8 m 校正線源: ^{137}Cs	• 同 左		

項 目	森 青 県	
	測 定 装 置	測 定 方 法
大気浮遊じん中の 全 β 放 射 能	・ダストモニタ 検 出 器 50 mm ϕ ZnS(Ag)+プラスチッ クシンチレーション検出器 (全 α 、全 β 同時測定 ^{※1})	測 定 法:文部科学省編「全ベータ放射能測定法」 (昭和51年改訂)に準拠 連続測定 集じん時間:3時間 測 定 時 間:集じん終了直後10分間測定 集じん方法:ろ紙間けつ自動移動方式 ろ 紙:長尺ろ紙 (HE-40T) 大気吸引量:約200 l/分 吸引口位置:地上1.5~2.0 m 校 正 線 源: α 線用: ^{241}Am 、 β 線用: ^{36}Cl

※1:全 α 放射能については、解析評価のために測定。

項 目	森 青 県	
	測 定 装 置	測 定 方 法
大気中のヨウ素 ^{131}I	・ヨウ素モニタ 検 出 器 2" $\phi \times 2$ " NaI(Tl)シンチレー ション検出器	測 定 法:文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」 (平成8年改訂)に準拠 連続測定 捕 集 時 間:168時間 測 定 時 間:捕集終了後1時間測定 捕 集 方 法:捕集材間けつ自動移動方式 測定試料形態:活性炭吸着物 捕 集 材:活性炭カートリッジ 大気吸引量:約50 l/分 吸引口位置:地上1.5~2.0 m 校 正 線 源: ^{131}I 模擬線源 ($^{133}\text{Ba} + ^{137}\text{Cs}$)

(2) 環境試料中の放射能

項 目	青 森 県		東 北 電 力 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測 定 装 置	測 定 方 法
機 器 分 析 γ 線 放 出 核 種	・ゲルマニウム半導体検出器	測 定 法: 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(平成4年改訂)に準拠 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器等を用いる機器分析のための試料の前処理法」(昭和57年)に準拠 文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成8年改訂)に準拠 測定試料形態: 降 下 物 蒸発残留物 大気浮遊じん 1 箇月分のろ紙の集積 河川水、水道水、井戸水 } 蒸発残留物 表 土 乾燥細土 農 畜 産 物 灰化物 (¹³¹ I の測定では生試料又は乾燥試料) 指 標 生 物 灰化物 海 水 共沈法による沈殿物 海 底 土 乾燥細土 海 産 食 品 灰化物 (¹³¹ I の測定では生試料又は乾燥試料) 測定容器: U-8 容器、マリネリビーカー等 測定時間: 80,000 秒	・同 左	測定試料形態: 同 左 ・河川水は調査対象外 ・指標生物の松葉は ¹³¹ I の測定では生試料又は乾燥試料
	・低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置	測 定 法: 文部科学省編「トリチウム分析法」(平成14年改訂)に準拠 測定容器: 100 ml バイアル 測定時間: 500 分 (50 分、10 回測定)	・同 左	測定容器: 同 左 測定時間: 同 左
	・低バックグラウンド2πガスフロー計数装置	測 定 法: 文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」(平成15年改訂)に準拠 測定容器: 25 mm φ ステンレススチール皿 測定時間: 60 分	・同 左	・同 左
	・シリコン半導体検出器	測 定 法: 文部科学省編「プルトニウム分析法」(平成2年改訂)に準拠 測定用電着板: 25 mm φ ステンレススチール製 測定時間: 90,000 秒		
	放射化学分析 ²³⁹⁺²⁴⁰ Pu			

(3) 気 象

項 目	青 森 県		東北電力株式会社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測定装置	測定方法
風 向・風 速	・風向風速計[プロペラ型] (気象庁検定付)	測定法: 指針 に準拠 測定位置: 地上約 10 m		
気 温	・温度計[白金測温抵抗式] (気象庁検定付)	測定法: 指針 に準拠 測定位置: 地上約 2 m		
降 水 量	・雨雪量計[転倒升方式] (気象庁検定付)	測定法: 指針 に準拠 測定位置: 地上約 2 m	・同 左	測定法: 同 左 測定位置: 同 左
感 雨	・感 雨 雪 器[電極式]	測定法: 指針 に準拠 測定位置: 地上約 2 m	・同 左	測定法: 同 左 測定位置: 同 左
積 雪 深	・積雪計[超音波式] (気象庁検定付)	測定法: 指針 に準拠 測定位置: 地上約 3 m	・同 左	測定法: 同 左 測定位置: 同 左
日 射 量	・日射計[熱電対式] (気象庁検定付)	測定法: 指針 に準拠 測定位置: 地上約 5、9 m		
放 射 収 支 量	・放射収支計[熱電対式]	測定法: 指針 に準拠 測定位置: 地上約 2 m		
湿 度	・湿度計[毛髪式] (気象庁検定付)	測定法: 指針 に準拠 測定位置: 地上約 2 m		
大 気 安 定 度	-	測定法: 指針 に準拠		

: 「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」(平成 13 年改訂 原子力安全委員会)

(4) モニタリングカーによる測定

項 目	青 森 県	
	測 定 装 置	測 定 方 法
空間放射線量率	2 " φ × 2 " NaI(Tl)シンチレーション 検出器 (温度補償方式加温装置付) G(E)関数荷重演算方式	測 定 法: 定 点 測 定 10 分間測定 走 行 測 定 10 秒間の測定値を 500 m ごと に平均 走行速度 30 ~ 60 km/h 測定位置: 地上 3.2 m (車両上)

3 . 環境試料中の放射能測定対象核種

^{54}Mn 、 ^{59}Fe 、 ^{58}Co 、 ^{60}Co 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^7Be 、 ^{40}K 、 ^{214}Bi 、 ^{228}Ac 、 ^3H 、 ^{90}Sr 、 ^{131}I 、 $^{239+240}\text{Pu}$

なお、 ^{214}Bi 、 ^{228}Ac については、土試料のみとする。

4．数値の取扱方法

(1) 空間放射線量率

単 位	表 示 方 法
nGy/h	整数で示す。

(2) 積算線量

単 位	表 示 方 法
$\mu\text{Gy}/91\text{ 日}$ $\mu\text{Gy}/365\text{ 日}$	3 箇月積算線量は、測定期間の測定値を 91 日当たりに換算し、整数で示す。 年間積算線量は、各期間の測定値を合計した後、365 日当たりに換算し、整数で示す。

(3) 大気浮遊じん中の全 β 放射能

単 位	表 示 方 法
Bq/m ³	有効数字 2 桁で示す。 測定値がその計数誤差の 3 倍以下の場合検出限界以下とし「*」と表示する。 平均値の算出においては、測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「*」と表示する。

(4) 大気中のヨウ素

単 位	表 示 方 法
mBq/m ³	有効数字 2 桁で示す。最小位は 1 位。 定量下限値は「20 mBq/m ³ 」とし、定量下限値未満は「ND」と表示する。 平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と表示する。

(5) 環境試料中の放射性核種

試 料		単 位	表 示 方 法
大 気 浮 遊 じ ん		mBq/m ³	有効数字 2 桁で示す。最小位は定量 下限値の最小の位。 定量下限値は別表 1 に示す。 定量下限値未満は「ND」と表示する。 計数誤差は記載しない。
降 下 物		Bq/m ²	
河 川 水、水 道 水	ト リ チ ウ ム	Bq/ℓ	
井 戸 水、海 水	そ の 他	mBq/ℓ	
表 土、海 底 土		Bq/kg 乾	
農畜産物、海産食品、 指標生物	牛 乳	Bq/ℓ	
	そ の 他	Bq/kg 生	

別表1 環境試料中の放射性核種の定量下限値

試料	単位	γ線放出核種										³ H	⁹⁰ Sr	¹³¹ I	²³⁹⁺²⁴⁰ Pu	備考
		⁵⁴ Mn	⁵⁹ Fe	⁵⁸ Co	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be	⁴⁰ K	²¹⁴ Bi	²²⁸ Ac					
大気浮遊じん	mBq/m ³	0.02	0.04	0.02	0.02	0.02	0.02	0.2	-	-	-	-	-	-	-	
降下物	Bq/m ²	0.2	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2	2	4	-	-	-	0.08	-	0.004	
河川水、水道水、井戸水	mBq/ℓ	6	12	6	6	6	6	100	100	-	-	2	-	-	-	
海水	(³ HはBq/ℓ)	6	12	6	6	6	6	100	-	-	-	2	-	-	-	
表土、海底土	Bq/kg 乾	3	6	3	3	3	3	30	40	8	15	-	-	-	0.04	
農畜産物、海産食品、指標生物	Bq/kg 生 (牛乳はBq/ℓ)	0.4	0.8	0.4	0.4	0.4	0.4	6	6	-	-	-	0.04	0.4	0.002	

5 . 試料の採取方法等

試 料	採 取 方 法 等
大 気 浮 遊 じ ん	ろ紙（HE-40T）に捕集する。
大 気 中 の ヨ ウ 素	活性炭カートリッジに捕集する。
降 下 物	大型水盤で採取する。
河 川 水	表面水を採取する。
水 道 水 、 井 戸 水	給水栓等から採取する。
表 土	表層（0～5 cm）を採土器により採取する。
精 米	モミ又は玄米を精米して試料とする。
キ ャ ベ ツ 、 ハ ク サ イ	葉部を試料とする。
ア ブ ラ ナ	葉部及び蕾部を試料とする。
バ レ イ シ ョ 、 ダ イ コ ン	外皮を除き、バレイショは塊茎部を、ダイコンは根部を試料とする。
牛 乳	原乳を採取する。
牛 肉	もも肉を試料とする。
牧 草	地上約 10 cm の位置で刈り取る。
松 葉	二年生葉を採取する。
海 水	表面海水を採取する。
海 底 土	表面底質を採泥器により採取する。
ヒ ラ メ 、 カ レ イ ア イ ナ メ 、 ウ ス メ バ ル	頭、骨、内臓を除き、可食部を試料とする。
コ ウ ナ ゴ	全体を試料とする。
ア ワ ビ	貝殻、内臓を除き、軟体部を試料とする。
ホ タ テ 、 ム ラ サ キ イ ガ イ	貝殻を除き、軟体部を試料とする。
コ ン ブ 、 チ ガ イ ソ	根を除く全体を試料とする。
ウ ニ	殻を除き、可食部を試料とする。
タ コ	目、内臓を除き、可食部を試料とする。

5 . 空 間 放 射 線 の 測 定 地 点 図 及 び 環 境 試 料 の 採 取 地 点 図

図1 空間放射線の測定地点図

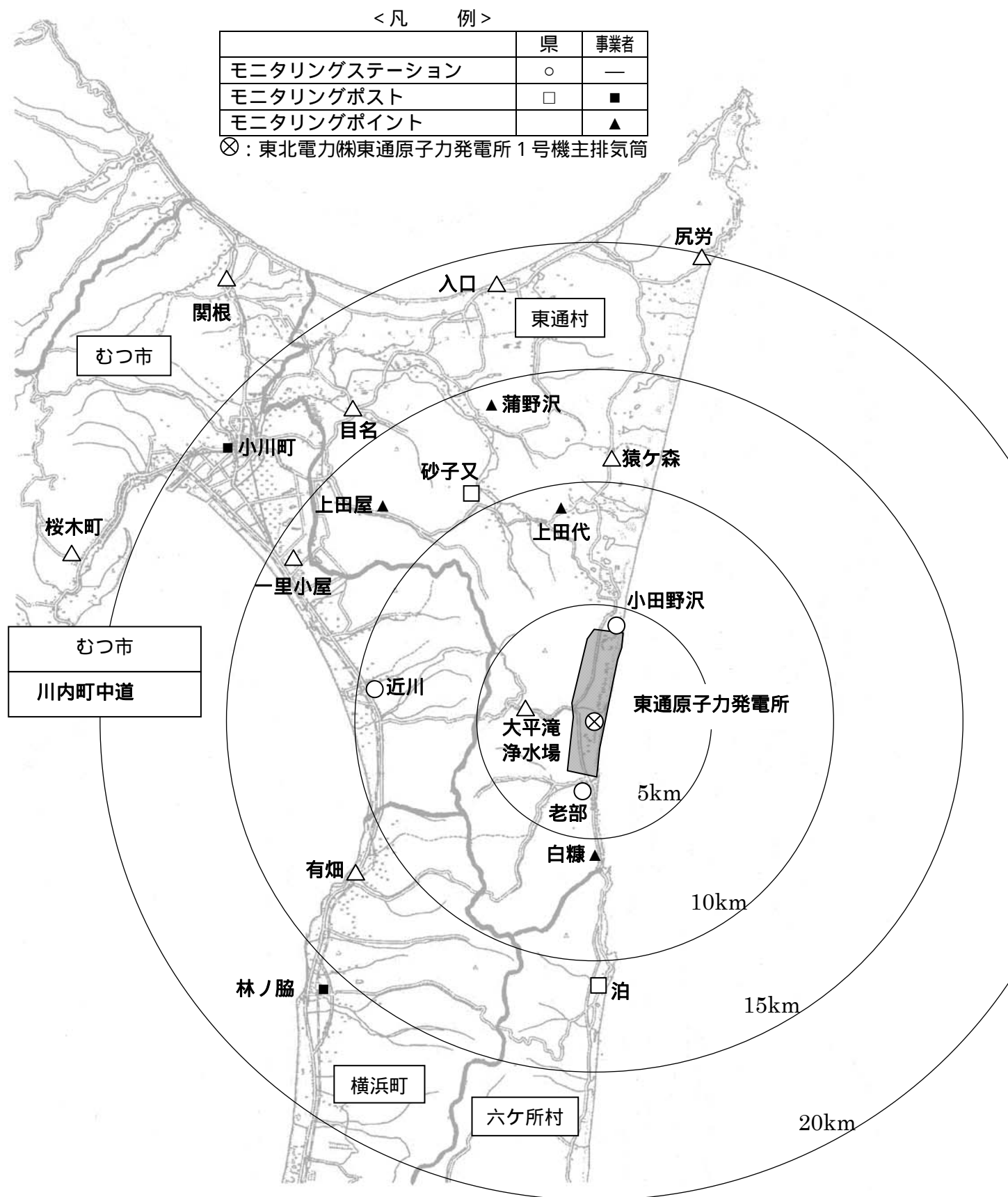


図 2 - 1 環境試料の採取地点図

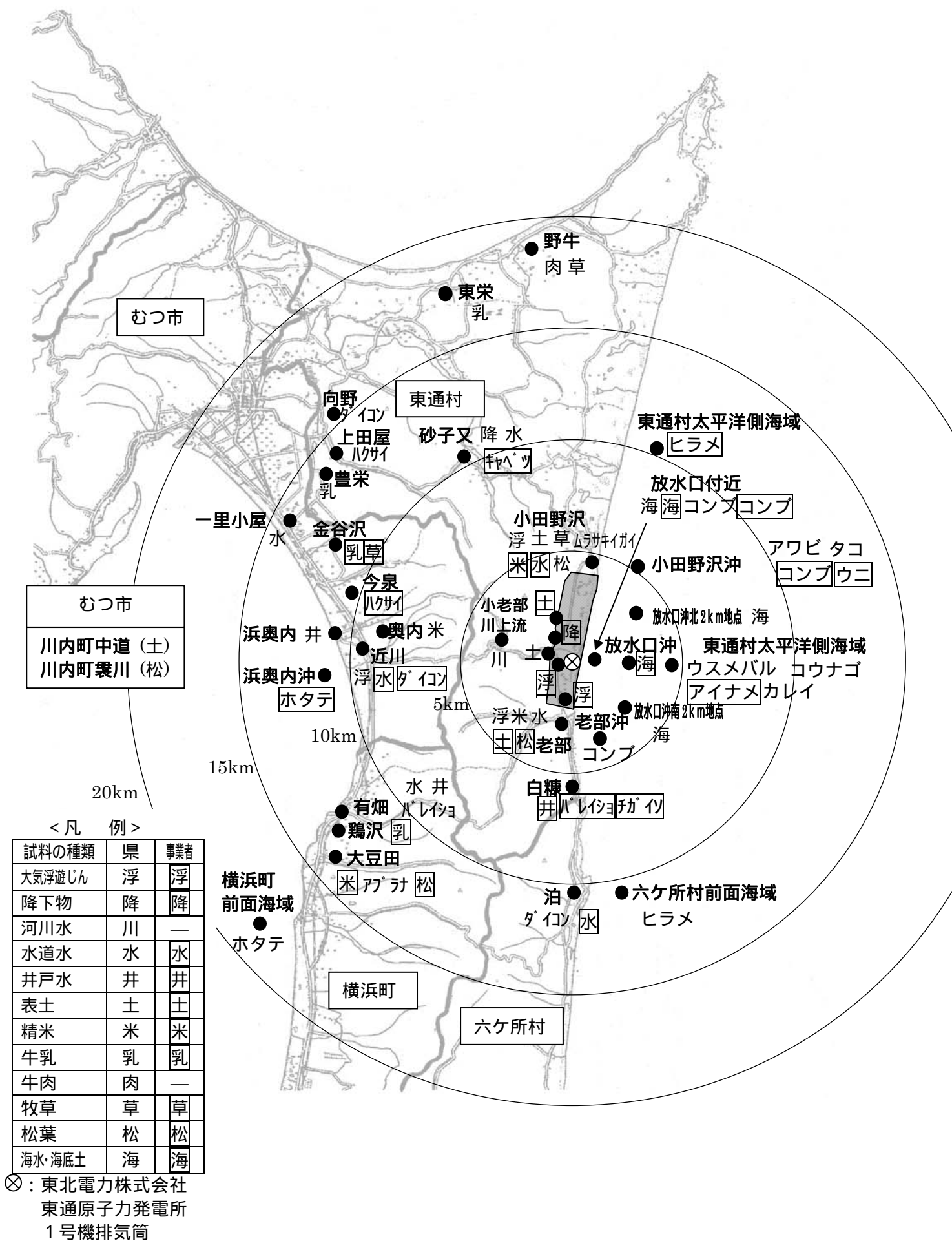
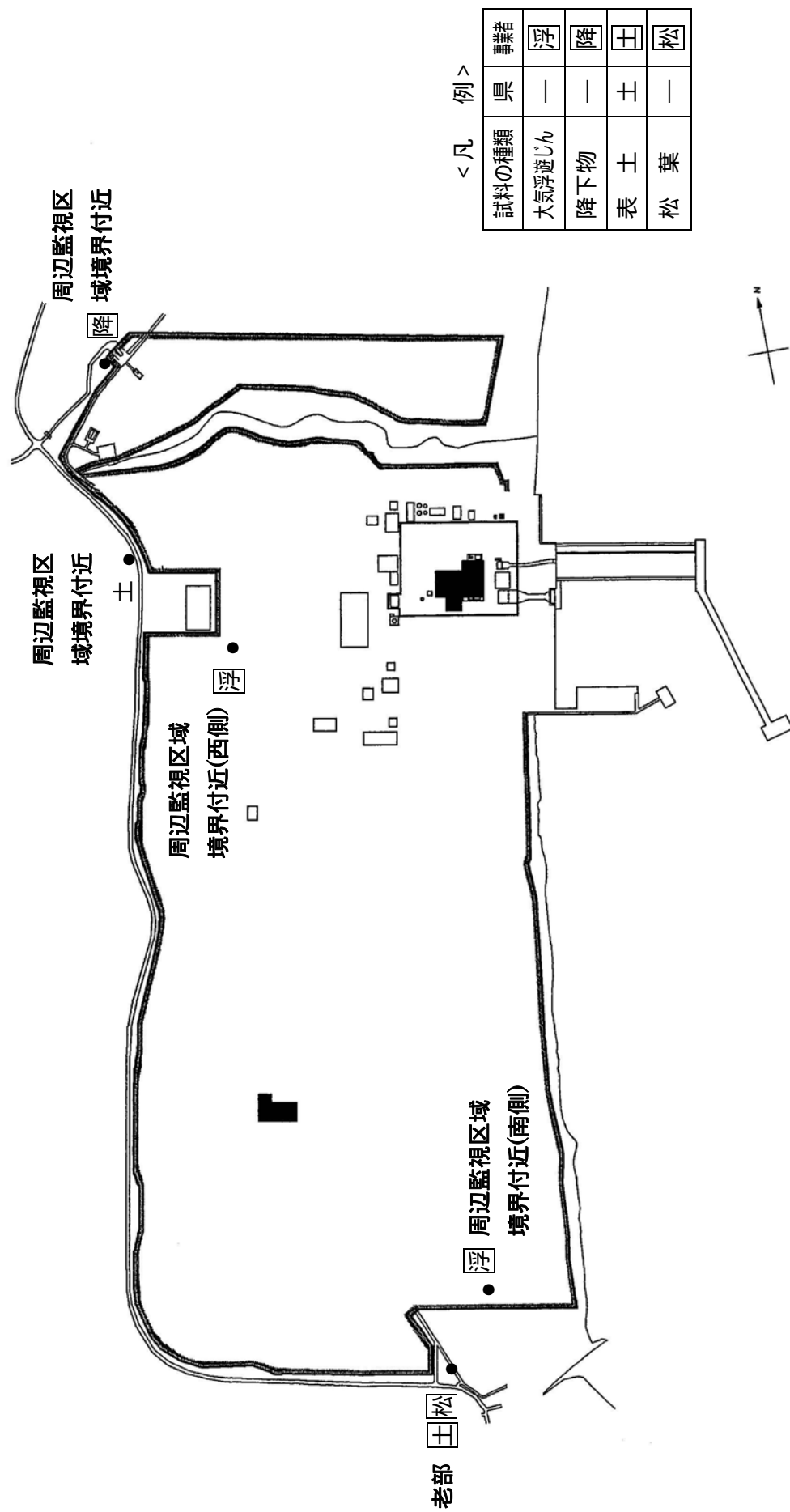


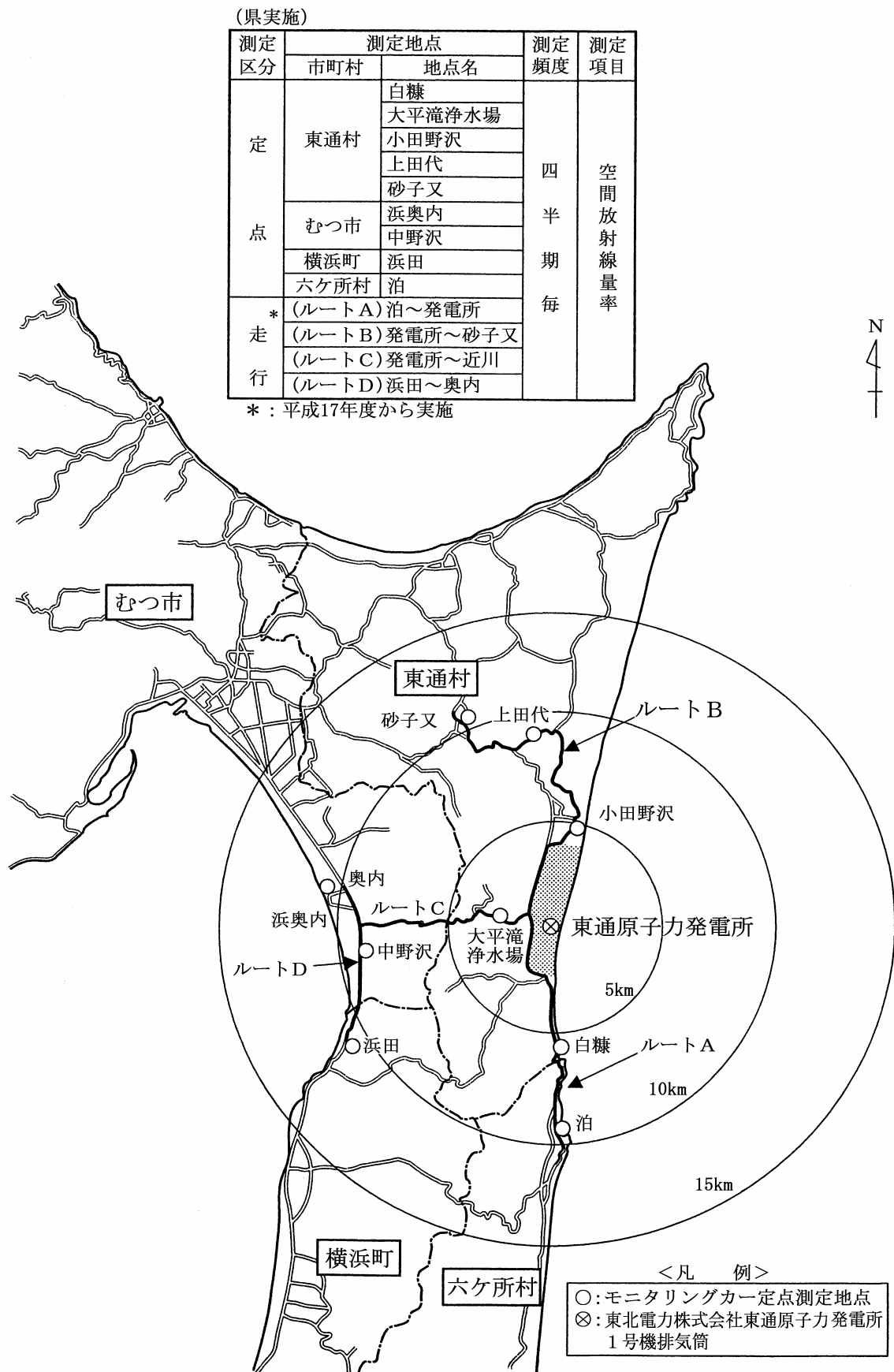
図 2 - 2 環境試料の採取地点図（発電所周辺）



< 凡 例 >

試料の種類	県	事業者
大気浮遊じん	—	浮
降下物	—	降
表土	土	土
松葉	—	松

図3 モニタリングカーの定点測定地点及び走行測定ルート



6. 東 通 原 子 力 発 電 所 に 係 る 環境放射線モニタリング結果の評価方法

東 通 原 子 力 発 電 所 に 係 る 環 境 放 射 線 モ ニ タ リ ン グ 結 果 の 評 価 方 法

東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング結果の評価については、「東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング基本計画」の考え方に基づくほか、「環境放射線モニタリングに関する指針（平成元年3月策定、平成13年3月改訂 原子力安全委員会）」等に準拠して、以下のとおり適正な評価を行うものとする。

1. 測定値の取り扱い

(1) 測定値の変動と平常の変動幅

空間放射線及び環境試料中の放射能の測定結果は、

- ① 試料採取方法・処理方法、測定器の性能、測定方法等の測定条件の変化
- ② 降雨、降雪、逆転層の出現等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化
- ③ 核爆発実験等の影響
- ④ 原子力施設の運転状況の変化

などにより、変動を示すのが普通である。これらの要因のうち③は別として、測定条件がよく管理されており、かつ原子力施設が平常運転を続けている限り、測定値はある幅の中に納まる確率が高く、これを「平常の変動幅」と呼ぶことにする。

(2) 平常の変動幅の決定

空間放射線（空間放射線量率、積算線量）、環境試料中の放射能濃度についてそれぞれ平常の変動幅を次のように定める。

① 空間放射線量率

連続モニタの測定値については、過去の測定値の〔平均値±(標準偏差の3倍)〕を平常の変動幅とする。

② 積算線量

蛍光ガラス線量計（RPLD）測定値の91日換算値については、過去の測定値の最小値～最大値を平常の変動幅とする。

③ 環境試料中の放射能濃度

環境試料中の放射能濃度については、過去の測定値の最小値～最大値を平常の変動幅とする。

④ 平常の変動幅の期間

調査を開始した年度から調査年度の前年度までとする。ただし、空間放射線については5年を限度とし、調査年度に近い時期を用いる。

2. 測定結果の評価

(1) 空間放射線の測定結果の評価

空間放射線の測定結果については、測定値が平常の変動幅の範囲内にあるかどうかを確認する。測定値が平常の変動幅を外れた場合は以下の項目について調査を行い、原因を明らかにするとともに、東通原子力発電所からの寄与の有無の判断及びその環境への影響の評価に資する。

- ① 計測系及び伝送処理系の健全性
- ② 降雨等による自然放射線の増加による影響
- ③ 地形、地質等の周辺環境状況の変化
- ④ 核爆発実験等の影響

また、測定値が平常の変動幅を下回る場合は、積雪の影響のほか、機器の故障が考えられるので点検する。

(2) 環境試料中の放射能濃度の測定結果の評価

環境試料中の放射能濃度の測定結果についても、空間放射線と同様に、測定値が平常の変動幅の範囲内にあるかどうかを確認する。測定値が平常の変動幅を外れた場合には、まず試料採取、処理、分析、測定について変更がなかったか、あるいはそれらが正しく行われたかどうか、また核爆発実験等による影響でないかどうか等についてチェックを行い、その原因を調査するとともに、東通原子力発電所からの寄与の有無の判断及びその環境への影響の評価に資する。

(3) 核爆発実験等の影響の評価

空間放射線又は、環境試料中の放射能濃度の測定結果が平常の変動幅を上回った場合、放射性降下物による影響が考えられるので、それが原因であるかどうか調査する。

(4) 蓄積状況の把握

長期にわたる蓄積状況の把握は、主として土壌及び海底土の核種分析結果から、有意な差が見られるかどうか判定するものとする。

(5) 測定結果に基づく線量の推定・評価

測定結果に基づく線量の推定・評価は、1年間の外部被ばくによる実効線量と内部被ばくによる預託実効線量とに分けて別々に算定し、その結果を総合することで行う。

測定結果に基づく線量の推定・評価は原則として年度ごとに行う。

① 外部被ばくによる実効線量

外部被ばくによる実効線量は、原則として RPLD 測定値から算定するものとし、地点毎に四半期の線量を合計して年間線量を求め、これに 0.8 を乗じて算出する。

② 内部被ばくによる預託実効線量

内部被ばくによる預託実効線量は、原則として表 1 の食品等及び核種を対象として算出する。それぞれの食品等に該当する環境試料の年平均核種濃度を求め、これらの核種濃度の食品等を毎日摂取するものと仮定して算出し、これらを積算する。

計算式は「環境放射線モニタリングに関する指針（平成 13 年 3 月 原子力安全委員会）」に準拠し、線量係数については表 2 及び表 3 の値を用いる。

表1 食品等の1日の摂取量（成人）

食品等の種類	1日の摂取量	該当する環境試料	対 象 核 種
米	320 g	精 米	γ 線放出核種 $\left[\begin{array}{c} {}^{54}\text{Mn}, {}^{59}\text{Fe}, {}^{58}\text{Co}, \\ {}^{60}\text{Co}, {}^{134}\text{Cs}, {}^{137}\text{Cs} \end{array} \right]$ ${}^3\text{H}, {}^{90}\text{Sr}, {}^{131}\text{I}$
葉 菜	370 g	ハクサイ、キャベツ、アブラナ	
根 菜 ・ い も 類	230 g	バレイショ、ダイコン	
海 水 魚	200 g	ヒラメ、カレイ、ウスメバル、コウナゴ、アイナメ	
無 脊 椎 動 物 (海 水 産)	80 g	アワビ、ホタテ、タコ、ウニ	
海 藻 類	40 g	コンブ	
牛 乳	0.25 ℓ	牛 乳（原乳）	
牛 肉	20 g	牛 肉	
飲 料 水	2.65 ℓ	水道水、井戸水	
空 気	22.2 m ³	大気浮遊じん、大気	

・「線量評価における食品等の摂取量について」（平成17年度第4回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会（平成18年1月24日開催）提出資料）による。

表2 1 Bq を経口又は吸入摂取した場合の成人の実効線量係数（単位：mSv/Bq）

核 種	経 口 摂 取	吸 入 摂 取	備 考
${}^{54}\text{Mn}$	7.1×10^{-7}	1.5×10^{-6}	
${}^{59}\text{Fe}$	1.8×10^{-6}	4.0×10^{-6}	
${}^{58}\text{Co}$	7.4×10^{-7}	2.1×10^{-6}	
${}^{60}\text{Co}$	3.4×10^{-6}	3.1×10^{-5}	
${}^{134}\text{Cs}$	1.9×10^{-5}	9.1×10^{-6}	
${}^{137}\text{Cs}$	1.3×10^{-5}	9.7×10^{-6}	
${}^3\text{H}$	1.8×10^{-8}		
${}^{90}\text{Sr}$	2.8×10^{-5}		
${}^{131}\text{I}$	1.6×10^{-5}	1.5×10^{-5}	

- ・ ${}^{134}\text{Cs}$ 及び ${}^{137}\text{Cs}$ の吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されているもののうち、タイプ M の値を用いた。
- ・ ${}^3\text{H}$ の経口摂取については、ICRP Publication 72 に示されているもののうち、水に対応する値を用いた。
- ・ 上記以外の値は「環境放射線モニタリングに関する指針（平成13年3月 原子力安全委員会）」による。
- ・ ただし、分析方法等から化学形等が明らかな場合には、原則として ICRP Publication 72 などから当該化学形等に相当する実効線量係数を使用する。

表 3 1 Bq を経口又は吸入摂取した場合の成人の甲状腺の等価線量に係る線量係数 (単位: mSv/Bq)

核 種	経 口 摂 取	吸 入 摂 取	備 考
^{131}I	3.2×10^{-4}	2.9×10^{-4}	

・「環境放射線モニタリングに関する指針 (平成 13 年 3 月 原子力安全委員会)」による。

(6) 放出源情報に基づく線量の推定・評価

放出源情報に基づく評価は、「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針 (昭和 50 年 5 月決定 原子力委員会、平成 13 年 3 月改訂 原子力安全委員会)」に定める線量目標値 (実効線量年間 50 マイクロシーベルト) と比較して行う。

実効線量の計算は施設からの年間放出実績をもとに「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和 51 年 9 月決定 原子力委員会、平成 13 年 3 月改訂 原子力安全委員会)」に準拠して行う。

(7) 総合評価

以上の測定結果及び線量評価結果を、青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議において、総合的に評価し、モニタリングの基本目標である、東通原子力発電所周辺住民等の健康と安全を守るため、環境における同発電所に起因する放射性物質又は放射線による周辺住民等の線量が、年線量限度を十分下回っていることを確認する。

3. そ の 他

本評価方法については、今後、必要に応じ適宜検討を加える。

[解 説]

1. [平均値±(標準偏差の 3 倍)]

連続モニタから、よく管理された条件のもとで測定値が得られる場合には、個々の数値の 99.73% がこの範囲に収まることを意味する。

2. 有意な差

測定値に変動が見られた場合、その変動が単なる統計上のばらつきではなく、実際に測定対象が変動していると考えられること。

3. 実効線量

人体の各組織は放射線に対する感受性がそれぞれ異なる。その違いを考慮して定められた係数 (組織荷重係数) を各組織が受けた線量にかけて加え合わせたものが実効線量であり、防護の目的で放射線のリスクを評価する尺度である。

4. 預託実効線量

人体内に取り込まれた放射性核種がある期間体内に残留することを考慮し、成人については摂取後 50 年間、子供では摂取した年齢から 70 歳までに受ける実効線量を積算したものが預託実効線量である。

平常の変動幅について

[東通原子力発電所]

東通原子力発電所の環境放射線調査に係る「平常の変動幅」の決定については、「東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング結果の評価方法（平成 15 年 2 月青森県）」（以下、『評価方法』という。）に定めている。一方、空間放射線測定地点や環境試料の中には、平成元年度に開始した原子燃料サイクル施設に係る調査と重複させているものがあること、また、環境試料の種類が原子燃料サイクル施設の場合と一部異なること、以上を踏まえ、「平常の変動幅」の設定に用いるデータの累積の期間（以下、「平常の変動幅の期間」という。）の取扱い及び環境試料の種類の区分について、以下のとおりとする。

1. 平常の変動幅の期間

(1) 空間放射線

空間放射線量率及び積算線量については、

- ・ 空間放射線量率の測定では 1 年間に得られるデータ数が多いが、積算線量の測定では、1 年間に得られるデータ数が 4 個であり、ある程度のデータ数を確保するために年数が必要であること。
- ・ 定点の継続測定においては、測定地点周辺の環境が変化すると、調査を実施している年度とそれ以前のデータのレベルに差が生じる可能性があることから、調査年度になるべく近い時期のデータを用いることが望ましいこと。

以上を考慮し、『評価方法』では平常の変動幅の期間について、「空間放射線については 5 年を限度とし、調査年度に近い時期を用いる。」としており、本規定により「平常の変動幅」を設定する。ただし、原子燃料サイクル施設に係る調査と重複させている地点については、同調査における過去の調査結果も加えて「平常の変動幅」を設定する。また、測定地点周辺における工事などにより、測定地点のバックグラウンドレベルに大きな変化があった場合は、それ以前のデータは参考値として扱い、1 年以上経過した時点で改めて「平常の変動幅」を設定する。

(2) 環境試料中の放射能

環境試料については、

- ・ 採取可能な時期が限られている試料があること。
- ・ 同じ試料であっても採取時の状況などの違い等によってデータのばらつきが大きいものがあること。
- ・ 定量下限値未満のデータが多いことから、長期間にわたってデータを積み重ねることにより、平常時におけるデータの変動範囲を把握していく必要があること。

以上を考慮し、『評価方法』では平常の変動幅の期間について、「調査を開始した年度から調査年度の前年度までとする。」としており、本規定により「平常の変動幅」を設定する。ただし、原子燃料サイクル施設に係る調査と重複させている環境試料については、同調査における過去の調査結果も加えて「平常の変動幅」を設定する。

2. 環境試料の種類区分

原子燃料サイクル施設の調査に係る「平常の変動幅について（平成 11 年 7 月 23 日）」の区分を準用して、別表のとおりとする。

別表 環境試料の種類区分

試料の種類		
陸上試料	大気浮遊じん	
	降下物	
	河川水	
	水道水	
	井戸水	
	表土	
	精米	
	野菜	バレイショ
		ダイコン
		ハクサイ、キャベツ
		アブラナ
	牛乳（原乳）	
	牛肉	
	牧草	
	指標生物	松葉
海洋試料	海水	
	海底土	
	海産食品	ヒラメ、カレイ ウスメバール コウナゴ、アイナメ
		ホタテ、アワビ
		コンブ
		タコ
		ウニ
	指標生物	チガイソ
		ムラサキイガイ
比較対照 （むつ市 川内町）	表土	
	指標生物	松葉

（参考）原子燃料サイクル施設

試料の種類		
陸上試料	大気浮遊じん	
	大気（気体状）	
	大気	
	大気（水蒸気状）	
	雨	
	降下物	
	河川水	
	湖沼水	
	水道水	
	井戸水	
	河底土	
	湖底土	
	表土	
	牛乳（原乳）	
	精米	
	野菜	ハクサイ、キャベツ
		ダイコン
		ナガイモ、バレイショ
	牧草	
	デントコーン	
海洋試料	淡水産食品	ワカサギ
		シジミ
	指標生物	松葉
	海水	
	海底土	
	海産食品	ヒラメ、カレイ
		イカ
		ホタテ、アワビ
		ヒラツメガニ
		ウニ
	指標生物	コンブ
		チガイソ
		ムラサキイガイ
比較対照 （青森市）	大気浮遊じん	
	大気（気体状）	
	大気	
	大気（水蒸気状）	
	表土	
	精米	
	指標生物	松葉

リサイクル燃料備蓄センター

表中の記号	
- :	モニタリング対象外を示す。
N D :	定量下限値未満を示す。分析室等で実施する環境試料中放射性核種の分析測定については、測定条件や精度を一定の水準に保つため、試料・核種毎に定量下限値を定めている。
:	今四半期の分析対象外を示す。

1 調査概要

(1) 実施者

青森県原子力センター
リサイクル燃料貯蔵株式会社

(2) 期間

平成 2 2 年 1 月 ~ 3 月 (平成 2 1 年度第 4 四半期)

(3) 内容

調査内容は、表 1 - 1 及び表 1 - 2 に示すとおりである。

(4) 測定方法

『リサイクル燃料備蓄センターに係る環境放射線モニタリング実施要領』による(「資料」参照)。

表 1 - 1 空間放射線

測 定 項 目		測 定 頻 度	地 点 数		
			区 分	青 森 県	事 業 者
空間放射線量率	モニタリングポスト	連 続	施 設 周 辺 地 域	1	—
R P L D に よ る 積 算 線 量		3 箇 月 算 積	施 設 周 辺 地 域	4	3
			比較対照(むつ市川内町)	1	—

表 1 - 2 環境試料中の放射能（機器分析）

試 料 の 種 類			青 森 県		事 業 者	
			地 点 数	検 体 数	地 点 数	検 体 数
				γ 線 放 出 核 種		γ 線 放 出 核 種
陸 上 試 料	表 土					
	指標生物	松 葉				
比 較 対 照 (むつ市川内町)	表 土				-	-
	指標生物	松 葉			-	-
計				-		

2 調査結果

平成 20 年度からリサイクル燃料備蓄センターに係る空間放射線及び環境試料中の放射能濃度の事前調査を開始した。

空間放射線については平成 20 年度から県が水川目、美付、浜関根及び比較対照(むつ市川内町)において R P L D による積算線量測定を実施した。また、これに加えて平成 21 年度から、県が関根においてモニタリングポストによる空間放射線量率及び R P L D による積算線量の測定、事業者が美付、大井及び石持において R P L D による積算線量測定を開始した。

平成 21 年度第 4 四半期(平成 22 年 1 月～3 月)における空間放射線は、これまでと同じ水準であった。

(1) 空間放射線

モニタリングポストによる空間放射線量率測定及び R P L D による積算線量測定を実施した。

空間放射線量率(NaI)(図 2 - 1)

今年度から調査を開始した。今四半期の平均値は 18 nGy/h、最大値は 40 nGy/h、最小値は 13 nGy/h であり、月平均値は 16～20 nGy/h であった。

R P L D による積算線量(図 2 - 2)

平成 20 年度から調査を開始した 4 地点の測定値は 81 ～ 94 μ Gy/91 日であり、過去の測定値¹と同じ水準であった。

県実施分の 3 地点(水川目、美付及び浜関根)で平常の変動幅²を下回ったが、積雪の影響と考えられる。

平成 21 年度から測定を開始した 4 地点の測定値は 74 ～ 85 μ Gy/91 日であった。

(2) 環境試料中の放射能

今四半期において分析対象となっている環境試料はない。

1 : 「過去の測定値」は前年度(平成 20 年度)の測定値。ただし、R P L D による積算線量の比較対照(むつ市川内町)については、平成 16～20 年度の測定値。

2 : 「平常の変動幅」は、R P L D による積算線量については「過去の測定値」の「最小値～最大値」。

図2 - 1 モニタリングポストによる空間放射線量率（NaI）測定結果

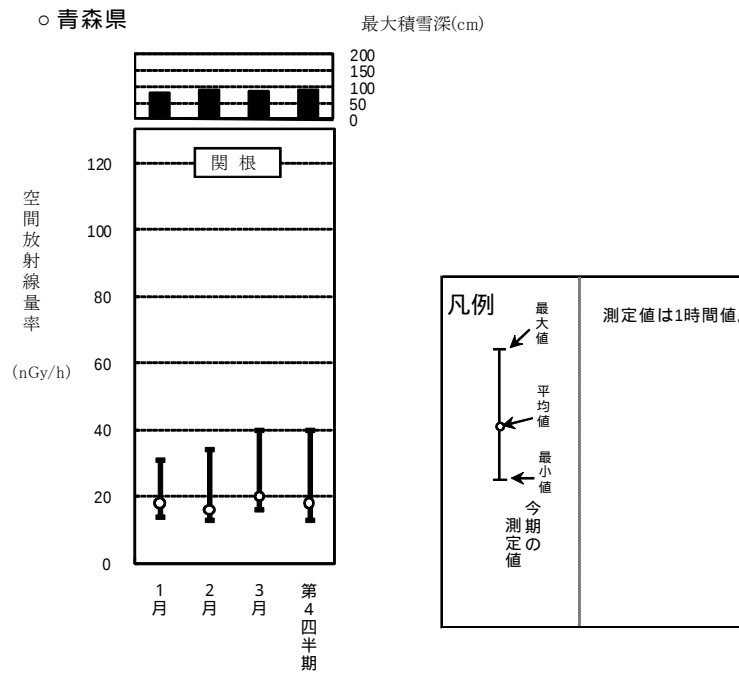
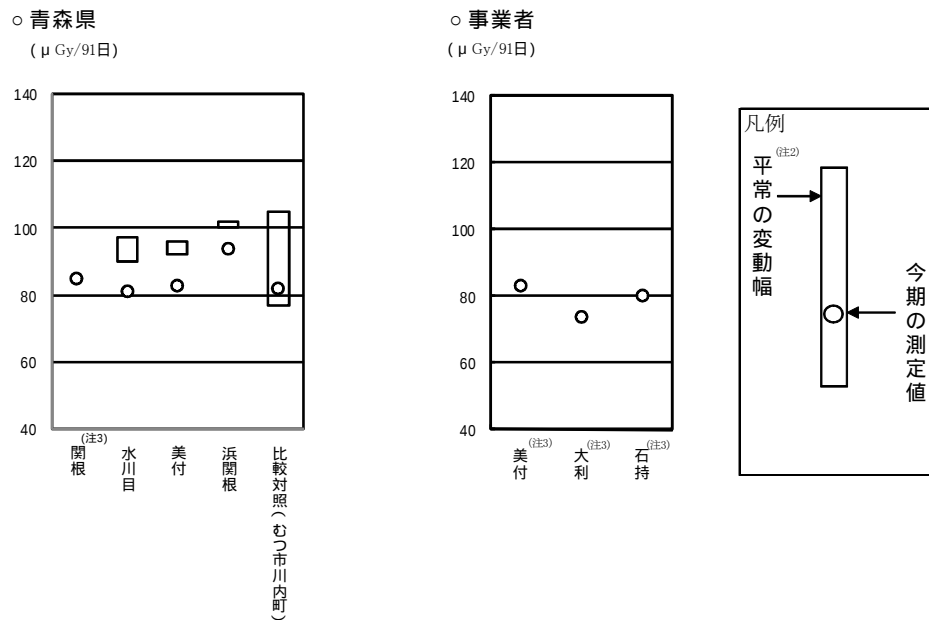


図2 - 2 RPLDによる積算線量測定結果^(注1)



(注1) 測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。

(注2) 「平常の変動幅」は平成20年4月～平成21年3月の測定値の「最小値～最大値」。

ただし、比較対照（むつ市川内町）については平成16年4月～平成21年3月の測定値の「最小値～最大値」。

(注3) 平成21年4月から測定を開始した。

資

料

核種の記号及び名称

${}^7\text{Be}$, Be-7	:	ベリリウム-7
${}^{40}\text{K}$, K-40	:	カリウム-40
${}^{54}\text{Mn}$, Mn-54	:	マンガン-54
${}^{59}\text{Fe}$, Fe-59	:	鉄-59
${}^{58}\text{Co}$, Co-58	:	コバルト-58
${}^{60}\text{Co}$, Co-60	:	コバルト-60
${}^{134}\text{Cs}$, Cs-134	:	セシウム-134
${}^{137}\text{Cs}$, Cs-137	:	セシウム-137
${}^{214}\text{Bi}$, Bi-214	:	ビスマス-214
${}^{228}\text{Ac}$, Ac-228	:	アクチニウム-228

1 . 青 森 県 実 施 分 測 定 結 果

(1) 空間放射線量率測定結果

モニタリングポストによる空間放射線量率 (Na I) 測定結果

(単位 : nGy/h)

測定局	測 定 月	平均	最大	最小	標準 偏差	平常の変 動幅を外 れた時間 数 (単位： 時間)	平常の変動幅を外 れた原因と時間数 (単位：時間)		平常の 変動幅	過去の 測定値 の範囲	過去の一四 半期の 測定値 の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
関 根	1 月	18	31	14	3.3	-	-	-	-	-	-	
	2 月	16	34	13	2.8	-	-	-				
	3 月	20	40	16	3.1	-	-	-				
	第 4 四半期	18	40	13	3.4	-	-	-				

- ・ 測定値は1時間値。
- ・ 測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・ 測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

(参考) モニタリングポストによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果 (単位 : nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
関根	1月	53	67	49	3.4	
	2月	51	68	49	2.7	
	3月	54	75	50	3.0	
	第4四半期	53	75	49	3.3	

- ・ 測定値は1時間値。
- ・ 測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

(2) 積算線量測定結果 (R P L D)

測 定 地 点		測 定 期 間 (日 数)	3 箇 月 積算線量 ($\mu\text{Gy}/91\text{日}$)	平常の変動幅 ($\mu\text{Gy}/91\text{日}$)	備 考
む つ 市	関 根	H21.12.25 ~ H22.3.25 (90)	85	-	
	水 川 目	"	81	90 ~ 97	
	美 付	"	83	92 ~ 96	
	浜 関 根	"	94	100 ~ 102	
	比 較 対 照 (む つ 市 川 内 町)	"	82	77 ~ 105	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3箇月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成20年4月～平成21年3月の3箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。
- ただし、比較対照（むつ市川内町）については平成16年4月～平成21年3月の3箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。
- ・：関根については、平成21年4月から測定を開始した。

(3) 気象観測結果

降水量・積雪深

測定局	測 定 月	降水量 (mm)	積 雪 深(cm)				
			平 均	最 大	最 小	過去の値	
						平 均	最 大
関 根	1 月	81.0	53	83	27	-	-
	2 月	24.5	75	92	56	-	-
	3 月	82.5	43	85	8	-	-
	第 4 四半期	188.0	56	92	8	-	-

- ・測定値は「地上気象観測指針（平成14年気象庁）」に基づく1時間値。

2 . 事 業 者 実 施 分 測 定 結 果

(1) 積算線量測定結果(R P L D)

測 定 地 点		測 定 期 間 (日 数)	3 箇 月 積算線量 (μ Gy/91日)	備 考
む つ 市	美 付	H21 . 12 . 21 ~ H22 . 3 . 25 (94)	83	
東 通 村	大 利	H21 . 12 . 21 ~ H22 . 3 . 25 (94)	74	
	石 持	H21 . 12 . 21 ~ H22 . 3 . 25 (94)	80	

- ・ 測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・ 「 3 箇月積算線量 」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。

3 . リサイクル燃料備蓄センターに係る 環境放射線モニタリング実施要領

平成 2 1 年 3 月策定

平成 2 2 年 3 月改訂

青 森 県

リサイクル燃料備蓄センターに係る環境放射線モニタリング実施要領

平成 21 年 3 月策定
平成 22 年 3 月改訂

1. 趣 旨

「リサイクル燃料備蓄センターに係る環境放射線モニタリング計画」により環境放射線の測定方法、分析方法等について必要な事項を定めるものとする。

2. 測定装置及び測定方法

(1) 空間放射線等

項目	青森県		リサイクル燃料貯蔵株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
空間放射線量率	・低線量率計 3" φ × 3" NaI(Tl) シンチレーション検出器 (温度補償方式 加温装置付) G(E) 関数荷重演算方式 ・高線量率計 14L、6 気圧球形窒素ガス加圧型電離箱検出器 (加温装置付)	・測定法 文部科学省編「連続モニタによる環境 γ 線測定法」(平成 8 年改訂)に準拠 連続測定 (1 時間値) ・測定位置 地上 1.8m ・校正線源 ¹³⁷Cs	・低線量率計 : 同左 ・高線量率計 14L、8 気圧球形窒素ガス + アルゴンガス加圧型電離箱検出器 (加温装置付)	・同左

項目	青森県		リサイクル燃料貯蔵株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
積算線量	・蛍光ガラス線量計 (RPLD)	・測定法 文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境 γ 線量測定法」(平成 14 年)に準拠 ・素子数 地点当たり 3 個 ・積算期間 3 箇月 ・収納箱 木製 ・測定位置 地上 1.8m ・校正線源 ¹³⁷Cs	・同左	

(2) 環境試料中の放射能

項目	青森県		リサイクル燃料貯蔵株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
機器分析 γ線放出 核種	・ゲルマニウム半導体 検出器	・測定法 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(平成4年改訂)に準拠 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器等を用いる機器分析のための試料の前処理法」(昭和57年)に準拠 文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成8年改訂)に準拠 ・測定試料形態 表土 乾燥細土 指標生物 灰化物 ・測定容器 U-8 容器等 ・測定時間 80,000 秒	・同左	

(3) 気 象

項 目	青森県		リサイクル燃料貯蔵株式会社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測定装置	測定方法
降 水 量	・雨雪量計[転倒升方式] (気象庁検定付)	測定法:指針 に準拠 測定位置:地上約 2m	・同左	
感 雨	・感雨雪器[電極式]	測定法:指針 に準拠 測定位置:地上約 2m		
積 雪 深	・積雪計[超音波式] (気象庁検定付)	測定法:指針 に準拠 測定位置: 地上約 3m		

:「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」(平成13年改訂 原子力安全委員会)

3．環境試料中の放射能測定対象核種

^{54}Mn 、 ^{59}Fe 、 ^{58}Co 、 ^{60}Co 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^7Be 、 ^{40}K 、 ^{214}Bi 、 ^{228}Ac

なお、 ^{214}Bi 、 ^{228}Ac については、土試料のみとする。

4．数値の取扱方法

(1) 空間放射線量率

単 位	表示方法
nGy/h	整数で示す。

(2) 積算線量

単 位	表示方法
$\mu\text{Gy}/91\text{日}$ $\mu\text{Gy}/365\text{日}$	3箇月積算線量は、測定期間の測定値を91日あたりに換算し、整数で示す。 年間積算線量は、各期間の測定値を合計した後、365日あたりに換算し、整数で示す。

(3) 環境試料中の放射性核種

試 料	単位	表示方法
表 土	Bq/kg 乾	有効数字2桁で示す。最小位は定量下限値の最小の位。 定量下限値は別表1に示す。 定量下限値未満は「ND」と表示する。 計数誤差は記載しない。
指標生物	Bq/kg 生	

別表1 環境試料中の放射性核種の定量下限値

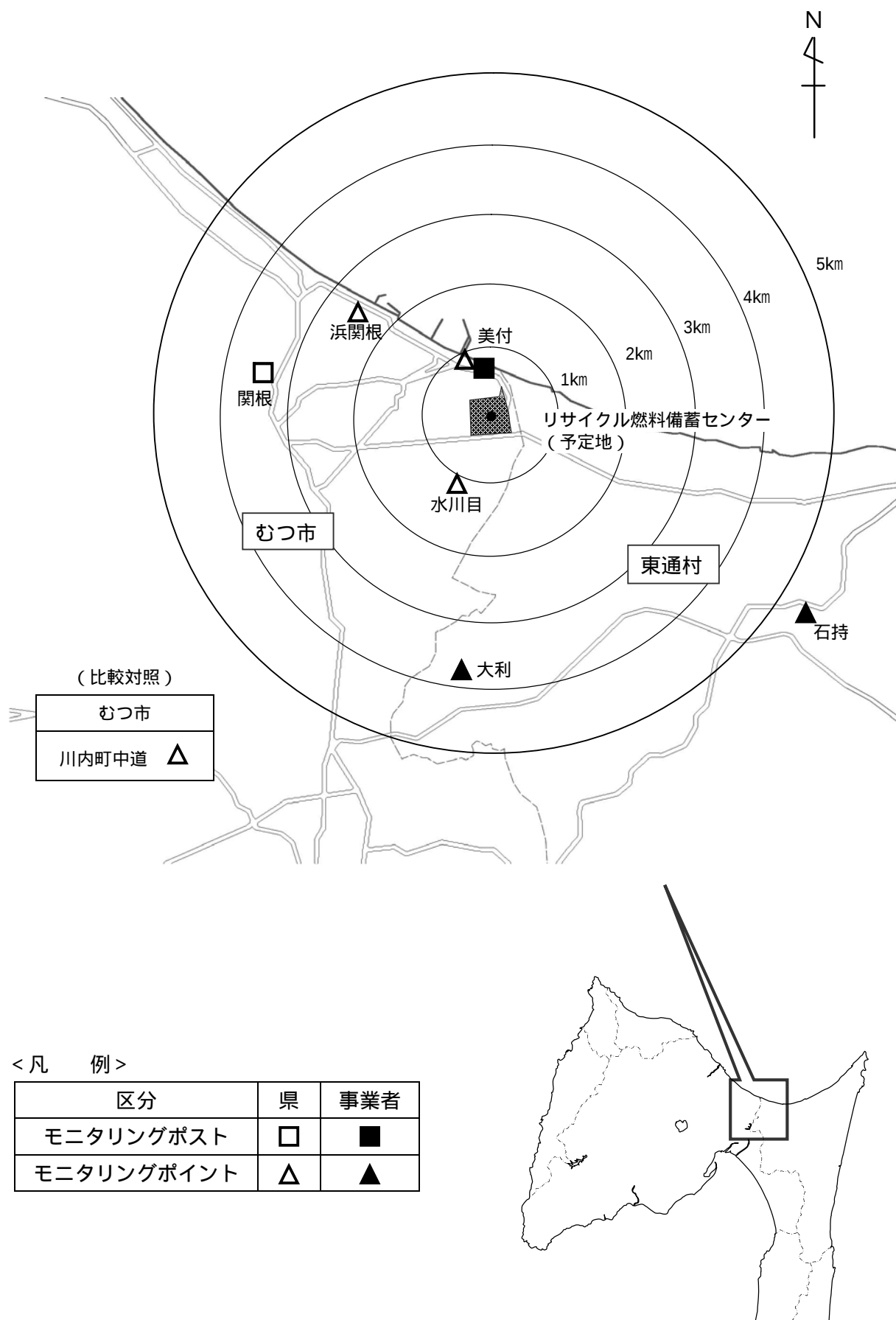
試料	単位	γ 線放出核種										備考
		^{54}Mn	^{59}Fe	^{58}Co	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	^7Be	^{40}K	^{214}Bi	^{228}Ac	
表 土	Bq/kg 乾	3	6	3	3	3	3	30	40	8	15	
指標生物	Bq/kg 生	0.4	0.8	0.4	0.4	0.4	0.4	6	6	-	-	

5．試料の採取方法等

試 料	採取方法等
表 土	表層（0～5cm）を採土器により採取する。
松 葉	二年生葉を採取する。

4 . 空間放射線の測定地点図 及び環境試料の採取地点図

図1 空間放射線の測定地点図



(参考)リサイクル燃料備蓄センターに係る環境放射線モニタリング計画(平成20年3月、青森県)より抜粋

表1 空間放射線等の測定計画

(県実施分)

区分	市町村	測定地点	空間放射線量率		積算線量	気象		
			低線量率計	高線量率計		降水量	感雨	積雪深
モニタリング ポスト	むつ市	関根 ^{注1}	○	○	○	○	○	○
モニタリング ポイント		水川目			○			
		美付			○			
		浜関根			○			
	比較対照 (むつ市川内町)	川内町中道			○			

(注1)平成21年度から実施

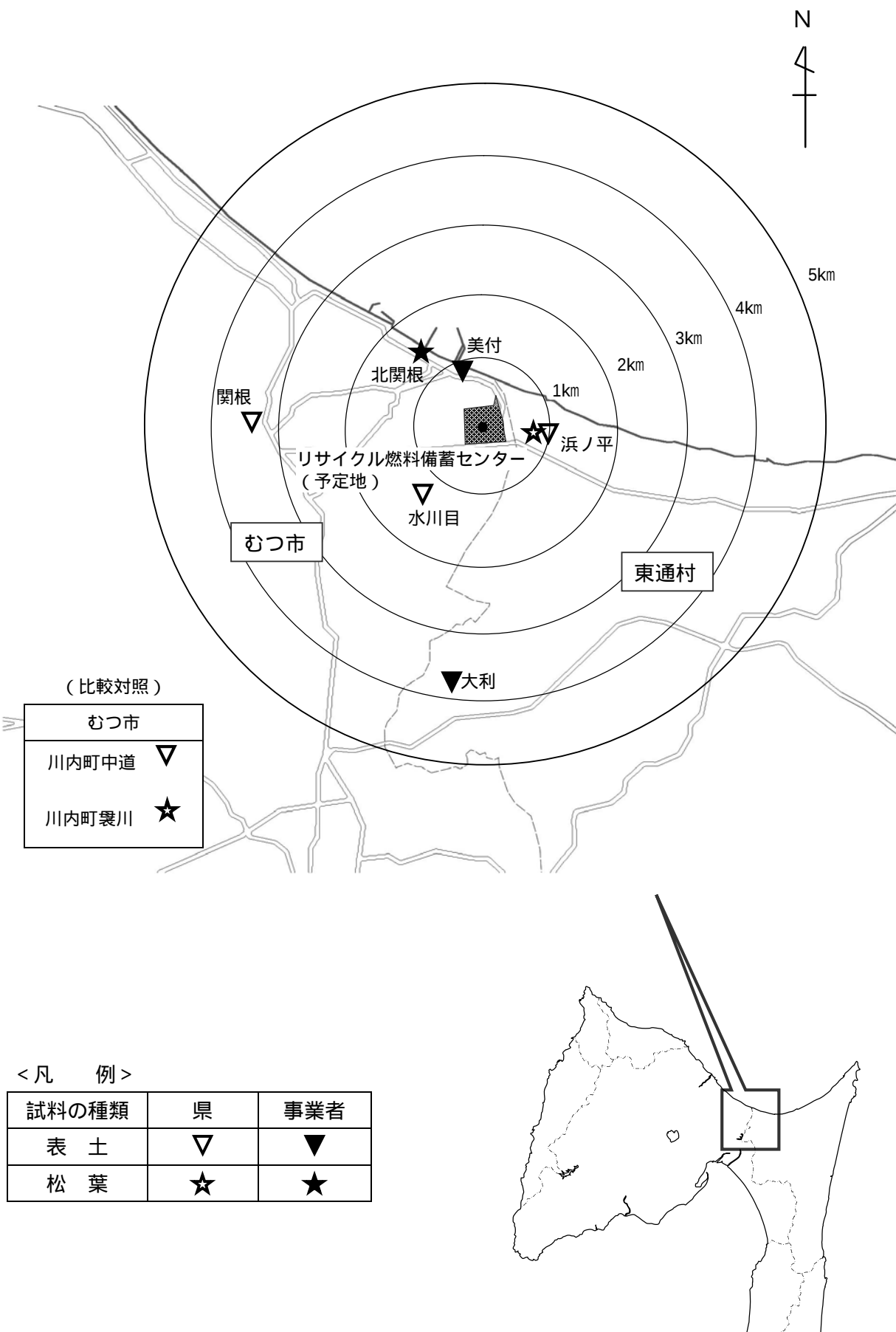
(リサイクル燃料貯蔵株式会社実施分)

区分	市町村	測定地点	空間放射線量率		積算線量	気象		
			低線量率計	高線量率計		降水量	感雨	積雪深
モニタリング ポスト	むつ市	美付 ^{注1}	○	○	○	○	○	○
モニタリング ポイント	東通村	石持 ^{注2}			○			
		大利 ^{注2}			○			

(注1)平成22年度から実施

(注2)平成21年度から実施

図2 環境試料の採取地点図



自然放射線等による線量算出要領

ま え が き

青森県では、六ヶ所再処理工場における使用済燃料を用いた総合試験（アクティブ試験）の開始を前に、平成 17 年度第 4 回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議において「六ヶ所再処理工場の操業と線量評価について」等の議案が審議され、施設起因の線量を推定・評価するための県の基本的な考え方について了承された。

その中で、これまで本要領に基づき算出してきた自然放射線等による実効線量については、施設起因の線量の比較参考データとして引き続き算出していくこととしており、また、平成 17 年 12 月に営業運転を開始した東通原子力発電所についても、同様に自然放射線等による実効線量を算出することとしている。

これらを踏まえ、東通原子力発電所に係る対象核種を追加するとともに、本要領に基づき自然放射線等による実効線量の算出を行うことを明確にするため、本要領の名称を「自然放射線等による線量算出要領」に変更した。

また、県が平成 15～16 年度に六ヶ所村、東通村及びその周辺市町村において実施した食品摂取量調査結果等をもとに、食品等の 1 日の摂取量の見直しを行うとともに、原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリングにおいて、積算線量の測定を平成 17 年度に熱ルミネセンス線量計（TLD）から蛍光ガラス線量計（RPLD）に変更したことから、併せて所要の改訂を行った。

平成 18 年 4 月 青森県原子力センター

ま え が き

「環境放射線モニタリングに関する指針」(以下「モニタリング指針」という。)
は、平成 12 年 8 月に、「必要に応じてウラン又はプルトニウムによる骨表面又は肺
の等価線量を算定する」等、原子力緊急事態の発生への対応、研究炉、核燃料関連
施設における事故への対応等に留意した改訂が行われ、平成 13 年 3 月には、国際
放射線防護委員会(ICRP)1990 年勧告の取入れに伴う関係法令の改正に合わせ「線
量当量」から「線量」に変更するなどの用語の変更とともに、内部被ばくに係る線
量係数(Sv/Bq)の変更に伴う改訂等が行われた。

以上をふまえ、「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング結果の
評価方法」及び「測定結果に基づく線量当量算出要領」を改訂した。

平成 13 年 7 月 原子力安全対策課

平成 6 年度版

ま え が き

第 1 回原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等監視連絡会議*（平成元年 8 月 10 日開催）において、「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング構想、基本計画及び実施要領（平成元年 3 月策定（平成 5 年 3 月改訂）青森県）」の考え方に基づく「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング結果の評価方法」（以下、「評価方法」という。）の審議を始め、その後検討を重ねた結果、第 4 回会議（平成 2 年 4 月 24 日開催）において、「評価方法」が決定された。また、外部への分析委託のなくなる平成 5 年度からの適用をめざして、定量下限値（試料、核種ごとに分析の精度を担保するために定めた定量の下限値）が、第 15 回会議（平成 5 年 2 月 15 日開催）にて決定された。

そこで、「評価方法」に基づく線量当量を算出するにあたって更に具体的事項を整理して、ここに「測定結果に基づく線量当量算出要領」としてまとめたものである。

なお、原子燃料サイクル施設のうちウラン濃縮工場及び低レベル放射性廃棄物埋設センターは、平常時運転において放射性物質を放出する可能性が極めて小さい施設であり、環境放射線等モニタリングの測定結果により、これを確認し評価してきている。したがって、これら施設に起因する実効線量当量を評価する必要はない。一方、再処理施設や原子力発電所は、平常時運転において、ごくわずかであるが、放射性物質を放出する施設であることから、これら施設に起因する公衆の実効線量当量を推定・評価し、自然放射線等による実効線量当量と比較検討することは意義のあることである。

以上の観点から、今後、本要領により、自然放射線等による実効線量当量を算出していくこととする。

平成 6 年 4 月 青森県環境保健部原子力環境対策室

* 組織の拡充に伴い、平成 2 年 8 月 10 日に「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等監視評価会議」に名称を変更した。

自然放射線等による線量算出要領

1. 目 的

『原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング結果の評価方法』及び『東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング結果の評価方法』に基づき推定・評価する施設起因の線量と比較するため、自然放射線等による線量を算出することとし、その算出方法を定めるものである。

2. 外部被ばくによる実効線量

- (1) 評価対象期間中の蛍光ガラス線量計 (RPLD) による積算線量測定結果から、地点毎に年間積算線量 (Gy) を求める。
- (2) 年間積算線量から対照用 RPLD の年間積算線量 (宇宙線成分及び RPLD の自己照射の寄与分に相当) を差し引く。
- (3) 対照用 RPLD の測定結果に欠測があった場合は、適切な過去の測定結果を用いる。
- (4) その結果に、換算係数 0.8 (Sv/Gy) を乗じて、地点毎の実効線量を算出する。

3. 内部被ばくによる預託実効線量

(1) 対 象 試 料

原子燃料サイクル施設

大気浮遊じん、大気、水道水、農畜産物 (精米、野菜、牛乳)、淡水産食品 (ワカサギ、シジミ等)、海産食品 (ヒラメ、コンブ、ホタテ、ヒラツメガニ、イカ、アワビ、ウニ等)

東通原子力発電所

大気浮遊じん、大気、水道水、井戸水、農畜産物 (精米、野菜、牛乳、牛肉)、海産食品 (ヒラメ、ウスメバル、コンブ、ホタテ、アワビ、タコ、ウニ等)

(2) 対 象 核 種

原子燃料サイクル施設

^{54}Mn 、 ^{60}Co 、 ^{106}Ru 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{144}Ce 、 ^3H 、 ^{14}C 、 ^{90}Sr 、 ^{131}I 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 、 U

東通原子力発電所

^{54}Mn 、 ^{59}Fe 、 ^{58}Co 、 ^{60}Co 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^3H 、 ^{90}Sr 、 ^{131}I

ただし、各試料に対する対象核種は、「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング基本計画(平成元年 3 月策定(平成 17 年 10 月改訂)、青森県)」及び「東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施計画(平成 15 年 2 月策定(平成 17 年 10 月改訂)、青森県)」による。

上記以外の人工放射性核種が検出された場合は、当該人工放射性核種も対象とする。

(3) 預託実効線量の算出

成人を対象とし、当該年度における対象試料中の放射性核種測定結果及び実効線量係数から別式により、測定結果の平均値を用いて食品等の種類毎及び核種毎に 1 年間の経口摂取又は吸入摂取による預託実効線量を算出し、それぞれを合算する。

(注) 必要があれば放射性ヨウ素による甲状腺の等価線量、ウラン又はプルトニウムによる骨表面又は肺の等価線量を算出する。

4. 実効線量の表示方法及び集計方法

- (1) ミリシーベルト単位 (mSv) で外部被ばくによる実効線量については小数第 4 位を四捨五入し小数第 3 位までの値を、内部被ばくによる預託実効線量については小数第 5 位を四捨五入し、小

数第 4 位までの値をそれぞれ記載する。

- (2) 内部被ばくによる預託実効線量についての計算結果が、0.00005 ミリシーベルト未満の場合は、「NE」と表示する。
- (3) 対象期間内の測定結果の平均値が「ND」(定量下限値未満)の場合の預託実効線量は、「NE」と表示する。
- (4) 内部被ばくによる預託実効線量の計を求める場合は、「NE」を加算しない。

(注)放射性ヨウ素による甲状腺の預託等価線量、ウラン又はプルトニウムによる骨表面又は肺の預託等価線量についても同様とする。

(別 式)

$$\text{預託実効線量 (mSv)} = [\text{年間の核種摂取量 (Bq)}] \times [\text{実効線量係数 (mSv/Bq)}]$$

$$\begin{aligned} \text{年間の摂取量(Bq)} = & [\text{対象期間内の測定結果の平均値(食品等の種類毎)}] \\ & \times [\text{食品等の 1 日の摂取量}] \times [\text{対象期間内摂取日数}] \end{aligned}$$

対象期間内の測定結果の平均値

食品等の種類毎に対象核種毎の測定値を単純平均する。測定値に「ND」が含まれる場合は、「ND」を定量下限値として算出する。

ただし、全ての測定値が「ND」場合の平均値は「ND」とする。

食品等の 1 日の摂取量；別表 1 に示す。

摂取期間内摂取日数；原則として「365」日とする。

実効線量係数：別表 2 に示す。

(甲状腺の等価線量に係る線量係数は別表 3 に示す。なお、ウラン又はプルトニウムによる骨表面又は肺の等価線量を算出する場合に必要な線量係数は、ICRP Publication 71などを参考とする)

別表 1 食品等の 1 日の摂取量 (成人)

食品等の種類	1 日の摂取量	該 当 す る 環 境 試 料	備 考
米	320 g	精 米	
葉 菜	370 g	ハクサイ、キャベツ、アブラナ等	
根 菜 ・ い も 類	230 g	ダイコン、ナガイモ、パレイショ等	
海 水 魚	200 g	ヒラメ、ウスメバル、コウナゴ等	
淡 水 魚	30 g	ワカサギ等	
無脊椎動物(海水産)	80 g	ホタテ、ヒラツメガニ、イカ、アワビ、ウニ、タコ等	
無脊椎動物(淡水産)	10 g	シジミ等	
海 藻 類	40 g	コンブ等	
牛 乳	0.25 ℓ	牛 乳 (原乳)	
牛 肉	20 g	牛 肉	
飲 料 水	2.65 ℓ	水道水、井戸水	
空 気	22.2 m ³	大気浮遊じん、大 気	

- ・ 「線量評価における食品等の摂取量について」(平成 17 年度第 4 回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会(平成 18 年 1 月 24 日開催)提出資料)による。
- ・ 大気：水蒸気状トリチウムの場合は、ICRP Publication 71 により、皮膚からの吸収分(呼吸による吸収分の 0.5 倍)を加算する。

別表 2 1 Bq を経口又は吸入摂取した場合の成人の実効線量係数

(単位：mSv/Bq)

核 種	経 口 摂 取	吸 入 摂 取	備 考
^{54}Mn	7.1×10^{-7}	1.5×10^{-6}	
^{59}Fe	1.8×10^{-6}	4.0×10^{-6}	
^{58}Co	7.4×10^{-7}	2.1×10^{-6}	
^{60}Co	3.4×10^{-6}	3.1×10^{-5}	
^{106}Ru	7.0×10^{-6}	6.6×10^{-5}	
^{134}Cs	1.9×10^{-5}	9.1×10^{-6}	
^{137}Cs	1.3×10^{-5}	9.7×10^{-6}	
^{144}Ce	5.2×10^{-6}	5.3×10^{-5}	
^3H	1.8×10^{-8}	1.8×10^{-8}	
^{14}C	5.8×10^{-7}		
^{90}Sr	2.8×10^{-5}	3.6×10^{-5}	
U	4.9×10^{-5}	9.4×10^{-3}	
$^{239+240}\text{Pu}$	2.5×10^{-4}	5.0×10^{-2}	
^{131}I	1.6×10^{-5}	1.5×10^{-5}	

- ・ ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{90}Sr 及び $^{239+240}\text{Pu}$ の吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されているもののうち、タイプ M の値を用いた。
- ・ ^3H の経口摂取、吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されているもののうち、水に対応する値を用いた。
- ・ U の経口摂取、吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されている ^{234}U 、 ^{235}U 、 ^{238}U のうち、最も大きな値を用いた。
- ・ 上記以外の値は「環境放射線モニタリングに関する指針（平成13年3月 原子力安全委員会）」による。
- ・ ただし、分析方法等から化学形等が明らかな場合には、原則として ICRP Publication 72 などから当該化学形等に相当する実効線量係数を使用する。

別表 3 1 Bq を経口又は吸入摂取した場合の成人の甲状腺の等価線量に係る線量係数

(単位：mSv/Bq)

核 種	経 口 摂 取	吸 入 摂 取	備 考
^{131}I	3.2×10^{-4}	2.9×10^{-4}	

- ・ 「環境放射線モニタリングに関する指針（平成 13 年 3 月 原子力安全委員会）」による。

参考 定量下限値を用いて算出した場合の成人の預託実効線量

定量下限値を用いて食品の種類毎及び核種毎に1年間の経口摂取又は吸入摂取による預託実効線量を算出した結果を下表に示す。

各々の算出結果及び合計した値は法令で定める周辺監視区域外線量限度 1 mSv/年（実効線量）を十分下回っている。

(1) 原子燃料サイクル施設 (mSv)

食品等の種類	⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	³ H	¹⁴ C	⁹⁰ Sr	²³⁹⁺²⁴⁰ Pu	U	¹³¹ I	備考
米	NE	0.0002	0.0033	0.0009	0.0006	0.0009	—	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	—	
葉 菜	NE	0.0002	0.0038	0.0010	0.0007	0.0011	—	0.0002	0.0002	0.0001	0.0001	—	
根菜・いも類	NE	0.0001	0.0024	0.0006	0.0004	0.0007	—	0.0001	0.0001	NE	0.0001	—	
海 水 魚	NE	0.0001	0.0020	0.0006	0.0004	0.0006	NE	—	0.0001	NE	—	—	
淡 水 魚	NE	NE	0.0003	0.0001	0.0001	0.0001	—	—	NE	NE	NE	—	
無脊椎動物（海水産）	NE	NE	0.0008	0.0002	0.0002	0.0002	—	—	NE	NE	—	—	
無脊椎動物（淡水産）	NE	NE	0.0001	NE	NE	NE	—	—	NE	NE	—	—	
海 藻 類	NE	NE	0.0004	0.0001	0.0001	0.0001	—	—	NE	NE	—	—	
牛 乳	NE	0.0001	0.0026	0.0007	0.0005	0.0007	—	—	0.0001	—	0.0001	—	
飲 料 水	NE	NE	0.0004	0.0001	0.0001	0.0002	NE	—	NE	NE	—	—	
空 気	NE	NE	0.0001	NE	NE	NE	NE	—	NE	0.0001	NE	NE	
計	NE	0.0007	0.0162	0.0043	0.0031	0.0046	NE	0.0003	0.0006	0.0003	0.0004	NE	

合計 0.0306 mSv

(2) 東通原子力発電所 (mSv)

食品等の種類	⁵⁴ Mn	⁵⁹ Fe	⁵⁸ Co	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	³ H	⁹⁰ Sr	¹³¹ I	備考
米	NE	0.0002	NE	0.0002	0.0009	0.0006	-	0.0001	-	
葉 菜	NE	0.0002	NE	0.0002	0.0010	0.0007	-	0.0002	0.0009	
根菜・いも類	NE	0.0001	NE	0.0001	0.0006	0.0004	-	0.0001	-	
海 水 魚	NE	0.0001	NE	0.0001	0.0006	0.0004	-	0.0001	-	
無脊椎動物（海水産）	NE	NE	NE	NE	0.0002	0.0002	-	NE	-	
海 藻 類	NE	NE	NE	NE	0.0001	0.0001	-	NE	0.0001	
牛 乳	NE	0.0001	NE	0.0001	0.0007	0.0005	-	0.0001	0.0006	
牛 肉	NE	NE	NE	NE	0.0001	NE	-	NE	-	
飲 料 水	NE	NE	NE	NE	0.0001	0.0001	NE	-	-	
空 気	NE	NE	NE	NE	NE	NE	-	-	0.0024	
計	NE	0.0007	NE	0.0007	0.0043	0.0030	NE	0.0006	0.0040	

合計 0.0133 mSv

付

- 付 1 モニタリングポスト東北町役場局の周辺環境の変化について
- 付 2 モニタリングポイント出戸における積算線量測定場所の移動について
- 付 3 モニタリングステーションにおける大気浮遊じん中の全 β 放射能濃度測定結果（平成 22 年 2 月第 4 週）について
- 付 4 原子燃料サイクル施設に係る牧草（第 3 団地）の採取場所の移動について
- 付 5 比較対照（青森市）における表土の調査結果について
- 付 6 モニタリングポイント桜木町（むつ市）の周辺環境の変化について

モニタリングポスト東北町役場局の周辺環境の変化について

1 経緯

平成21年11月10日に原子力センター職員が巡視したところ、モニタリングポスト東北町役場局周辺において工事が行われていた。東北町役場に確認したところ、町役場駐車場の拡張工事を行っており公園の一部（写真1）をアスファルトで舗装するとのことであった。工事の状況は以下のとおり。

○工事期間 平成21年10月10日～平成22年3月26日

○周辺環境の変化

・11月上旬 公園の土を掘り返して砂、砕石等を敷く

・12月下旬及び3月中旬 アスファルトで舗装

また、写真2として工事中のものを、写真3として工事終了後のものを示した。

モニタリングポスト東北町役場局では連続モニタによる空間放射線量率（NaI）及び積算線量を測定しており、空間放射線量率（NaI）の測定値を用いて周辺環境の変化に係る測定値の取扱いを検討した。



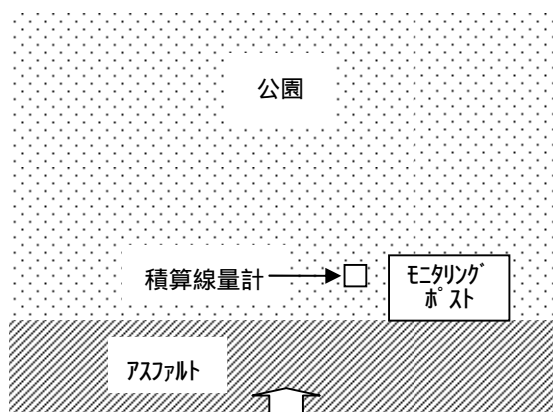
写真1：周辺環境変化前
（工事前：H20.9.25撮影）



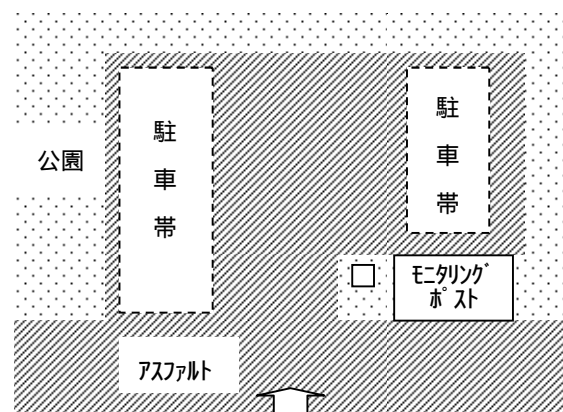
写真2：周辺環境変化後
（工事中：H21.11.10撮影）



写真3：周辺環境変化後
（工事終了後：H22.6.22撮影）



写真の向き



写真の向き

図1：周辺環境変化前後の概略図（左：変化前 右：変化後）

2 周辺環境変化前後の測定値について

(1) 空間放射線量率 (NaI)

積雪の影響がない平成 21 年 5 月及び平成 22 年 5 月の測定値を用い、周辺環境が変化した前後における測定値の推移をみるとベースラインの変動があると考えられた (図 2)。

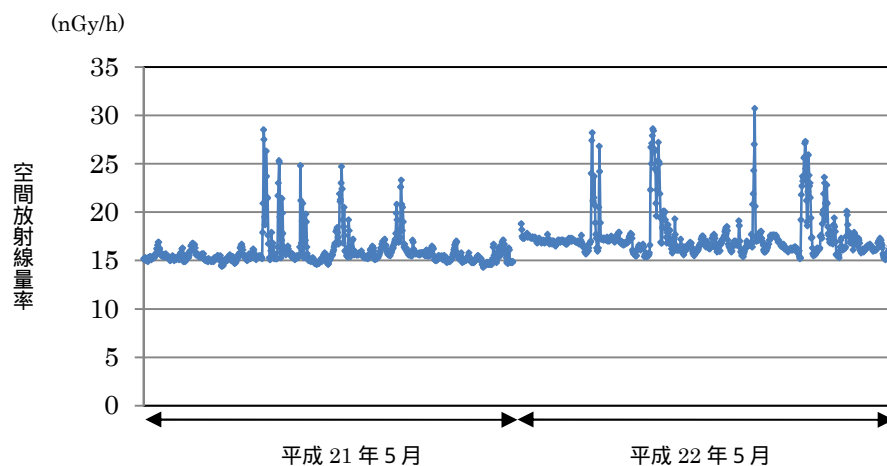


図 2：周辺環境変化前後の空間放射線量率 (NaI) の推移 (測定値は 1 時間値)

次に、バックグラウンドレベルの変化をみるために、平成 21 年 5 月及び平成 22 年 5 月の降雨による影響がない測定値を比較したところ、平均値について 1.1 nGy/h の上昇がみられた。また、平均値の差の検定を行ったところ、差があると考えられた (表 1)。

表 1 空間放射線量率の平均値の差の検定結果 (単位: nGy/h)

周辺環境	年月日	データ数 (1 時間値)	平均値	標準偏差	最大値	最小値	t 値, (0.01)
変化前	平成 21 年 5 月 1, 2, 4, 5, 16, 19, 20, 25, 26 日	216	15.6	0.47	16.9	14.6	18.0 > 2.59
変化後	平成 22 年 5 月 2, 10, 16 ~ 18, 30, 31 日	168	16.7	0.67	18.5	15.1	

注) 東北町役場局では気象要素を観測していないことから以下の条件で抽出した測定値を用いた。

- ・アメダスで十和田、三沢、七戸の降水量がゼロであり、県のモニタリングステーション (原子燃料サイクル施設周辺 6 局) で感雨がなかった日の測定値を用いた。また、測定値の日変動について考慮するため、1 日分の測定値 (24 個) をすべて使用した。

: 2 つの測定結果の平均値に差があるかないかを判定する統計的手法。それぞれの平均値、バラツキ (標準偏差) 等から t 値を算出し、基準値と比較して判定する。

(2) 積算線量

平成 21 年度第 3 四半期及び第 4 四半期の測定値は表 2 のとおりであり、平常の変動幅の範囲内であったが、第 4 四半期については過去の同一四半期の測定値の範囲を上回った。

表 2 東北町役場における平成 21 年度第 3 四半期及び第 4 四半期の積算線量測定結果

(単位: $\mu\text{Gy}/91\text{日}$)

	設置期間	測定値	平常の変動幅	過去の同一四半期の 測定値の範囲
平成 21 年度 第 3 四半期	H21.9.25 ~ H21.12.25 (91 日間設置)	89	82 ~ 91	86 ~ 91
平成 21 年度 第 4 四半期	H21.12.25 ~ H22.3.25 (90 日間設置)	90		82 ~ 88

3 測定値の取扱いについて

(1) 空間放射線量率 (NaI)

今回、周辺環境が変化したことによりベースラインが上昇しバックグラウンドレベルに変化があると考えられたことから、平常の変動幅については平成 22 年度第 1 四半期から新たにデータの蓄積を行い、1 年間以上のデータが蓄積された時点で暫定的に平常の変動幅として用いる。5 年以上経過した時点で改めて平常の変動幅を設定する。

(2) 積算線量

(1)と同様、バックグラウンドレベルに変化があると考えられたことから、平常の変動幅については平成 22 年度第 1 四半期から新たにデータの蓄積を行い、1 年間以上のデータが蓄積された時点で暫定的に平常の変動幅として用いる。5 年以上経過した時点で改めて平常の変動幅を設定する。

モニタリングポイント出戸における積算線量測定場所の移動について

1 経緯

平成 21 年 7 月にモニタリングポイント出戸において、土地所有者から積算線量計収納箱を約 3 m 離れた場所（図 1）に移動してもらいたいとの依頼があり、平成 21 年度第 3 四半期及び第 4 四半期に新測定場所に収納箱を設置して並行測定を行い、平成 22 年度第 1 四半期に移動した。

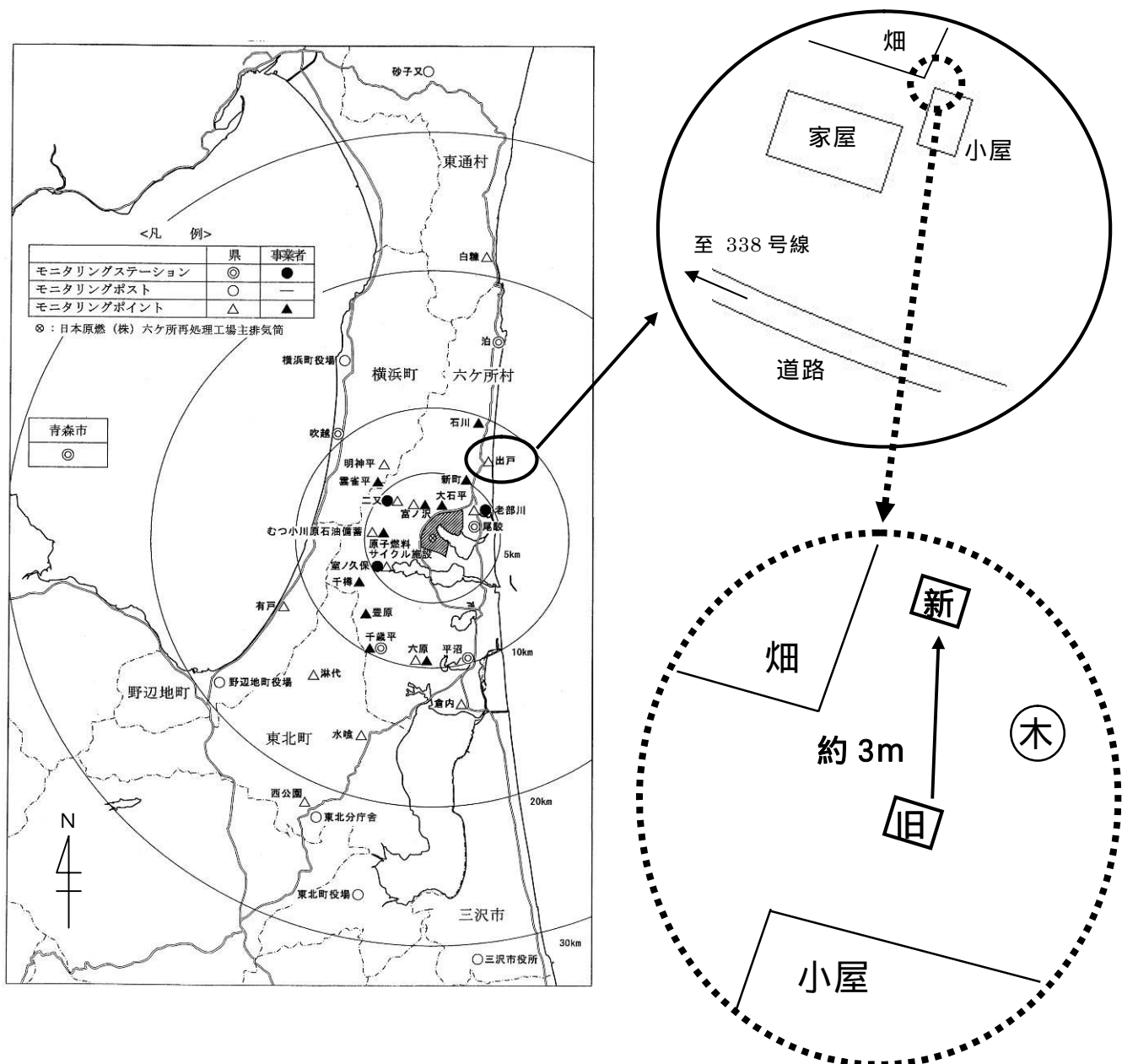


図 1 モニタリングポイント出戸

（概略図：「旧」は旧測定場所、「新」は新測定場所を指す）

2 新旧測定場所における積算線量並行測定結果について

平成 21 年度第 3 四半期及び第 4 四半期に行った並行測定結果は表 1 に示すとおりであり、新測定場所の積算線量測定値は旧測定場所よりも第 3 四半期は 1 μGy 、第 4 四半期は 3 μGy 低い値となった。

表 1 新旧測定場所における積算線量並行測定結果（単位： $\mu\text{Gy}/91$ 日）

	設置期間	測定値		平常の変動幅	過去の同一四半期の測定値の範囲
		新測定場所	旧測定場所		
平成 21 年度 第 3 四半期	H21.9.25 ~ H21.12.25 (91 日間設置)	88	89	75 ~ 90	84 ~ 90
平成 21 年度 第 4 四半期	H21.12.25 ~ H22.3.25 (90 日間設置)	75	78		75 ~ 85

3 空間放射線量率の測定結果について

新旧測定場所において可搬型モニタリングポスト（Aloka 製 MAR-561D）を用い空間放射線量率の測定を行った。測定結果は表 2 に示すとおり、新測定場所の方が旧測定場所よりも 2 nGy/h 程度低い値を示した。

測定結果について平均値の差の検定を行ったところ（表 3）、測定結果に差があると考えられる。

表 2 新旧測定場所における空間放射線量率

	測定日	空間放射線量率	測定方法	備考
新測定場所	H21.8.6	13.7 nGy/h	地上高さ 1.8 m で、10 分値を旧測定場所及び新測定場所各 6 回計測し、その平均値を算出した。	天候：晴
旧測定場所		15.4 nGy/h		

表 3 空間放射線量率の平均値の差の検定結果

	データ数	平均値	標準偏差	最大値	最小値	t 値, (0.01)
新測定場所	6	13.7	0.13	13.9	13.5	13.3 > 3.17
旧測定場所	6	15.4	0.25	15.7	15.0	

：2 つの測定結果の平均値に差があるかないかを判定する統計的手法。それぞれの平均値、バラツキ（標準偏差）等から t 値を算出し、基準値と比較して判定する。

4 平常の変動幅の取扱いについて

平常の変動幅については測定場所を移動したこと及び測定地点のバックグラウンドレベルに変化があると考えられたことから、平成 22 年度第 1 四半期から新たにデータの蓄積を行い、1 年間以上のデータが蓄積された時点で暫定的に平常の変動幅として用いる。5 年以上経過した時点で改めて平常の変動幅を設定する。

モニタリングステーションにおける大気浮遊じん中の全 β 放射能濃度
測定結果（平成 22 年 2 月第 4 週）について

モニタリングステーション（以下「MS」という）全 β 放射能濃度測定結果（平成 22 年 2 月第 4 週）において、平常の変動幅を上回る事象が確認された。

検討結果を以下に記す。

1 全 β 放射能濃度測定値

全 β 放射能濃度測定結果は表 1 のとおり。

表 1 平常の変動幅を上回った測定値 単位：mBq/m³

測定局	採取期間	全 β 放射能濃度	平常の変動幅
尾駸	H22.2.22 ~	1.7	* ~ 1.6
平沼	H22.2.28	1.7	* ~ 1.6

注）168 時間集じん終了後 72 時間放置、1 時間測定。

* は検出限界以下を示す。

2 調査内容

(1) 核種分析結果

γ 線核種分析と ^{90}Sr の放射化学分析の結果は以下のとおり。

ア γ 線核種分析結果

集じんしたろ紙を γ 線核種分析したところ、検出されたのは天然放射性核種のみであり、人工放射性核種は検出されなかった。

イ 放射化学分析結果

集じんしたろ紙について、 β 線を放出する核種である ^{90}Sr を分析した結果は、表 2 に示すとおりであり、これまでと同様に定量下限値未満であった。

表 2 大気浮遊じん中の ^{90}Sr の分析結果 単位：mBq/m³

採取地点	採取期間	報告値	平常の変動幅	定量下限値
尾駸	H22.1.4	N D	N D	0.004
平沼	~ H22.3.28	N D		

注）N D は定量下限値未満を示す。

(2) 再処理施設放出状況

平常の変動幅を上回った測定値が観測された集じん期間において、再処理施設の気体廃棄物放出状況を確認した結果、有意な放出はなかった。

(3) ダストモニタ点検状況

MSに設置しているダストモニタの集じん機能及び測定機能に異常はなかった。

(4) 他局舎の変動状況

平常の変動幅を上回る測定値が観測された期間においては、図1に示すとおり、比較対照（青森市）を含めた全てのMSにおいて全β放射能濃度は高い傾向を示しており、広域的な変動であることが確認された。

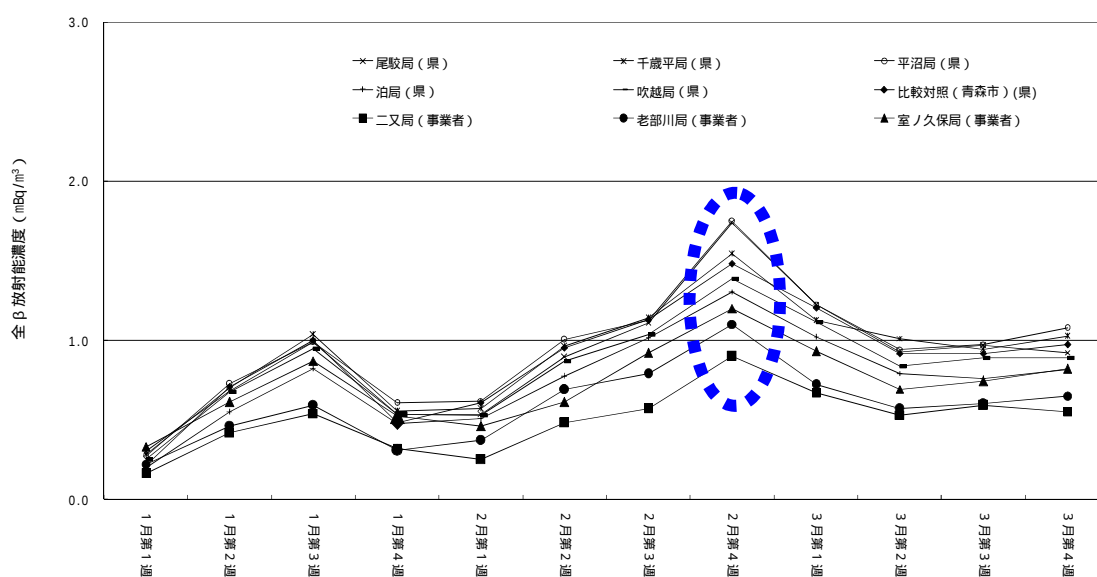


図1 全β放射能濃度の推移（平成21年度第4四半期）

(5) 季節変動状況

過去のMSにおける測定値から、第3、4四半期において全β放射能濃度四半期平均値が高くなる季節変動が確認されている¹⁾（図2～図3）。

これは、第3、4四半期においては、西風（大陸からの風）が主となるため、天然放射性核種（²²²Rn）を多く含んだ大陸性気団（主に中国大陆からの流入）の影響により広域的に高くなったものと推測される²⁾。

広域的に全β放射能濃度が高くなる傾向がみられた平成22年2月第4週について後方流跡線解析を行い、当該期間は中国大陆からの大気当該地域へ流入している可能性が高いことを確認している。

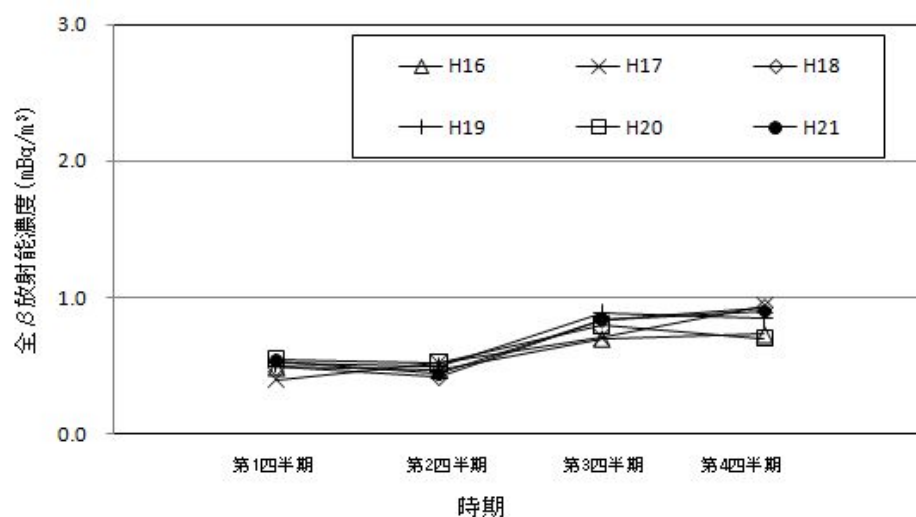


図2 MS尾駁局 全β放射能濃度四半期平均値の推移
(平成16年度～平成21年度)

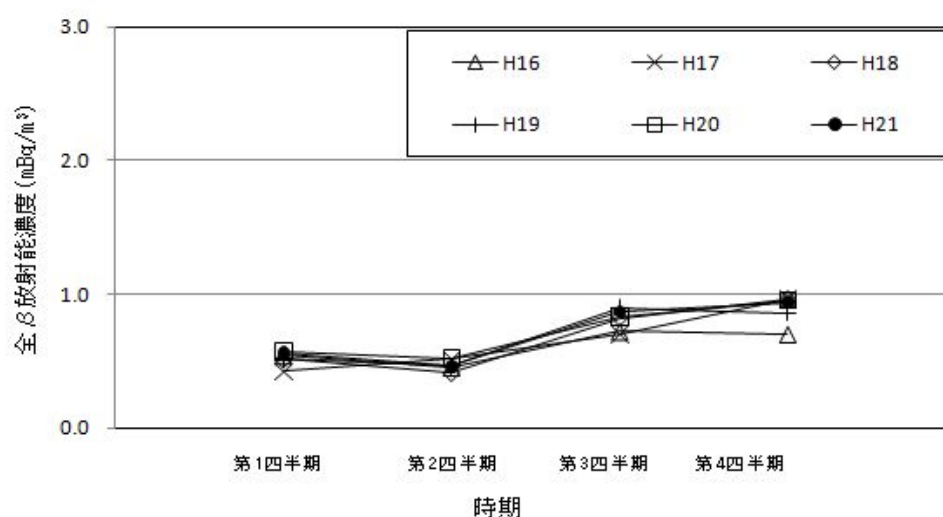


図3 MS平沼局 全β放射能濃度四半期平均値の推移
(平成16年度～平成21年度)

3 結論

以上のことから、大気浮遊じん中全β放射能が平常の変動幅を上回ったのは、大気中の天然放射性核種によるものであり、環境レベルの変動と考えられる。

(参考文献)

- 1) 木村秀樹, 高橋秀昭, 齋藤稔
「大気浮遊じん中全α及び全β放射能の起源の推定」
保健物理, 43(1), 60～68(2008)
- 2) 金益和, 池辺幸正, 飯田孝夫, 下道国, 山西弘城, 郭秋菊, 阿部史郎, 王作元, 任天山, 田徳源, 何志堅, 范鑫, 謝宏如, 楊孝桐, 李鎖照, 陸少祥, 張浩然, 杜開如
「中国におけるPassive法による屋内・外ラドン濃度調査」
保健物理, 26, 341～349(1991)

原子燃料サイクル施設に係る牧草（第 3 団地）の採取場所の移動について

原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング基本計画に基づき、表 1 のとおり第 3 団地において牧草の調査を実施している。

平成 22 年度第 1 四半期における牧草の採取について、牧草提供者に連絡したところ、今年度から乳牛の飼料となる牧草を刈り取る場所が変更になった旨の説明があった。

当該提供者から牧草のほかに牛乳の提供も受けているため、平成 22 年度第 1 四半期から牧草の採取を旧採取場所から約 50 m 北側に移動した場所で行うこととする(図 1)。

表 1 牧草（第 3 団地）の測定計画

試料名	採取地点	採取時期	測定項目
牧草	第 3 団地	5 月、8 月	γ 核種、 ⁹⁰ Sr、U、F

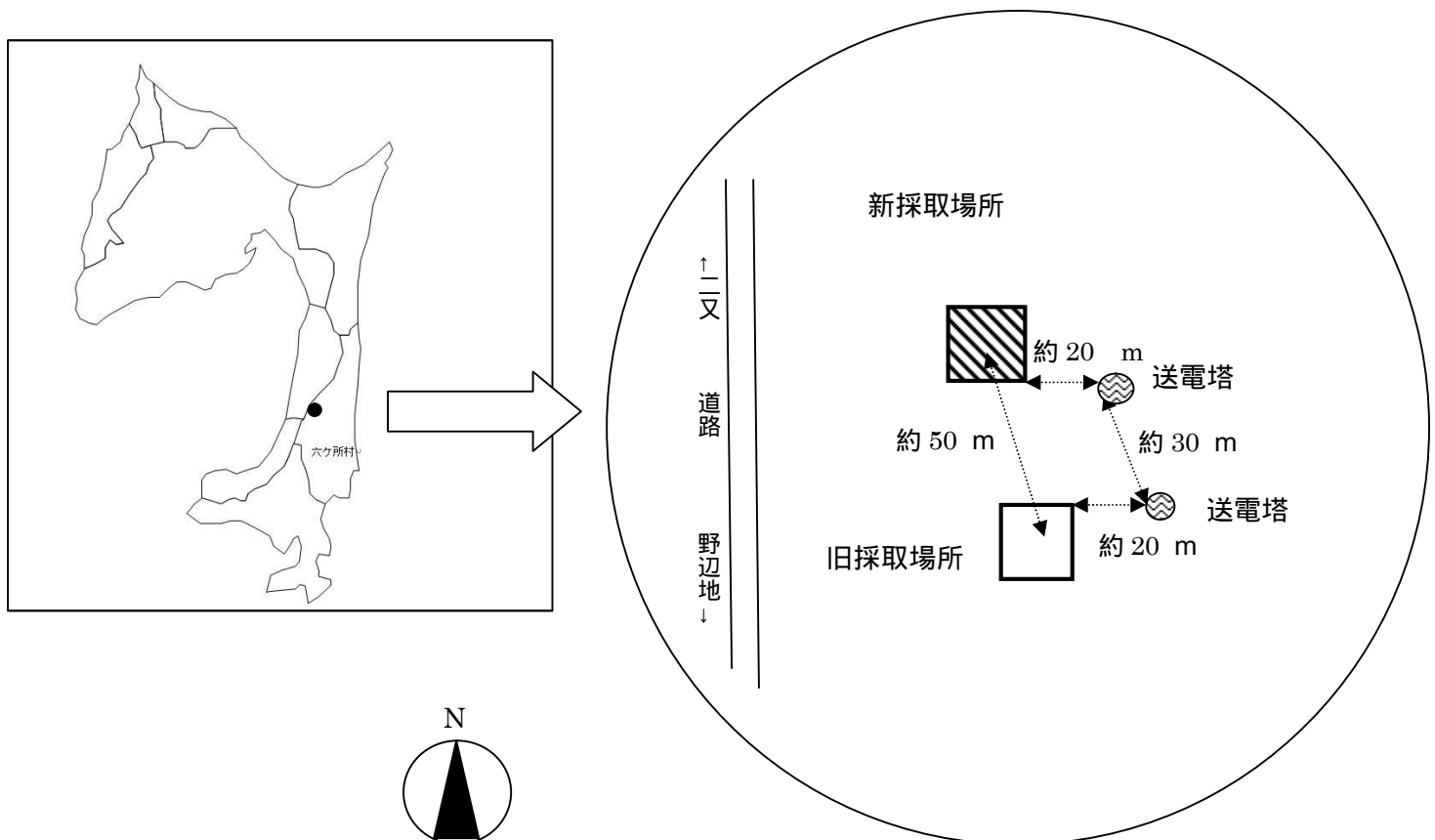


図 1 牧草の新旧採取場所

平成 22 年 7 月 29 日
青森県原子力センター

比較対照（青森市）における表土の調査結果について

1 はじめに

平成 21 年度第 2 四半期の比較対照（青森市）における表土中 ^{137}Cs 、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 及び ^{241}Am 濃度が平常の変動幅を上回った（図 1）ことから、平成 22 年 4 月に表土採取場所の位置を改めて確認し、その場所とその周辺の表土を採取して ^{137}Cs 濃度分布調査を行った。

その結果、平成 21 年度第 2 四半期は通常の採取場所から南側に 10 数 m ずれた ^{137}Cs 濃度が比較的高い場所で表土を採取したことにより、 ^{137}Cs 等の濃度が平常の変動幅を上回ったと考えられる。

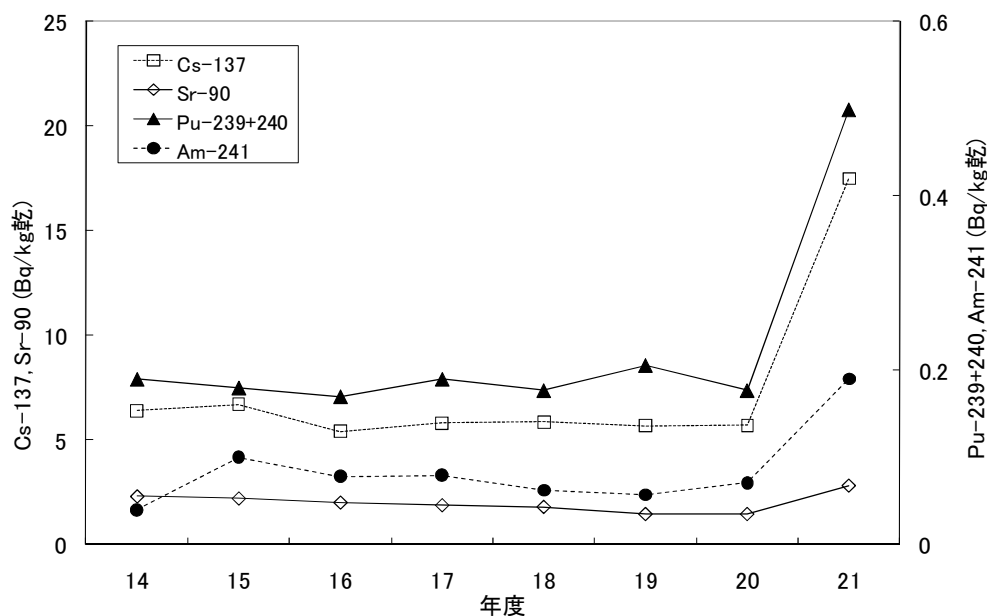


図1 表土(青森市)における人工放射性核種濃度の推移

2 調査方法

通常の採取ポイントは、原子力センターが作成した表土採取地点図どおりに、電柱を基点として南側の 1 本目の立木から東へ 20 m、同様に電柱を基点として東側の 2 本目の立木から南へ 7.6 m 測って決めた表土採取場所 10 × 10 m 四方の 9 ポイントとしている。

今回の調査は、この場所を含む 30 × 30 m 四方の範囲とし、この採取範囲を 5 m メッシュに区切り表層から 5 cm の表土（49 ポイント）を平成 22 年 4 月 20 日に採取した（図 2）。表土はポイントごとに前処理を行いゲルマニウム半導体検出器を用いて γ 線放出核種（ ^{137}Cs ）の分析を行った。

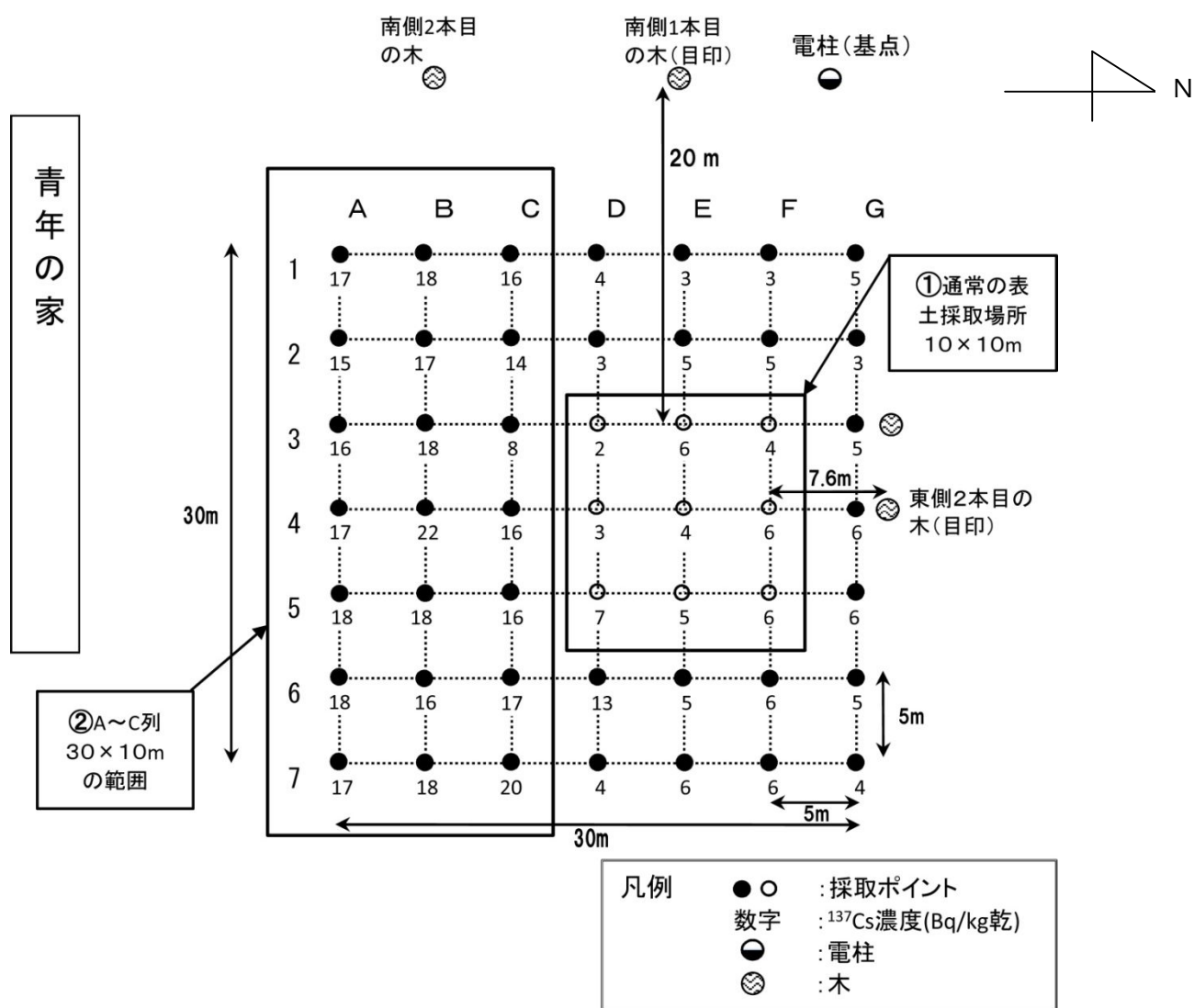


図2 表土の採取位置図及びポイント毎の ^{137}Cs 濃度

3 調査結果と考察

(1) ^{137}Cs 濃度

ポイントごとの表土中の ^{137}Cs 濃度分布を図2に示す。

^{137}Cs 濃度は2~22 Bq/kg 乾であり、北側に位置するD~G列より南側のA~C列の方に高い傾向がみられた。

通常を表土採取場所の ^{137}Cs 濃度は2~7 Bq/kg 乾(図2の○印)、平均値は約5 Bq/kg 乾であり、この平均値は平成14年度から実施してきた値(5~7 Bq/kg 乾)と同じレベルであった(表1)。

一方、A~C列の ^{137}Cs 濃度は8~22 Bq/kg 乾(図2)平均値は約17 Bq/kg 乾であり、平成21年度第2四半期の ^{137}Cs 濃度18 Bq/kg 乾と同じレベルであった(表1)。

(2) 試料の状況

試料の状況を表1に示す。

今回行った通常を表土採取場所における土色は平成14~20年度に採取した表土

に近く、A～C 列の土色は、平成 21 年度第 2 四半期に採取した表土と近いことがわかった。

以上のことから、平成 21 年度第 2 四半期に表土中 ^{137}Cs 等濃度が平常の変動幅を上回ったのは、通常の採取場所から南側に 10 数 m ずれた ^{137}Cs 濃度が比較的高い場所で表土を採取したことが考えられる。

表 1 試料採取場所の ^{137}Cs 濃度分布と土色

調査結果		^{137}Cs 濃度 (Bq/kg 乾) (平均値)	試料数	土色 ² (該当数)
今回調査 (22.4.20)	通常の表土採取場所	2 ～ 7 (5)	9	褐色(2)、暗褐色(2)、黒褐色(5)
	A ～ C 列	8 ～ 22 (17)	21	黒色(20)、暗褐色(1)
参考	平成 14 ～ 20 年度	5 ～ 7	7 ¹	茶、褐色、黒褐色
	平成 21 年度	18	1 ¹	黒色

¹ : 9 ポイントの混合試料

² : 土色については、今回の調査から新版
標準土色帖(2008 年版)で確認している

4 推定原因と今後の対策

通常の採取場所から南側に 10 数 m ずれた場所で表土を採取した原因としては、

- ・電柱の南側には目印としている立木のほかに 10 数 m 離れた場所にも立木があったこと(図 2)
- ・表土採取地点図には電柱から目印としている立木までの距離が記載されていないことや目印としている立木の写真が具備されていなかったこと
- ・東側の 2 本目の立木から採取場所までの距離の確認が徹底されていなかったことにより目印とすべき立木を誤認したことが考えられる。

このようなことから、今後の対策として、以下の措置を講じることとする。

- ・表土採取地点図に電柱から南側の 1 本目の立木と電柱から東側の 2 本目の立木のそれぞれの距離を記載し、目印となる立木の写真を掲載する。
- ・採取時には目印、距離などの位置関係を図として記録し、表土採取の状況について写真を撮影する。
- ・表土採取地点図と採取時の記録を照合し、正しく表土が採取されたことを現地において試料採取者相互で確認する。

5 データの取扱いについて

平成 21 年度第 2 四半期の比較対照(青森市)における表土中 ^{137}Cs 、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 及び ^{241}Am の測定値は、過去の測定値に比べ高い値であるものの、それぞれの濃度の相関関係から環境レベルの変動であると考えられる¹⁾。

今回の調査結果から、平成 21 年度第 2 四半期は通常の採取場所からずれた場所で表土採取したことにより過去の測定値に比べ高い値となったものであることが考えられる。採取場所が通常の場合からずれていたと考えられる測定値を繰り入れて平常の変動幅としてデータのふり分けに用いることは適切でないことから、平成 21 年度第 2 四半期の比較対照（青森市）における表土中 ^{137}Cs 、 ^{90}Sr 、 ^{129}I 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 、 ^{241}Am 、 ^{244}Cm 及びりの測定値については参考値として取り扱い、平常の変動幅に繰り入れないこととする。

○ 平常の変動幅

平常の変動幅については、「平常の変動幅について」（平成 11 年 7 月 23 日 青森県）において、『「平常の変動幅」については、分析測定上の問題、環境の変化、施設からの予期しない放出などの原因調査が必要な測定値（データ）をふり分けるために用いている』としている。

（参考文献）

- 1）原子力施設環境放射線調査報告書（平成 21 年度第 2 四半期報） 青森県
付 1 「比較対照（青森市）における表土中放射性核種測定結果について」

モニタリングポイント桜木町（むつ市）の周辺環境の変化について

1 経緯

平成 21 年 7 月 31 日に原子力センター職員が積算線量測定地点の定期巡視を行ったところ、モニタリングポイント桜木町について、測定場所の周辺にプレハブが設置され、草地に砂利が敷かれているなど周辺環境が変化していることが確認された（写真 1、2 及び図 1）。設置場所を管理している中学校に確認したところ、周辺環境の変化は校舎の耐震補強工事によるものであった。工事は同年 12 月に終了しプレハブは撤去されたが、砂利は敷かれたままである。

○ 工事期間 平成 21 年 7 月 1 日～平成 21 年 12 月 24 日

○ 周辺環境の変化

- ・ 6 月 29 日 プレハブ設置 収納箱後方の草木を撤去して廃材置場とする
- ・ 7 月 15 日 砂利敷設
- ・ 12 月 24 日 プレハブ撤去



写真 1：周辺環境変化前

（平成 21 年 6 月 25 日撮影）



写真 2：周辺環境変化後

（プレハブ設置時）

（平成 21 年 7 月 31 日撮影）



写真 3：周辺環境変化後

（プレハブ撤去後）

（平成 22 年 6 月 1 日撮影）

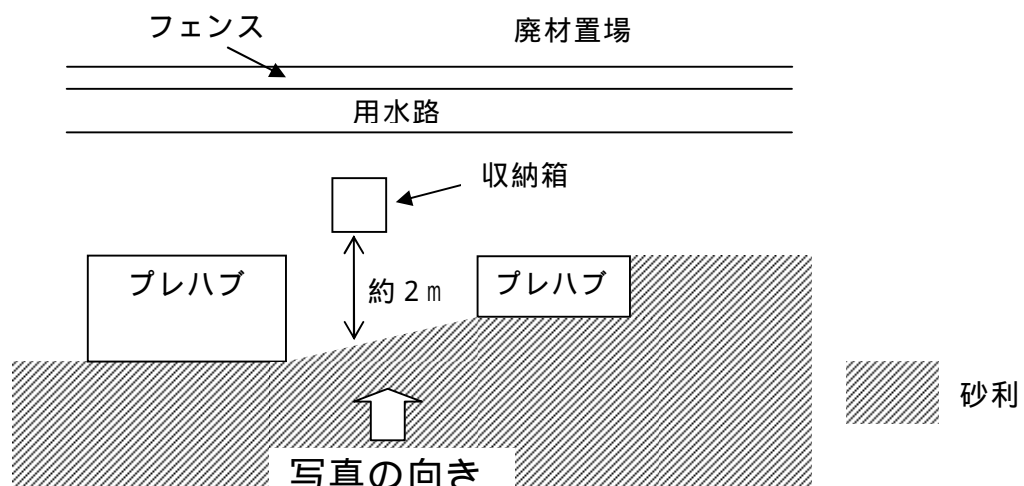


図 1：周辺環境変化後の概略図（プレハブ設置時）

2 平成 21 年度第 2 四半期及び第 3 四半期の積算線量測定結果について

モニタリングポイント桜木町の平成 21 年度第 2 四半期及び第 3 四半期の測定値は表 1 のとおりであり、平常の変動幅の範囲内であったが、過去の同一四半期の測定値の範囲と比較して低い傾向がみられた。

表 1 桜木町における平成 21 年度第 2 四半期及び第 3 四半期の積算線量測定結果

(単位：μGy/91 日)

	設置期間	測定値	平常の変動幅	過去の同一四半期の測定値の範囲
平成 21 年度 第 2 四半期	H21.6.25 ~ H21.9.25 (92 日間設置)	90	76 ~ 96	94 ~ 96
平成 21 年度 第 3 四半期	H21.9.25 ~ H21.12.25 (91 日間設置)	92		92 ~ 96

3 空間放射線量率の測定結果について

NaI スペクトロメータ (Aloka 製 JSM-102) による測定を行い、周辺環境変化前のデータ (平成 18 年 10 月 18 日測定) との比較を行った (表 2)。

G(E)関数法によるプレハブ撤去後の測定値は、プレハブ設置時より 1.6 nGy/h 高く、周辺環境変化前より 0.9 nGy/h 低い値を示した。

測定結果について平均値の差の検定を行ったところ (表 3、4)、周辺環境変化前とプレハブ設置時については平均値に差があり、周辺環境変化前とプレハブ撤去後については測定結果に差はないと考えられる。

表 2 周辺環境変化前後及び工事終了後の空間放射線量率 (単位：nGy/h)

周辺環境		測定 年月日	測定値 (G(E)関数法)	測定方法	備考
変化前		H18.10.18	22.4	降雨がない状況で地上 高さ 1 m において、10 分値を 6 回計測し、平均 値を算出した。	天候：晴のち曇
変化 後	プレハブ設置時	H21.11.12	19.9		天候：曇
	プレハブ撤去後	H22.5.18	21.5		天候：晴

表 3 空間放射線量率の平均値の差の検定結果 (単位：nGy/h)

	データ数	平均値	標準偏差	最大値	最小値	t 値, (0.01)
周辺環境変化前	6	22.4	0.84	23.5	21.2	5.97 > 3.17
プレハブ設置時	6	19.9	0.56	20.6	19.2	

: 2 つの測定結果の平均値に差があるかないかを判定する統計的手法。それぞれの平均値、バラツキ (標準偏差) 等から t 値を算出し、基準値と比較して判定する。

表 4 空間放射線量率の平均値の差の検定結果（単位：nGy/h）

	データ数	平均値	標準偏差	最大値	最小値	t 値 , (0.01)
周辺環境変化前	6	22.4	0.84	23.5	21.2	2.37 < 3.17
プレハブ撤去後	6	21.5	0.35	21.9	21.0	

4 測定値の取扱いについて

測定値については、工事前後において測定地点のバックグラウンドレベルに変化がないと考えられたことから、平常の変動幅に繰り入れることとする。なお、今後当該地点の測定値を検討する際には、平成 21 年度第 2 四半期及び第 3 四半期の測定値に周辺環境の変化による影響があったことに留意することとする。

原子力施設環境放射線調査報告書

(平成21年度第4四半期報)

平成22年8月 発行

編集・発行 青森県原子力センター

〒039-3215 青森県上北郡六ヶ所村大字倉内字笹崎400番1号

電話 0175-74-2251

ホームページURL <http://gensiryoku.pref.aomori.lg.jp/center/>

この印刷物は 500 部作成し、印刷経費は 1 部当たり 284 円です。

